

愛知県埋蔵文化財センター調査報告書 第68集

ぎ ちょう しょう らく じ い せき

儀長正樂寺遺跡

1 9 9 6

財団法人 愛知県埋蔵文化財センター



▲図1 遺跡遠景

儀長正樂寺道跡周辺の航空写真。南側から撮影している。写真中央部に儀長正樂寺道跡。道路の東には三宅川が蛇行して流れる。儀長正樂寺道跡の北側には尾張国分尼寺。三宅川左岸には尾張国分寺が所在する。

なお、右上を斜めに横切る鉄道は東海道新幹線。

◀図2 遺跡近景

今回の調査地点を西から撮影した。





◀ 口絵3 井戸

今回の発掘調査で最も明瞭に検出できたのは、鎌倉・室町時代の居住域となる。写真は、星敷地中に設定された井戸(SE01)。井戸枠の構造は複板組隅柱横枝どめ。井戸枠内から灰釉系陶器などが出土している。



◀ 口絵4 SK18遺物出土状況

この土坑は、93区中央部から検出された。南側の一帯が平安時代末～鎌倉時代の溝により破壊されている。多量の遺物が出土したのが特色とする。なお、土坑内での同一個体の出土位置は上下にばらつきを有しており、この土坑が短時間で埋まっていることを予測させる。



◀ 口絵5 SK18

SK18より出土した土器群。写真左側の淨瓶は器高27cmをかる。良好な一括資料といえる。

序

愛知県稻沢市は、肥沃な濃尾平野のほぼ中央部分に位置します。現在では名古屋市のベットタウンとして発展を続けていますが、この街は歴史的にも古代においては国府や国分寺、中世においては尾張守護所が設置されるなど、尾張國の中核部として繁栄した場所でもあります。

このたび、(財)愛知県埋蔵文化財センターでは県道馬飼・井堀線建設に伴う、儀長寺通遺跡の発掘調査を、愛知県の委託事業として実施致しました。

その結果、先人の生活・文化に関するいくつかの貴重な知見を得ることができました。そして、今回これらをまとめ、報告書として刊行するにいたりました。本書が歴史資料として広く活用され、埋蔵文化財に関するご理解を深める一助となれば幸いに存じます。

なお、文末で恐縮ではありますが、発掘調査の実施に当たりましては、地元住民の方々を始め関係諸機関及び関係者から多大なご指導とご協力をいただいております。深く感謝を申し上げる次第であります。

平成8年3月

財団法人 愛知県埋蔵文化財センター

理事長 安 部 功

例　　言

1. 本書は愛知県稲沢市に所在する儀長正楽寺遺跡（『愛知県遺跡地図』（I）尾張地区による遺跡番号は9027、9028、9153）の発掘調査報告書である。
2. 発掘調査は愛知県土木部が進めている県道馬飼～井堀線の建設に先立つもので、愛知県土木部より愛知県教育委員会を通じ委託を受けた財團法人愛知県埋蔵文化財センターが実施した。
3. 調査期間は平成6年3月と平成6年9月～平成7年3月である。
4. 発掘調査は平成5・6年度をこれにあて、平成5年度を大竹正吾（本センター主査、現佐織町立西川端小学校教諭）・前田雅彦（本センター主査）・池本正明（本センター調査研究員）、平成6年度を福岡晃彦（本センター課長補佐）・水谷寛明（本センター主査）・池本正明が担当した。
5. 調査に際しては、次の機関から指導・協力を受けた。
愛知県教育委員会文化財課・愛知県埋蔵文化財調査センター・愛知県土木部・稲沢市教育委員会
6. 遺物の整理・製図などについては、次の方々の協力を得た。
石川倫子・大藤妙子・河合征治・河野美佳子・杉田記久子・竹之内芳美・田口雄一・田中由紀子・中西和子・野村信生・水野多栄・山内富正・山田由紀夫・吉兼千絵
(五十音順・敬称略)
7. 本書をまとめるにあたっては、以下の方々にご教示、ご協力を得た。
愛甲昇寛・天野暢保・内田智久・小嶋廣也・柴垣勇夫・城ヶ谷和広・新行紀一・立松彰・橋崎彰一・日野幸治・北條獻示・三宅唯美・森達也（五十音順・敬称略）
8. 石材鑑定は、堀木真美子（本センター調査研究員）の肉眼観察による。
9. 本書で使用する色調名は1989年度版　『新版標準土色帳』小山正忠・竹原秀雄編に依拠した。
10. 調査区の座標は、建設省告示の平面直角座標VII系に準換した。
11. 本書の編集は池本正明が担当し、執筆は前田雅彦・水谷寛明・池本正明・鬼頭剛（センター調査研究員）・水野多栄（本センター調査研究補助員）がこれにあたった。
12. 調査に関する資料はすべて愛知県埋蔵文化財調査センターで保管している。

目 次

| | |
|--------------------|----|
| 第1章 はじめに | 1 |
| (1) 調査の経過と経緯 | 1 |
| (2) 環境と周辺の遺跡 | 4 |
| 第2章 遺構 | 6 |
| (1) 基本層序 | 6 |
| (2) 遺構 | 7 |
| ① 古墳時代の遺構 | 8 |
| ② 奈良・平安時代の遺構 | 12 |
| ③ 平安時代末～鎌倉・室町時代の遺構 | 13 |
| ④ 江戸時代の遺構 | 26 |
| 第3章 遺物 | 31 |
| (1) 土器・陶器 | 31 |
| ① 弥生時代～古墳時代前期の土器 | 31 |
| ② 古墳時代の土器 | 32 |
| ③ 奈良・平安時代の土器 | 34 |
| ④ 平安時代末～鎌倉・室町時代の土器 | 36 |
| ⑤ 江戸時代の土器 | 43 |
| (2) そのほかの土器・土製品 | 46 |
| ① 製塩土器 | 46 |
| ② 土鍤 | 46 |
| ③ 陶丸 | 46 |
| ④ 加工円盤 | 49 |
| ⑤ 瓦 | 49 |
| (3) 石製品 | 50 |
| (4) 木製品 | 51 |
| (5) 金属製品 | 53 |
| 第4章 考察 | 54 |
| (1) 儀長正樂寺遺跡の地形・地質 | 54 |
| 第5章 まとめ | 56 |
| (1) 主要遺構の変遷 | 56 |
| (2) 出土遺物の検討 | 61 |
| 付表 | 65 |

挿図目次

| | | | |
|---------------|----|-----------------------|----|
| 図1 調査進行表 | 1 | 図15 弥生時代～古墳時代の土器 | 31 |
| 図2 調査区位置図 | 3 | 図16 須恵器杯の分類 | 35 |
| 図3 周辺の主要遺跡 | 5 | 図17 灰陶系陶器碗・小皿、土師器皿の分類 | 36 |
| 図4 層位模式図 | 6 | 図18 近世土器 | 45 |
| 図5 土坑A・B | 7 | 図19 そのほかの土器・土製品 | 46 |
| 図6 SB01・SB02 | 8 | 図20 加工円盤 | 47 |
| 図7 NR01断面図 | 11 | 図21 瓦 1 | 48 |
| 図8 挖立柱建物 | 14 | 図22 瓦 2 | 49 |
| 図9 SE01 | 16 | 図23 石製品 | 50 |
| 図10 SE02・SE04 | 17 | 図24 木製品 | 52 |
| 図11 SE07・SE08 | 19 | 図25 金属製品 | 53 |
| 図12 SE10 | 21 | 図26 儀長正来寺遺跡の位置と周辺の地形 | 55 |
| 図13 SD変遷図 1 | 27 | 図27 遺構変遷図 1 | 58 |
| 図14 SD変遷図 2 | 29 | 図28 遺構変遷図 2 | 59 |



図版目次

| | | | |
|------|--------|------|-------|
| 図版 1 | ・図版割付図 | 図版20 | ・土器11 |
| 図版 2 | ・遺構 1 | 図版21 | ・遺構 1 |
| 図版 3 | ・遺構 2 | 図版22 | ・遺構 2 |
| 図版 4 | ・遺構 3 | 図版23 | ・遺構 3 |
| 図版 5 | ・遺構 4 | 図版24 | ・遺構 4 |
| 図版 6 | ・遺構 5 | 図版25 | ・遺構 5 |
| 図版 7 | ・遺構 6 | 図版26 | ・遺構 6 |
| 図版 8 | ・遺構 7 | 図版27 | ・遺構 7 |
| 図版 9 | ・遺構 8 | 図版28 | ・遺構 8 |
| 図版10 | ・土器 1 | 図版29 | ・遺構 9 |
| 図版11 | ・土器 2 | 図版30 | ・遺構10 |
| 図版12 | ・土器 3 | 図版31 | ・遺構11 |
| 図版13 | ・土器 4 | 図版32 | ・遺構12 |
| 図版14 | ・土器 5 | 図版33 | ・遺物 1 |
| 図版15 | ・土器 6 | 図版34 | ・遺物 2 |
| 図版16 | ・土器 7 | 図版35 | ・遺物 3 |
| 図版17 | ・土器 8 | 図版36 | ・遺物 4 |
| 図版18 | ・土器 9 | 図版37 | ・遺物 5 |
| 図版19 | ・土器10 | 図版38 | ・遺物 6 |

口絵

| | |
|------|-------------|
| 口絵 1 | ・遺跡遠景 |
| 口絵 2 | ・遺跡近景 |
| 口絵 3 | ・井戸 |
| 口絵 4 | ・SK18遺物出土状況 |
| 口絵 5 | ・SK18遺物 |

付表

| |
|----------|
| 主要遺構計測一覧 |
| 遺物計測一覧 |



この地図は国土地理院発行の
20万分の1 地勢図「名古屋」
を使用したものである

第1章 はじめに

(1) 調査の経過と経緯

愛知県土木部道路建設課では、県道馬飼・井堀線建設を計画したが、この予定用地内には古代の寺院跡である『正樂寺跡』、室町一戦国時代の城跡である『儀長城跡』、古墳時代～近世にかけての集落遺跡である『儀長寺通遺跡』が所在しており、事前に発掘調査を実施し、記録保存する必要性が認められた。このため、新県道建設に先だって発掘調査が計画され、愛知県土木部より愛知県教育委員会をとおして委託を受けた財團法人愛知県埋蔵文化財センターがこれを実施した。

調査は、平成5年度～6年度の2ヶ年にわたり、地下水位の低下する冬季に実施した。調査手順調査の総面積は5630m²となり、これを5地区に分割実施した。平成5年度には、調査区東端にあたる1地区のみの460m²、平成6年度には4地区5170m²を調査した。付け加えるならば、平成6年度の4地区的面積の内訳は、A区：732m²、B区：1314m²、C区：1492m²、D区：1632m²となる。なお、調査に要した日程などは、図1に示した工程による。

調査方法は、現地表面から表土のみをバック・ホウにより除去したのち、建設省告示によって定められた平面直角座標第VII系に準拠した5mグリッドを設定し、手掘りで包含層を掘削して遺構を検出する方法をとった。遺構測量については、ヘリコプターによる航空写真測量を実施し、調査区全面の1/50基本平面図を作成したほか、重要部分については補助測量図を手掘りにより実施した。

今回の調査区は図3に示すように東西に長く設定してあることから、『正樂寺跡、儀長城 遺跡名称跡』(北條 1985)と、西側に近接する『儀長寺通遺跡』の境界部分に該当している。しかし本センターの調査の結果、調査区内では有機的なまとまりをもって遺構が展開していたため(池本 1995b、池本他 1994a)、これら2遺跡は一連のものである可能性を考えることができた。こうした状況を整理するため、本センター調査課課長中川真文と、稲沢市教育委員会社会教育課主査北條献氏が協議し、「儀長正樂寺遺跡」として呼称することでまとまった。なお、今後周辺地域の調査が進行した段階で同様の事が指摘できるのであれば、これら2遺跡を同一の遺跡として把握することも射程に入れたものである。

| 年 度 | 担 当 者 | 調 査 区 | 期 间 |
|-----|-------------------------------|-------|----------|
| 93 | 大 竹 正 吾 前 田 雅 彦 池 本 正 明 | | 1 ⇒ 3月 |
| 94 | 水 谷 寛 明 池 本 正 明 | A | 12 ⇒ 1月 |
| | | B | 9 ⇒ 10月 |
| | | C | 11 ⇒ 12月 |
| | | D | 1 ⇒ 3月 |

図1 調査進行表

また、調査に参加いただいた方々は、以下の通りである。

浅野文善、飯野香代子、石黒美佐子、伊藤とよ、榎垣美登里、今井春義、今田利彦、岩田明美、岩本三季子、上田茂寿、上田利子、内園洋子、奥田美由岐、各務則子、垣見和昭、片岡健二、片野百合子、加藤悟子、鎌田智子、黒谷日佐子、小崎暢子、後藤栄次、後藤喜久江、近藤洋子、酒井敏子、桜井乃布香、柴山香代子、柴山まさえ、新海澄子、杉田千代子、杉原利明、関田美千代、竹川美知子、棚橋豊子、田深多美子、東松道昭、徳永悟士、中村幸一、西村澄子、橋口為義、羽田野明美、服部富子、服部三枝子、服部礼二、久田友子、日比芳子、平野加奈子、平野比芦子、平林八寿子、藤井美代子、堀田真理子、松田典子、三輪美恵子、百瀬詔子、森清和、森本千歳、森律子、山崎久美子、山田由起夫、山田芳美、山之内なつ子、山本真紀子、雪松町子、渡辺康子

学生

内藤菜穂子（愛知学院大学）、加藤優子（名古屋女子大学）、河合征治（三重大学）新海洋規（名古屋経済大学）、田口雄一（花園大学）、富田智恵（豊田短期大学）富水晶子（佛教大学）、中島新治（花園大学）、中村晋也（三重大学）、野村信生（日本大学）、堀田真理子（愛知淑徳大学）、山内富正（佛教大学）、吉兼千絵（同朋大学）、吉田由香（敦賀女子短期大学）
(五十音順・敬称略)



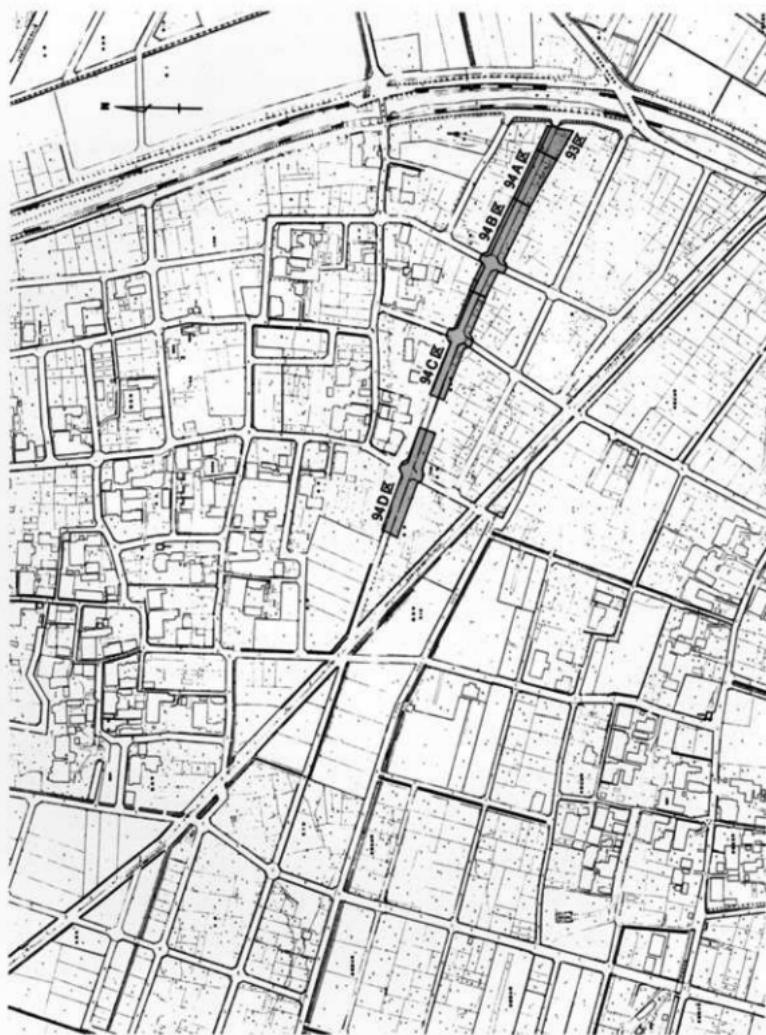


図2 調査区位置図（1：2000）

(2) 環境と周辺の遺跡

地形

東西と北の三方を山に囲まれ、揖斐・長良・木曽の3川によってうるおされる濃尾平野は、そこに分布する多数の遺跡が物語るように、古くから肥沃な平野として開発されてきた。低く平らな沖積平野の上を自由に流れるこれらの河川は、洪水のたびに流路を変えてきた。川は洪水の氾濫によって、上流から運んできた砾や砂泥を河道の周囲と河川の先の冲合に堆積させて、平野をつくっていく。木曽川下流には川がつくった堆積平野（河成堆積平野）がよく発達し、扇状地帯、自然堤防地帯、三角州地帯といった典型的な堆積地形がみられる。木曽川の扇状地は大きく、平野北東端の谷口に当たる大山を扇頂として半径12~13kmの四分円を描く。扇状地の下流には、勾配0.5~0.8/1000の平坦な自然堤防地帯がひろがっている。前述のように木曽川も現在の位置に定まる以前、幾度となく流路を変えたため自然堤防と後背湿地が複雑に錯綜した地域を形成しているのがこの自然堤防地帯である。そして木曽川の支流である三宅川もその旧流路としての景観がみられる。三宅川は、一宮市市街地から稻沢市に至って南下する間に大きく4回蛇行を繰り返す。最後の蛇行を終えて、流路を南西に向ける辺りの右岸の自然堤防上に、「儀長正樂寺遺跡」は所在する。調査区域の現況は畠地および農道で、畠地は苗木栽培に利用されている。この地は、苗木栽培では全国でも有数の産地であり、地場産業の確固たる地位を占めている。地籍は稻沢市儀長町佛塚・前南で、標高は約2.5mをはかる。

周辺の遺跡

遺跡の周辺には、西方1.0~1.5kmに弥生時代中期末の集落遺跡である「一色青海遺跡」（一色青海町・儀長町・中島郡平和町須ヶ谷）・「一色長畑遺跡」（一色長畑町）・「跡ノ口遺跡」（一色跡ノ口町）が所在する。一方、三宅川の対岸には「堀之内花ノ木遺跡」（堀之内町）・「尾張国分寺」（矢合町）、さらに北1.2kmには「尾張国分尼寺」（法花寺町）、そして北東3.5kmに位置する稻沢市松下一丁目には尾張大国靈神社が存在することから「尾張國府」に推定されている。以上のことからも古代尾張地域の行政的な中心地として、この地域が発達していたことが伺える。

本遺跡は、古代には「正樂寺」（儀長町元薬師）、中世には「儀長城」（儀長町同）が存在したと伝承をもつ地域とされている。前者の正樂寺は、尾張国分寺の四至に設定された四樂寺の一つで、尾張国分寺から西方へ0.6~1.0kmの距離を有する。後者の儀長城は「片原一色城」（片原一色町）の支城として、在地勢力である「織本伊賀守」の一族または家臣が居住していたとされている。織本氏は、南朝に属した武将で、のち、応永（1394~1428）の頃から8代180年余ここに居住し、4つの支城（儀長城の他に矢合城・井堀城・三宅城）を持ったとされる。5代目的一把（いっぽ）は、織田信長の鉄砲師範をつとめ、その子道一は、豊臣秀吉が朝鮮に出兵したとき、鉄砲頭として従軍したといわれる。元和元年（1615）一国一城令により、片原一色城と共に廃城となった。すなわち、儀長城は室町~江戸時代初頭までこの地に岡城として存在していたことになろう。なお、儀長城は、本城である片原一色城からは南東2.0kmに位置する。

（前田雅彦）

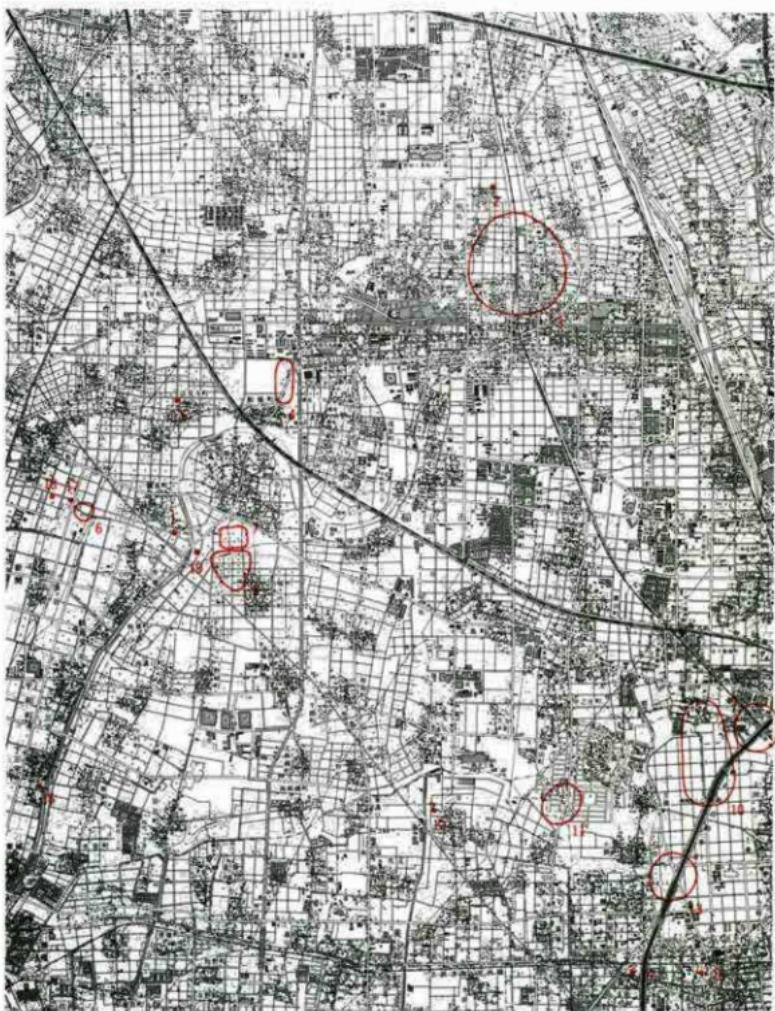


図3 周辺の主要遺跡（1:50000）

*この地図は国土地理院発行の2万5千分の1地形図「一宮」・「清州」を使用したものである。

凡例

| | | | |
|-----------|------------|-----------|-----------|
| 1 鶴長正高寺遺跡 | 6 一色旁海遺跡 | 11 森南遺跡 | 16 三宅唐寺 |
| 2 東塔寺 | 7 草原國分寺 | 12 二ノ寺遺跡 | 17 一色長保遺跡 |
| 3 犬張國府 | 8 堀之内花ノ木遺跡 | 13 阿休院寺遺跡 | 18 犬ノ口遺跡 |
| 4 船橋宮廐遺跡 | 9 眼鏡遺跡 | 14 大糸遺跡 | 19 大糸遺跡 |
| 5 尾張國分尼寺 | 10 土田遺跡 | 15 善目寺 | |

第2章 遺構

(1) 基本層序

今回設定した調査区の基本的な層位は、表土層（1層）、オリーブ褐色粘質土層（2層）、黄褐色粘質土層（3層）である。今回の遺構検出面は黄褐色粘質土層上面となる。調査地点の地表面の標高は2.5m前後をはかるが、A区、D区ではこれより若干低くなる。この状況は、遺構検出面でもおおむね一致しており、遺跡の位置する微高地の地形とよく整合している。

なお、今回の調査区は作業開始直前の地目が植木の苗畑であった関係上、場所によっては地表面から2～3m程度まで及ぶ天地返しが実施されており、この部分については遺構は完全に消滅している。また、調査区に並行する中央の農道は、地面を削平して建設された道路で、周囲の畠地と50cm程度の比高差が認められる。このためこの部分は、掘り込みが浅い遺構はすでに消滅していることが予想できる。

以下、調査区の基本的な層序を上層から順に説明を加える。

| 各層の内容 | | 1層 | 基本的には遺跡の覆土である。全体に軟質で、厚さはほぼ10cm程度。古代～近世の陶磁器片などに混ざって、現代のビニール片などを含む。 |
|-------|----|---|---|
| | 2層 | 厚さは10～20cm程度で、調査区全域に分布しない。いわゆる遺物包含層で、炭化物、焼土ブロックのほか、3層ブロックなども混入する。 | |
| | 3層 | 厚さは不明。上面が遺構検出面となる。 | |

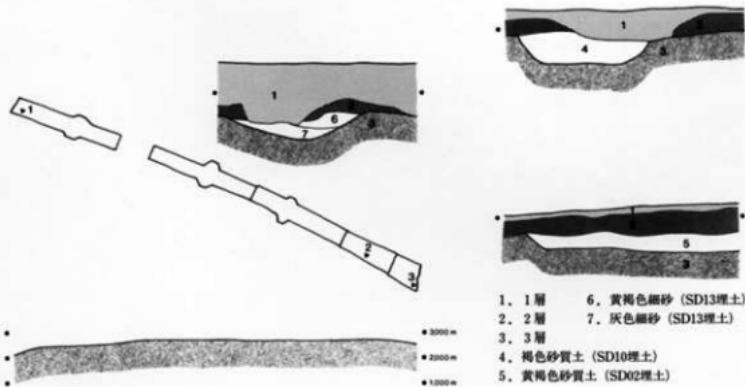


図4 層位模式図（断面図は1:40）

(2) 遺構

今回検出した遺構は、竪穴住居、掘立柱建物、井戸、柵、土坑、溝などがみられる。分 布状況は93区、94A区が濃密で、西側ほど希薄となる。

各種の遺構

次にこれを時期別に整理すると、古墳時代と奈良・平安時代、鎌倉時代、江戸時代にまとまりをみることができる。まず、古墳時代の遺構は、竪穴住居、土坑、溝を検出している。遺構の分布範囲は、93区、94A区が濃密、94C・94D区が希薄となる。次に奈良・平安時代の遺構であるが、検出できた遺構は乏しく、土坑が数基検出されているにとどまる。また、鎌倉・室町時代の遺構は、堀立柱建物・井戸・土坑・溝で構成される遺構群となる。全面に溝による方格地割が設定され、調査区には屋敷地が構成される。江戸時代の遺構は、鎌倉・室町時代の地割りを継承する形で、数条の溝を確認している。このほか主軸方位の異なる溝が、一部前者の溝を破壊して3条確認されている。

以下、各々の遺構について時期別に報告するが、これらのうち、土坑については、形状などによっていくつかのまとまりを指摘することができる。今回はこれを土坑A～Dと4

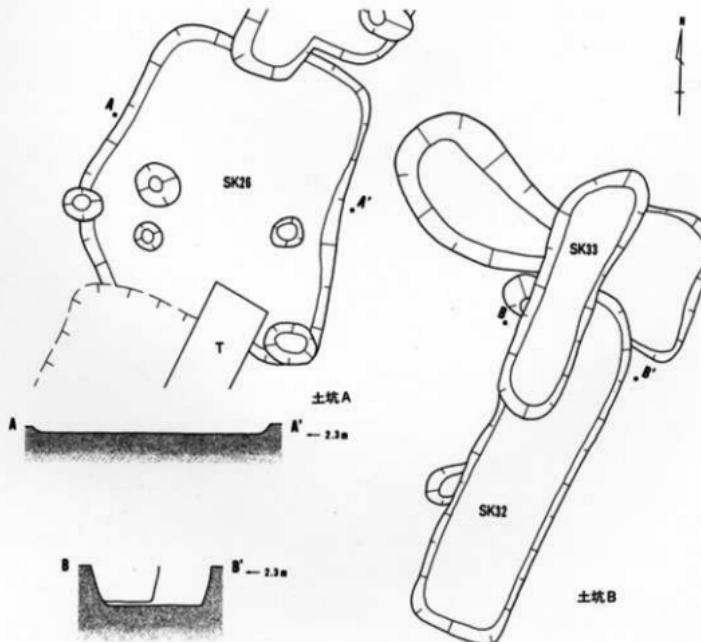


図5 土坑A・B (1:50)

土坑の種類 つに区分して報告する。まず、土坑Aは、プランが正方形を呈し、竪穴住居に類似したものを呼称する。ただし、柱穴や竈などは確認できない。埋土は基本的に単一。総数12基を検出している。分布状況は、93区、94A区、同B区に集中する傾向がみられる。次に土坑Bは、プラン隅丸長方形の土坑を呼称する。壁面は多くが垂直で、埋土は基本的に単一となる。また、主軸方向の類似がみられる。総数11基を検出している。分布状況は、93区、94A区、同B区の範囲のみに存在する。時期はいずれも縄文・室町時代に属する。次に土坑Cは、大量の遺物が出土する土坑で、埋土は基本的に単一。土器の廃棄に関連する可能性が強い。2基検出している。最後に、そのほかの土坑を土坑Dとしてまとめる。従って土坑Dには明瞭な傾向を窺うことはできない。

① 古墳時代の遺構

A期の遺構

古墳時代の遺構は、竪穴住居、土坑A、土坑D、溝がある。分布状況は93区、94A同B区に集中する傾向がある。

竪穴住居

竪穴住居は2棟検出した。

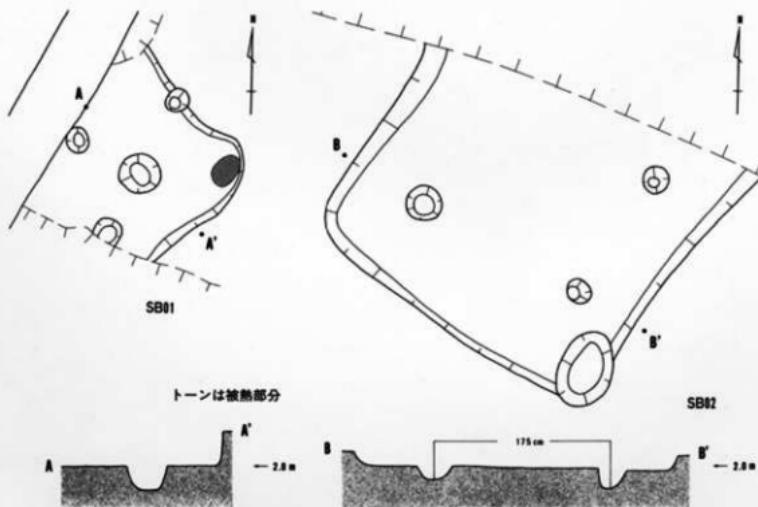


図6 SB01・02 (1 : 50)

SB01

93区の南西部で検出した。調査時に設定したトレーナによって西側の一部分が、耕作によって南側が破壊されるため規模は不明。検出面からの深さは0.1mをはかる。北西のコーナー部分が若干突出し、この部分の底面が被熱する。竈と考えられる。出土遺物には須恵器杯（図版10—1）などがある。

SB02

94D区の中央部で検出した。南側の一部を現代埋設管により破壊される。プランは一辺3.3mの隅丸方形を呈する。検出面からの深さは0.2mをはかる。また、南東のコーナー部分が突出し、底面の一部が被熱していた。竈と考えられる。主柱穴は三ヶ所確認した。出土遺物には土師器甕（図版10—2）などがある。

土坑A

土坑Aは5基確認した。

SK01

93区東部で検出した。南側をSD02に切られ、西側を「天地返し」により破壊される。残存する一辺の中央部は突出するが、この部分には被熱が確認できない。出土遺物には須恵器杯（図版10—3）などがある。

SK02

94A区東部で検出した。東側は鎌倉・室町時代の土坑に切られる。なお、北側は現代の排水溝が所在するため、調査不能となる。出土遺物は須恵器杯、甕（図版10—4、5）などがある。

SK03

94A区部で検出した。東側はSK35に切られる。なお、北側は、現代の排水溝が所在するため、調査不能となる。形状はやや不整形となる。出土遺物には土師器片などがある。

SK04

94C区中央部で検出した。南半分は調査区外となり、北側をSD36、37に切られる。出土遺物には須恵器、土師器の小片がある。

SK05

94C区中央部で検出した。北側を道路面により破壊され、南側は調査区外となる。規模は大きい。出土遺物には須恵器杯、高杯、土師器甕（図版10—6～15）などのほか、金属製品（図25—3）がある。

土坑C

土坑Cは1基確認した。

儀長正樂寺遺跡

SK06

94B区中央部で検出した。西側をSD11により切られる。プランは隅丸方形を呈する。検出面での一辺は1.7mで、埋土は基本的に單一。須恵器甕一個体(図版11-16)などが出土したのを特色とする。

土坑D

土坑Dは10基確認した。

SK07

93区中央部で検出した。東側をSK32により切られる。プランは楕円形か。検出面での長径は0.4mをはかる。出土遺物には土師器高杯(図版11-17)がある。

SK08

94A区東部で検出した。南側が調査区外となる。プランは円形か。検出面での長径は1.4mをはかる。出土遺物には土師器壺(図版11-18)などがある。

SK09

94A区西部で検出した。プランは隅丸長方形を呈する。検出面での長辺は1.4mをはかる。出土遺物には須恵器高杯(図版11-19)などがある。

SK10

94B区東部で検出した。東側をトレンチにより破壊される。プランは円形を呈する。検出面での長径は1.1mをはかる。出土遺物には須恵器杯、土師器甕(図版11-20~22)などがある。

SK11

94B区東部で検出した。南側が調査区外となる。形状は不整形。出土遺物には須恵器杯、土師器甕(図版11-23~25)などがある。

SK12

94B区中央部で検出した。プランは円形を呈する。検出面での直径は0.4mをはかる。出土遺物には土師器甕(図版12-26)などがある。

SK13

94C区東部で検出した。プランは円形を呈する。検出面での直径は0.4mをはかる。出土遺物には須恵器杯、甕、土師器甕(図版12-27~32)などがある。

SK14

94C区中央部で検出した。南側が調査区外となる。検出面での一辺は2.3mをはかる。プランは隅丸方形を呈するのか。出土遺物には須恵器高杯、土師器甕(図版12-33、34)などがある。

SK15

94D区東部で検出した。南側が調査区外となる。プランは楕円形か。短径は0.5mをはかる。

る。出土遺物には土師器壺（図版12-35）などがある。

SK16

94D区東部で検出した。SE07により北側の一部が切られる。プランは楕円形を呈する。検出面での長径は2.1mをはかる。出土遺物には土師器高杯（図版12-36）などがある。

溝

溝は1条確認した。

SD01

94B区のNR01底部で検出した。全長は3.0mをはかる。南側は調査区内部で埋結する。検出面での幅は0.8~1.0m。出土遺物には須恵器・土師器片などがある。

谷地形

自然地形であるがここで扱う。

NR01

94B区中央部分で検出した。B区の約50パーセントを占有する。古墳時代のうちに自然埋没し、埋土上面には同時代の遺構も掘削されている。埋土は黄褐色砂質土でほぼ単一となる。なお底面には、SD01のほかに多数の土坑Dが検出されている。出土遺物には須恵器・土師器片などがある。



図7 NR01断面図 (94B区南壁 1:80)

② 奈良・平安時代の遺構

B期の遺構 奈良・平安時代に属する遺構は乏しく、若干の土坑が検出したに留まる。検出できた遺構には土坑A、土坑C、土坑Dがある。

土坑A

土坑Aは1基確認した。

SK17

93区中央部で検出した。西側をSD06により切られ、SK19の西側を切る。残存する一辺の中央部は突出するが、この部分には被熱が確認できない。出土遺物には灰釉陶器椀（図版14-103、104）などがある。

土坑C

土坑Cは1基確認した。

SK18

93区東部で検出した。プランは円形。南側をSD03により切られる。検出面での直径は2.0m、検出面からの深さが、0.5m程度の規模となる。埋土は基本的に単一。多量の須恵器が出土したのを特色とする。なお、土坑内の同一個体の出土位置は上下にばらつきを有しており、この土坑が短時間で埋まっていることを予測させる。出土遺物には多量の須恵器、土師器（図版13-56~87、図版14-88~102）などがある。

土坑D

土坑Dは6基報告する。

SK19

93区中央部で検出した。プランは楕円形か。東側をSK30に西側をSK17に切られる。出土遺物には須恵器杯（図版14-105）などがある。

SK20

94B区西部で検出した。プランは楕円形を呈する。検出面での長径は0.5mをはかる。出土遺物は製塙土器（図版19-1）がある。

SK21

94B区西部で検出した。プランは楕円形を呈する。検出面での長径は1.5mをはかる。出土遺物には須恵器杯（図版14-106）などがある。

SK22

94B区西部で検出した。プランは楕円形を呈する。検出面での長径は1.1mをはかる。出土遺物には須恵器蓋（図版14—107）などがある。

SK23

94C区東部で検出した。プランは円形を呈する。検出面での長径は0.5mをはかる。出土遺物には須恵器短頸壺（図版14—108）などがある。

SK24

94C区東部で検出した。プランは楕円形を呈する。検出面での長径は1.0mをはかる。出土遺物には須恵器杯（図版14—109）などがある。

③ 平安時代末～鎌倉・室町時代の遺構

鎌倉・室町時代の遺構には掘立柱建物、櫛、井戸、土坑A、土坑B、土坑D、溝などがある。
C期の遺構

掘立柱建物

掘立柱建物については細長い調査区の形状に合わせ、前述したように基盤層の擾乱が全体的に著しいため、充分に検出できていない可能性を残す。確認できたのは6棟である。時期決定に情報が乏しく、若干の躊躇を残すものであるが、方位が後述する溝の軸線と一致していることを理由に、すべてこの時期に含めて報告する。なお、柱穴と同規模の土坑は、93区西部～94A区東部に集中する傾向にある。

SB03

94A区東部で検出した。規模は 2×2 。柱穴数は8基。SB04と接する。柱通りはよくない。柱穴埋土中から灰釉系陶器片などが出土している。

SB04

94A区東部で検出した。規模は 2×3 。柱穴数は8基。SB03と接する。柱通りはよくない。柱穴埋土中から灰釉系陶器広口瓶、小碗（図版15—115、116）などが出土している。

SB05

94A区西部で検出した。規模は 1×2 。柱穴数は6基。柱穴埋土中から灰釉系陶器片などが出土している。

SB06

94B区西部で検出した。規模は 2×3 。柱穴数は9基。柱通りはよくない。柱穴埋土中から灰釉系陶器椀、小皿（図版15—117、118）などが出土している。

SB07

94B区西部で検出した。規模は 1×2 。柱穴数は5基。柱通りはよくない。柱穴埋土中から灰釉系陶器椀（図版15—119）などが出土している。

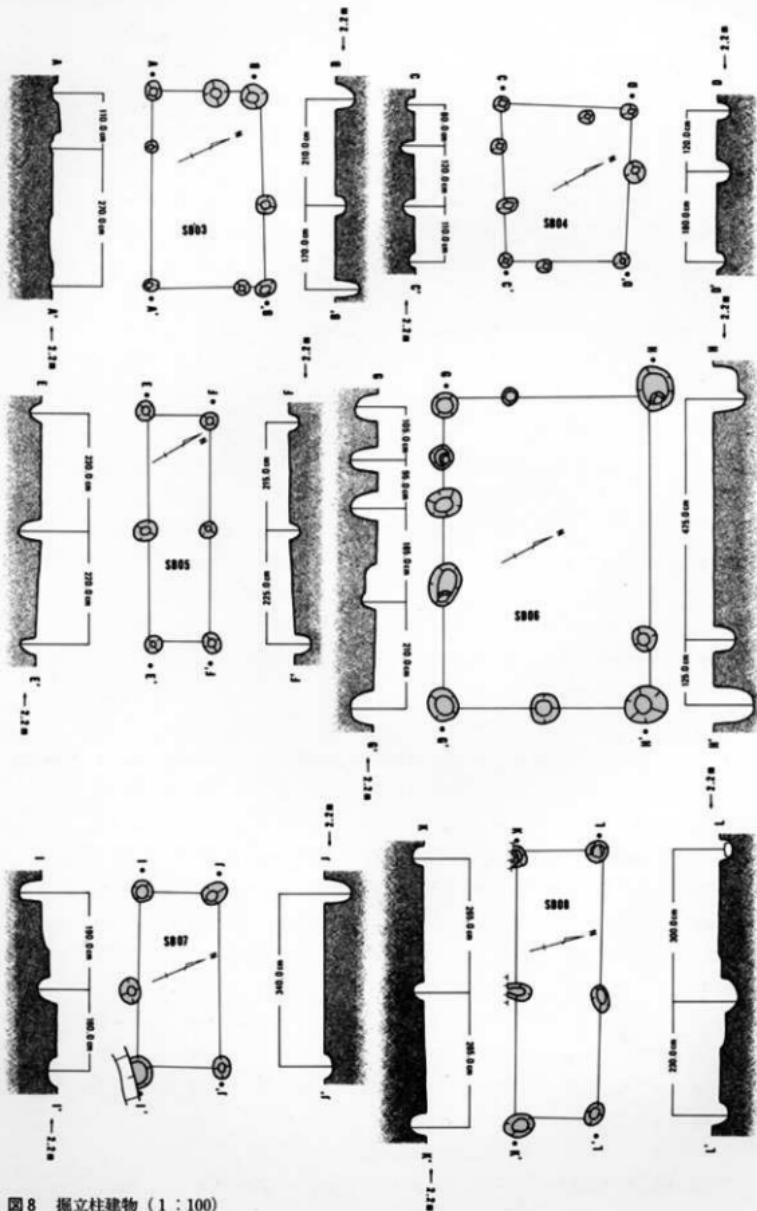


図8 挖立柱建物 (1 : 100)

SB08

94D区西部で検出した。規模は 1×2 。柱穴数は6基。SA02と近接し、主軸がこれと一致する。出土遺物は得られなかつたが、埋土の特徴などからこの時期に含めた。

柵

2条検出している。掘立柱建物と同様の理由で、すべてこの時期に含めて報告する。なお、やはり掘立柱建物と同様に調査区内に未検出の柵が存在した可能性が考えられる。

SA01

94D区で検出した。柱穴数は5基。SB08の東側に位置する。全長7.4mを検出した。各柱穴の中心からはかる柱間は、東から1.9m、2.3m、1.8m、1.4m。出土遺物は須恵器片が認められるのみであるが、埋土の特徴などからこの時期に含めた。

SA02

94D区で検出した。柱穴数は6基。SB08に近接し、主軸がこれと一致する。全長13.2mを検出した。土坑Dにより柱穴が一か所掘り取られた可能性を残す。各柱穴の中心からはかる柱間は、東から2.5m、2.1m、4.5m、1.5m、2.6m。出土遺物は得られなかつたが、埋土の特徴などからこの時期に含めた。

井戸

11基確認できた。基本的には井戸枠を持つ形状となる。

SE01

94A区西部で検出した。掘り方の長径は6.1mとやや大規模となる。形状は壁面の角度がなだらかな、擂鉢状を呈する。また、底部には井戸枠が残存している。構造は、縦板組隅柱桟どめ（宇野1982）となる。なお、中央部には曲物が一段設置されていた。曲物の上部には、管状の植物質が直立した状態で出土したが、民俗事例にみる井戸魔除儀礼に関連するものであるかは判断できない。枠材以外の出土遺物には灰釉系陶器碗、小皿、鉢、土師器皿、鍋、貿易陶磁碗（図版15-120～161）などのほか、金属製品（図25-1）、加工円盤（図20-1～3）がある。

大規模な
井戸

SE02

94A区西部で検出した。掘り方の長径は3.0mをはかる。南半分は調査区外となり、西側をSD28により破壊される。底部には井戸枠が残存し、構造は、縦板組隅柱桟どめとなる。なお、中央部には曲物が一段設置されていた。枠材以外の出土遺物には灰釉系陶器碗、小皿、土師器鍋（図版16-162～171）などがある。

SE03

94B区中央部で検出した。ほぼ中央に現代の水路が設置され、調査不能となる。底部に

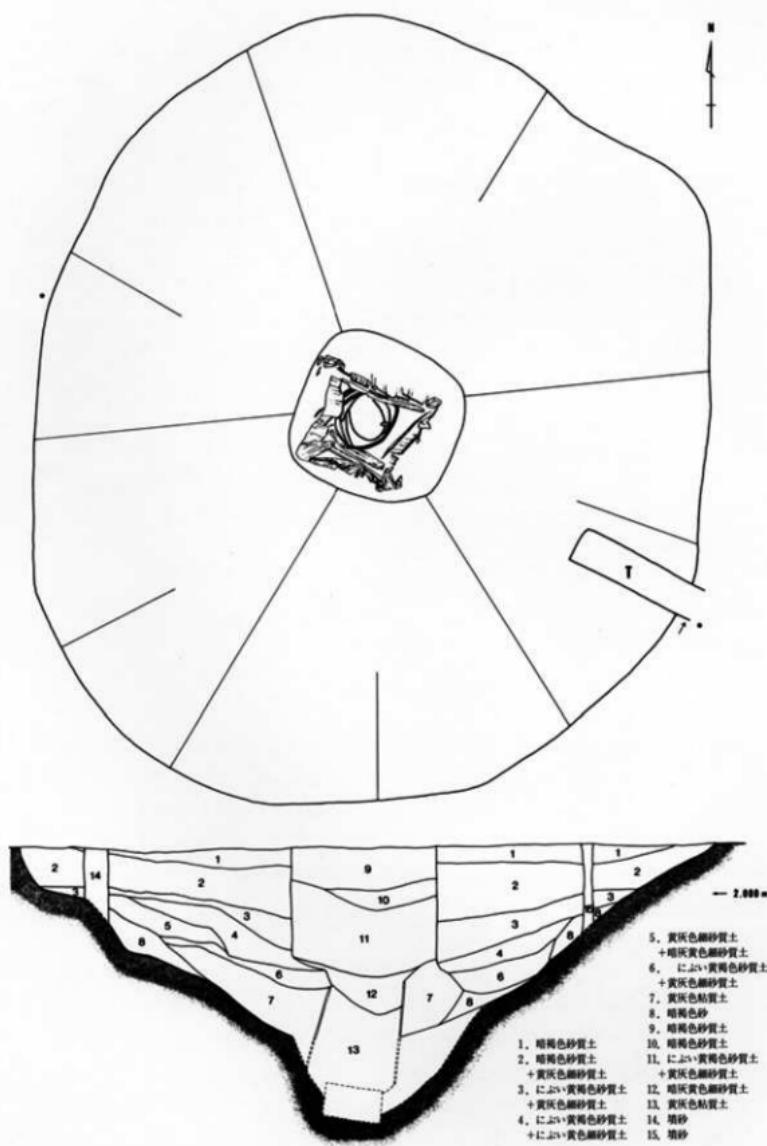


図9 SE01 (1 : 40)

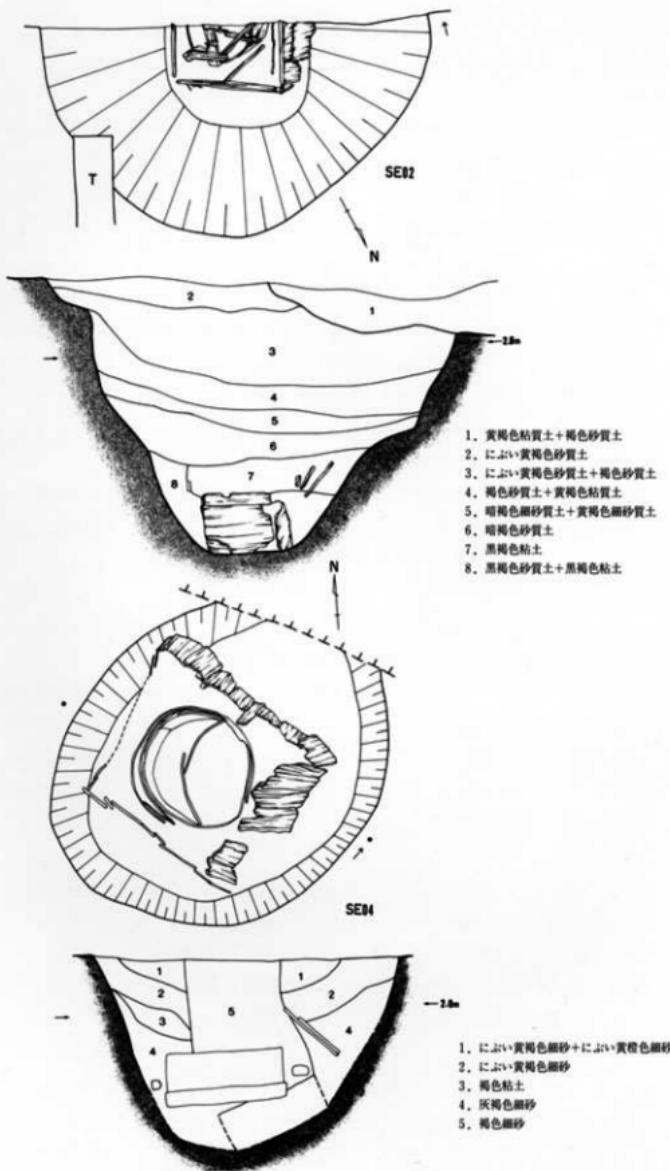


図10 SE02・04 (1 : 40)

儀長正樂寺遺跡

は井戸枠が確認できないが、埋土の観察からこれが抜き取られた可能性を考えることができる。出土遺物には灰釉系陶器椀、小皿、壺（図版16—172～184）などがある。

SE04

94B区西南部で検出した。北側の一部を現代埋設管によって破壊される。掘り方はやや楕円形で、短径は2.3mをはかる。底部には井戸枠が残存し、構造は、縦板組横柱枠どめとなる。なお、中央部には曲物（図24—1）が二段設置されるが、下段は風化が著しい。枠材以外の出土遺物には灰釉系陶器小皿（図版16—185、186）などのほか、金属製品（図25—2）がある。

SE05

94C区北東部で検出した。北側の一部が調査区外となる。掘り方はやや楕円形で短径は2.1mをはかる。井戸枠が確認できないが、埋土の観察からこれが完全に抜き取られた可能性を考えることができる。また、底面には小土坑が確認でき、曲物の痕跡である可能性を残す。出土遺物には灰釉系陶器片などがある。

SE06

94C区中央部で検出した。掘り方の長径は1.0mをはかる。小型となるが、底部が湧水層まで達していることから井戸と判断した。井戸枠は確認できない。出土遺物は須恵器、土師器の小片が確認できただけだが、埋土などの特徴からこの時期に含めた。

SE07

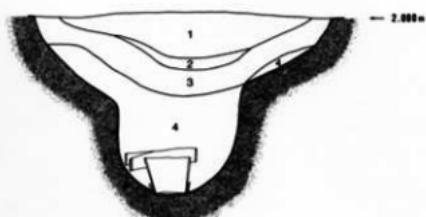
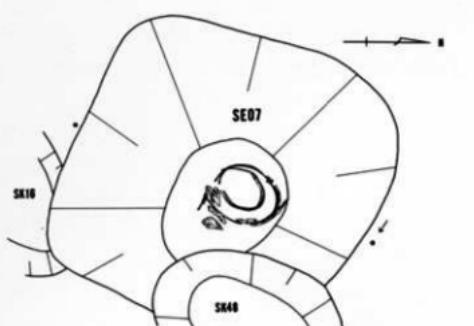
94D区東部で検出した。東側の一部をSK48に切られる。掘り方の長径は2.4mをはかる。井戸枠は確認できないが、埋土の観察からこれが抜き取られた可能性を考えることができる。中央部には曲物が二段設置されるが、全体に風化が著しい。出土遺物には灰釉系陶器椀、小皿、羽釜、土師器鍋（図版16—187～200）などがある。なお、井戸枠抜取り坑の埋土中から拳大～人頭大程度の河原石が数点出土している。石材は砂岩、凝灰岩、結晶片岩となる。また、曲物の脇には、管状の植物質が直立した状態で出土しているが、SE01と同様に民俗事例にみる井戸廃絶儀礼に関連するものであるかは判断できない。

SE08

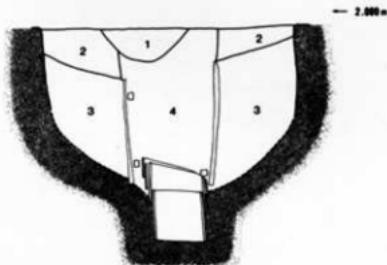
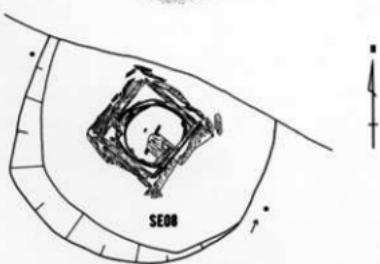
94D区東部で検出した。掘り方の長径は2.0mをはかる。北側が現代埋設管のため破壊される。底部には井戸枠が残存している。構造は縦板組横柱枠どめとなる。なお、中央部には曲物が設置されていた。曲物（図24—2～5）は入れ子状に二段重ね、木製のくさびを打って固定する。枠材以外の出土遺物には灰釉系陶器椀（図版16—201）などのほか陶丸（図19—10～11）、加工円盤（図20—4～7）がある。

SE09

94D区南西部で検出した。南側の一部が調査区外となる。掘り方の長径は0.5mをはかる。井戸枠は確認できないが、埋土の観察からこれが抜き取られた可能性を考えることができる。底面には小土坑が確認でき、曲物の痕跡である可能性を残す。南半分は調査区外となる。出土遺物は得られなかったが、埋土などの特徴からこの時期に含めた。



1. 黒褐色細砂質土
2. 單褐色細砂質土
3. 黒褐色細砂質土
4. 黒褐色粘土



1. にじい黄褐色細砂質土
2. 單褐色粘質土
3. 黑褐色粘質土
4. 黑褐色粘土

図11 SE07・08 (1 : 40)

SE10

94D区南西部で検出した。SD24を切り、南側の一部が調査区外となる。掘り方の短径は0.8mをはかる。井戸枠は確認できないが、埋土の観察からこれが抜き取られた可能性を考えることができる。なお、中央に曲物（図24-6）が二段設置されるが、下段は風化が著しい。枠材以外の出土遺物には灰釉系陶器椀、壺、甕（図版16-202～205）などがある。

SE11

94D区西部で検出した。掘り方の直径は0.8mをはかる。小型となるが、底部が湧水層まで達していることから井戸と判断した。井戸枠は確認できない。出土遺物は得られなかつたが、埋土などの特徴からこの時期に含めた。

土坑A

土坑Aは5基確認した。

SK25

93区東部で検出した。東側が調査区外、北側は現代の排水溝が所在するため調査不能となる。出土遺物は確認できなかったが、埋土の特色とSD04を切っていることからこの時期に含めた。

SK26

93区と94A区の境界で検出した。プランはややゆがむ隅丸長方形を呈する。南側の一部を現代の天地返しにより破壊される。検出面での長辺は2.9mをはかる。出土遺物には灰釉系陶器椀、小皿、鉢、土師器皿（図版17-206～210）などがある。

SK27

94A区と94B区の境界部で検出した。南側は現代の排水溝が所在するため調査不能となる。出土遺物には土師器皿（図版17-211）などがある。

SK28

94A区東部で検出した。北側は現代の排水溝が所在するため調査不能となる。検出面での短辺は3.1mをはかる。出土遺物には灰釉系陶器椀、小皿、土師器皿、貿易陶磁椀、皿（図版17-212～231）などのほか、土鍤（図19-4、5）がある。

SK29

94B区東部で検出した。北側は現代の排水溝が所在するため調査不能となる。検出面の一辺は3.0mをはかる。出土遺物には灰釉系陶器片などがある。

土坑B

土坑Bは11基確認した。

土坑Bの
様相

SK30

93区西部で検出した。西側がSK19を切る。検出面での長辺は2.8mをはかる。出土遺物には灰釉系陶器片などがある。

SK31

94A区東部で検出した。北側は現代の排水溝が所在するため調査不能となる。検出面での短辺は0.9mをはかる。出土遺物は須恵器、土師器の小片が確認できたのみだが、形状、埋土などの特徴からこの時期に含めた。

SK32

93区西部で検出した。北側をSK33に切られ、西側がSK07を切る。検出面での長辺は3.7mをはかる。出土遺物には灰釉系陶器片などがある。

SK33

93区西部で検出した。南側がSK33を切る。検出面での長辺は2.7mをはかる。出土遺物は須恵器、土師器の小片が確認できたのみだが、埋土などの特徴からこの時期に含めた。

SK34

93区西部で検出した。北側の一部は現代の排水溝が所在するため調査不能となる。検出面での長辺は5.1mをはかる。出土遺物には灰釉系陶器楕(図版17-232~234)などがある。

SK35

94A区東部で検出した。SK03の東側を切り、SB03と重複する。北側は現代の排水溝が所在するため調査不能となる。検出面での短辺は1.0mをはかる。出土遺物には灰釉系陶器片などがある。

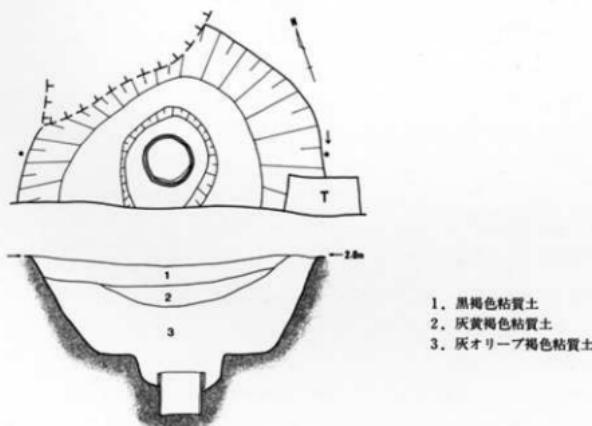


図12 SE10 (1 : 40)

SK36

94A区中央部で検出した。南側が調査区外となる。検出面での短辺は2.0mをはかる。出土遺物には灰釉系陶器片などがある。

SK37

94A区中央部で検出した。検出面での長辺は2.9mをはかる。出土遺物には灰釉系陶器碗、小皿（図版17-235～237）などがある。

SK38

94A区中央部で検出した。北側は現代の排水溝が所在するため調査不能となる。検出面での短辺は1.0mをはかる。出土遺物は須恵器、土師器の小片が確認できたのみだが、形状、埋土などの特徴からこの時期に含めた。

SK39

94A区西部で検出した。検出面での長辺は0.3mをはかる。出土遺物には灰釉系陶器片などがある。

SK40

94A区西部で検出した。検出面での長辺は3.9mをはかる。出土遺物には灰釉系陶器片などがある。

土坑D

土坑Dは10基報告する。

SK41

93区西部で検出した。西側と東側を耕作により破壊される。プランは不整形。出土遺物には灰釉系陶器小皿（図版17-238）などがある。

SK42

94A区東部で検出した。プランは円形を呈する。検出面での直径は1.0mをはかる。出土遺物には灰釉系陶器小碗（図版17-239）などがある。

SK43

94A区東部で検出した。プランは梢円形を呈する。検出面での長径は0.5mをはかる。出土遺物には灰釉系陶器碗（図版17-240）などがある。

SK44

94A区東部で検出した。プランは梢円形を呈する。検出面での長径は0.5mをはかる。出土遺物には貿易陶磁碗（図版17-241）などがある。

SK45

94A区中央部で検出した。プランは梢円形を呈する。検出面での長径は0.5mをはかる。出土遺物には貿易陶磁碗（図版17-242）などがある。

SK46

94A区中央部で検出した。プランは円形を呈する。検出面での直径は0.4mをはかる。出土遺物には灰釉系陶器碗（図版17-243～245）などがある。

SK47

94C区東部で検出した。プランは不整形。東側をSD14に切られる。出土遺物には灰釉系陶器小皿（図版17-246）などがある。

SK48

94D区東部で検出した。西側がSE07を切り、北側は調査区外となる。プランはやや歪む楕円形か。灰釉系陶器碗（図版17-247～249）などがある。

SK49

94D区西部で検出した。東側をSD24に切られる。出土遺物には灰釉系陶器短頸壺（図版17-250）などがある。

SK50

94D区西部で検出した。SD24を切り、南側を現代埋設管により破壊される。出土遺物には灰釉系陶器碗（図版17-251、252）がある。

溝

溝は26条確認した。

SD02

93区東部で全長8.7mを検出した。東側を天地返しにより破壊される。検出面での幅は0.7～1.0mをはかる。出土遺物には灰釉系陶器碗、小皿、壺（図版18-253～265）などのはか加工円盤（図20-8）がある。

SD03

93区東部で全長13.6mを検出した。中央で直角に屈曲するが、南側は天地返しにより上面を破壊される。検出面での幅は1.2～1.7mをはかる。出土遺物には灰釉系陶器碗（図版18-266）などがある。

SD04

93区東部で全長7.2mを検出した。中央で直角に屈曲する。東側をSK25によって切られ、北側は天地返しにより破壊される。検出面での幅は0.4～0.9mをはかる。出土遺物には灰釉系陶器碗（図版18-267～269）などのはか砥石（図23-1）がある。

SD05

93区中央部で全長7.7mを検出した。SD06の南北ラインと並行し、北端は調査区内で帰結する。検出面での幅は0.7～1.3mをはかる。出土遺物には灰釉系陶器碗、小皿（図版18-270～274）などのはか加工円盤（図20-9）がある。

SD06

93区中央部で全長12.9mを検出した。中央で直角に屈曲する。南北ラインはSD05と平行するが、東西ラインは現代排水溝直下のため不明となる。検出面での幅は0.7~1.1mをはかる。出土遺物には灰釉系陶器椀、小皿、壺、貿易陶磁椀（図版18-275~283）などのほか加工円盤（図20-10、11）がある。

SD07

94区東部で全長14.5mを検出した。調査区内で蛇行する。検出面での幅は0.8~1.4mをはかる。出土遺物には灰釉系陶器椀（図版18-284）などがある。

SD08

94A区東部で全長13.7mを検出した。SD07と同様に調査区内で蛇行する。検出面での幅は0.9~1.4mをはかる。出土遺物には灰釉系陶器椀、小皿、壺、土師器皿、貿易陶磁椀（図版18-285~302）などがある。

SD09

94A区中央部で全長8.1mを検出した。南側は調査区内で帰結するが、北側は現代擾乱により破壊され不明。SD10と平行する。検出面での幅は0.9~1.2mをはかる。出土遺物は須恵器、土師器片のみだが、埋土の特徴からこの時期に含めた。

SD10

94A区中央部で全長13.7mを検出した。SD09と平行する。検出面での幅は1.6~2.0mをはかる。出土遺物には灰釉系陶器椀、小皿、土師器皿、鍋、貿易陶磁椀、皿（図版19-303~333）などのほか加工円盤（図20-12）がある。

SD11

94B区中央部で全長13.1mを検出した。SK06を切る。検出面での幅は0.4~1.2mをはかる。出土遺物には灰釉系陶器椀（図版19-334、335）のほか、施釉陶器などがある。

SD12

94B区中央部で全長4.7mを検出した。北側は調査区内で帰結する。検出面での幅は0.7~0.9mをはかる。出土遺物には灰釉系陶器椀（図版19-336~338）などがある。

SD13

94B区中央部で全長21.3mを検出した。一部を現代の農業用水埋設管設置により破壊され、SE03を切る。検出面での幅は0.9~3.7mをはかる。出土遺物には灰釉系陶器椀、小皿、貿易陶磁椀（図版19-339~346）などがある。

SD14

94C区東部で全長12.0mを検出した。SD15と並行する。検出面での幅は2.0~3.7mをはかる。出土遺物には灰釉系陶器椀、小皿、土師器羽釜、貿易陶磁椀（図版19-347~363）などがある。

SD15

94C区東部で全長3.1mを検出した。SD14と並行する。北端は調査区中央の道路面造成に

より削平される。検出面での幅は0.6mをはかる。出土遺物には灰釉系陶器碗(図版20-364)などがある。

SD16

94C区中央部で全長11.4mを検出した。SD34、35と平行する。また、SD36、37と直交し、これらに切られる。北端は調査区中央の道路面造成により削平される。検出面での幅は0.5~1.6mをはかる。出土遺物は得られなかったが、埋土の特徴、遺構の重複関係からこの時期に含めた。

SD17

94C区西部で全長4.3mを検出した。SD18、19と平行する。北側は調査区内で帰結し、南側は現代の農業用水埋設管設置により破壊される。検出面での幅は0.2~0.6mをはかる。出土遺物には灰釉系陶器片などがある。

SD18

94C区西部で全長2.8mを検出した。SD17、19と平行する。北側を土坑Dに、南側をSD40により切られる。検出面での幅は0.2~0.4mをはかる。出土遺物は得られなかったが、埋土の特徴、遺構の重複関係からこの時期に含めた。

SD19

94C区西部で全長4.2mを検出した。南側はSD40に切られる。検出面での幅は2.3~2.5mをはかる。出土遺物には灰釉系陶器碗(図版20-365)などがある。

SD20

94C区西部で全長3.8mを検出した。SD39と平行し、これに切られる。南東部は調査区内部で帰結する。検出面での幅は0.5~0.8mをはかる。出土遺物には灰釉系陶器碗、施釉陶器折縁深皿(図版20-366~368)などがある。

SD21

94D区東部で全長6.8mを検出した。北西端は現代の農業用水埋設管設置により破壊される。検出面での幅は0.6~0.9mをはかる。出土遺物は得られなかったが、埋土の特徴からこの時期に含めた。

SD22

94D区東部で全長17.7mを検出した。一部を現代の農業用水埋設管設置により破壊される。SD23、41、42と並行し、これらに切られる。検出面での幅は0.7mをはかる。出土遺物には陶丸(図19-12)のはか、灰釉系陶器片などがある。

SD23

94D区中央部で、全長16.5mを検出した。一部を現代の農業用水埋設管設置により破壊される。SD22、41と並行し、このうちSD22を切り、SD41に切られる。検出面での幅は0.7~1.2mをはかる。出土遺物は得られなかったが、埋土の特徴、遺構の重複関係からこの時期に含めた。

SD24

94D区中央部で全長11.8mを検出した。一部を現代の農業用水埋設管設置により破壊され、南側をSE10、中央をSK50に切られ、北側ではSK49を切る。検出面での幅は0.3~0.8mをはかる。出土遺物には灰釉系陶器碗（図版20-369、370）などがある。

SD25

94D区中央部で全長3.8mを検出した。南側は調査区内で帰結する。検出面での幅は0.4~0.8mをはかる。出土遺物には灰釉系陶器碗（図版20-371~373）などがある。

SD26

94D区西部で全長10.7mを検出した。SD27と平行する。現代攪乱により南側を破壊される。検出面での幅は0.4~0.9mをはかる。なお、この溝以西は検出面とした3層上面が落ち込み、微高地の西端を示している。出土遺物は得られなかったが、埋土の特徴からこの時期に含めた。

SD27

94D区西部で全長12.3mを検出した。SD26と平行する。検出面での幅は1.8~2.1mをはかる。出土遺物には灰釉系陶器碗、貿易陶磁壺（図版20-374~382）などのほか陶丸（図19-13、14）、砾石（図23-3）がある。

④ 江戸時代の遺構

D期の遺構 江戸時代の遺構は、溝を確認したに留まる。これらは調査区の全域で検出しているが、調査区を南北に横切る数本の現道の直下に集中する傾向がうかがえる。

溝

溝は16条確認した。

SD28

94A区中央部で、全長12.9mを検出した。SD29、30と並行し、これらを切る。検出面での幅は2.4~2.6mと、やや規模が大きい。出土遺物には近世土器（図18-1~5）、加工円盤（図20-13~15）などがある。

SD29

94A区中央部で、全長12.9mを検出した。SD28、30と並行し、後者を切り、前者に切られる。検出面での幅は0.3~1.0mをはかる。出土遺物には近世土器（図18-6）などがある。

SD30

94A区中央部で、全長12.8mを検出した。SD28、29と並行し、これらに切られる。検出面での幅は0.3mをはかる。出土遺物は確認できなかったが、埋土の特徴、遺構の重複関係

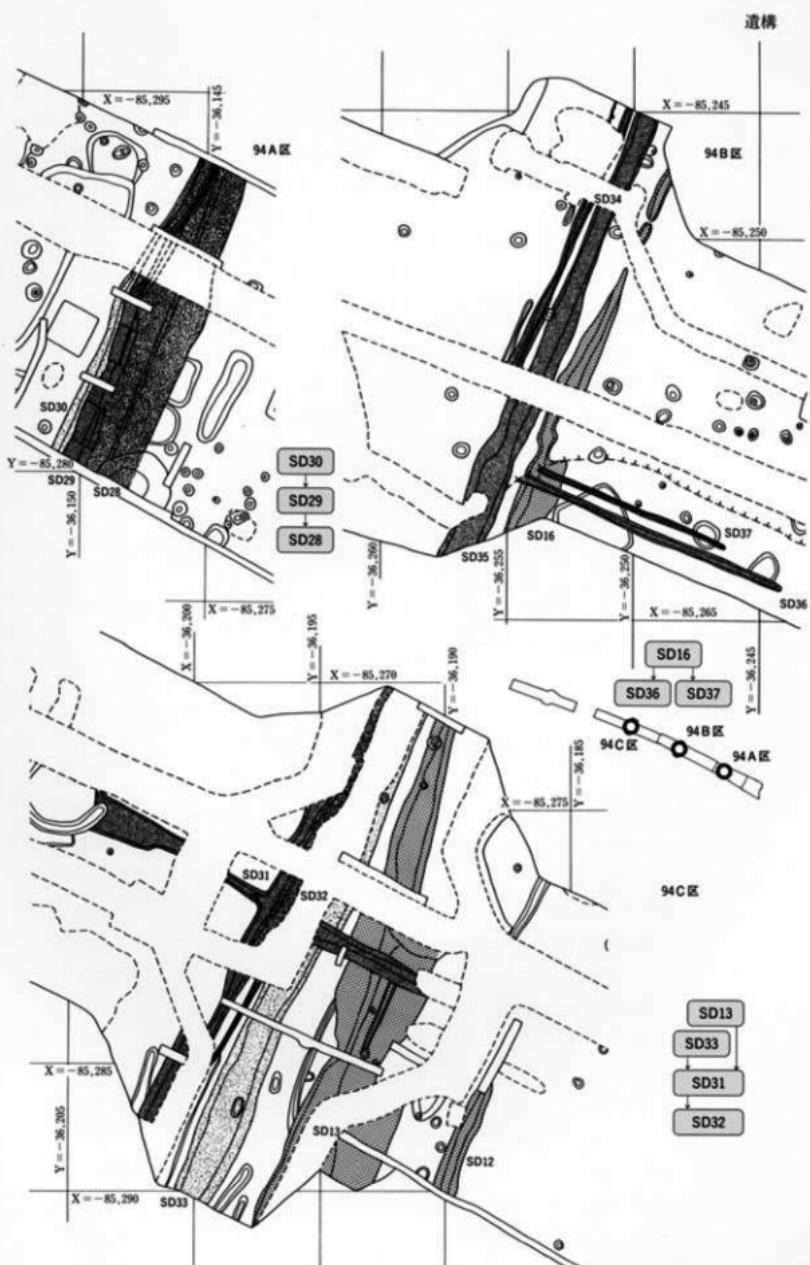


図13 SD変遷図 1 (1 : 200)

などからこの時期に含めた。

SD31

94B区中央部で、東西14.5m、南北14.5mを検出した。直交する2条の溝だが、埋土・形状などに差異がみられないことから、同時期と判断し、同一に扱う。SD13、33を切り、SD32に切られる。検出面での幅は0.4~1.0mをはかる。出土遺物には近世土器(図18-7)などがある。

SD32

94B区中央部で、全長16.5mを検出した。ほとんどが現代の農業用水埋設管設置により破壊される。SD31の南北方向と並行し、これを切る。検出面での幅は0.2mをはかる。出土遺物には近世土器(図18-8、9)などがある。

SD33

94B区中央部で、全長21.2mを検出した。ほとんどが現代の農業用水埋設管設置により破壊されるほか、SD31の東西方向に切られる。検出面での幅は1.6~1.9mをはかる。出土遺物には近世土器(図18-10、11)などがある。

SD34

94C区中央部で、全長11.2mを検出した。SD35、SD16と並行する。南端は現代の農業用水埋設管設置により破壊されるが、調査区内部で帰結する。検出面での幅は0.2~0.4mをはかる。出土遺物は確認できなかったが、埋土の特徴からこの時期に含めた。

SD35

94C区中央部で、全長18.6mを検出した。SD34、SD16と並行する。検出面での幅は0.7~1.5mをはかる。出土遺物には近世土器(図18-12)などがある。

SD36

94C区中央部で、全長11.2mを検出した。SD37と並行する。SD16と直交し、これを切る。検出面での幅は0.3~0.4mをはかる。出土遺物には近世土器(図18-13~21)などのほか加工円盤(図20-16)、金属製品(図25-5)がある。

SD37

94C区中央部で、全長8.0mを検出した。SD36と並行する。SD16と直交し、これを切る。検出面での幅は0.2~0.3mをはかる。出土遺物は確認できなかったが、埋土の特徴、遺構の重複からこの時期に含めた。

SD38

94C区西部で、全長9.8mを検出した。SD39、40と並行し、前者を切る。検出面での幅は0.6~0.7mをはかる。西側は調査区内で帰結する。出土遺物は加工円盤(図20-17)のはかは確認できなかったが、埋土の特徴、遺構の重複からこの時期に含めた。

SD39

94C区西部で、全長21.3mを検出した。SD20、SD38、SD40と並行し、前者を切り、後二者に切られる。検出面での幅は3.2~3.6mとやや規模が大きい。出土遺物には近世土器

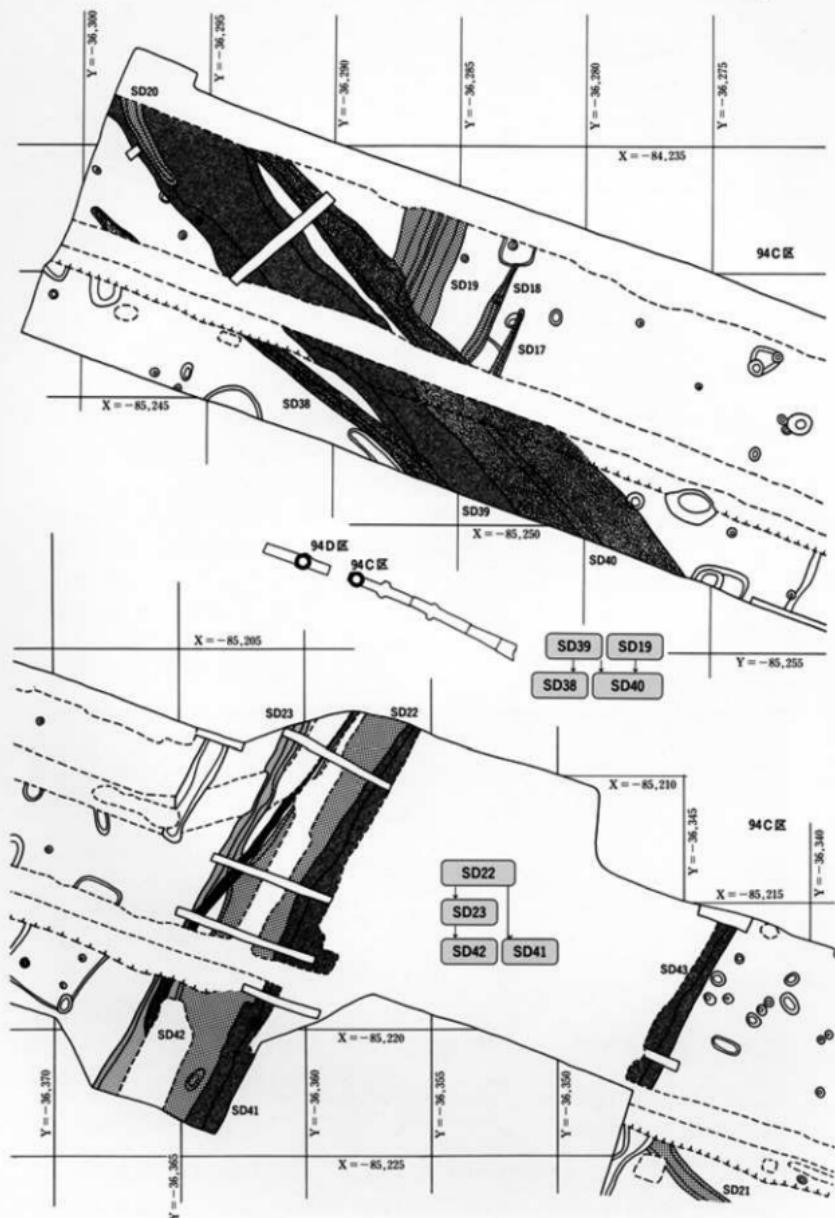


図14 SD変遷図 2 (1:200)

儀長正樂寺遺跡

(図18-22) などのほか加工円盤 (図20-18) がある。

SD40

94C区西部で、全長21.5mを検出した。SD38、SD39と並行し、後者を切る。検出面での幅は0.9~3.5mとやや規模が大きい。出土遺物には近世土器 (図18-23~26) などのほか加工円盤 (図20-19~21) がある。

SD41

94D区中央部で、全長18.0mを検出した。SD22、23、42と並行し、このうちSD23を切る。東側は現代擾乱により破壊される。出土遺物には近世土器 (図18-27、28) などのほか、金属製品 (図25-4) がある。

SD42

94D区中央部で、全長14.7mを検出した。形状はやや蛇行する。SD22、23、41と並行し、前二者を切る。ほとんどが現代の農業用水埋設管設置により破壊される。検出面での幅は0.3~0.4mをはかる。出土遺物には近世土器小片がある。

SD43

94D区中央部で、全長12.0mを検出した。西側は現代擾乱により破壊される。検出面での幅は0.6mをはかる。出土遺物は確認できなかったが、埋土の特徴からこの時期に含めた。

(池本正明)



第3章 遺 物

今回の出土遺物には、土器・陶器類、石製品、金属製品などがみられるが、量的には土器・陶器類が圧倒的に多い。

以下、これらについて土器・陶器類から順に具体的な説明を加えるが、記述の混乱を避けるため土器・陶磁器類の種類と器種について事前に若干の整理を行う。

種類

種類としては土器と陶磁器がある。なお後者はさらに須恵器、灰釉陶器、灰釉系陶器(1)、種類と器種施釉陶器、貿易陶磁、近世土器と通例に従い呼称する。

器種

器種には壺(瓶)、長頸瓶、淨瓶、甕、高杯、鉢、杯、蓋、盤、碗、皿、小皿、擂鉢、瓶、鍋、羽釜などを用いる。ただし、江戸時代の土器については「輪禪皿」、「錢甕」、「丸皿」、「廣東茶碗」、「灯明皿」、「箱型湯呑」などの名称を便宜的に使用する。

なお、法量は巻末の付表を参照とする。

(1) 土 器

ここでは、前章の時期区分に従い時代別に記述する。

① 弥生時代～古墳時代前期の土器

弥生時代～古墳時代前期の土器は、包含層中または後世の遺構に混入して出土しており、遺構に伴う資料ではない。出土量は乏しく、大半がローリングを強く受けた極小片となる。高杯1点を図示した。図15-1は94B区出土。杯部がやや深く脚部がやや高い形状。外面にはラフなミガキ調整を施すが、部分的にハケメ調整の痕跡を残す。脚部には、円形の透かしが、三か所に各縦二段施される。

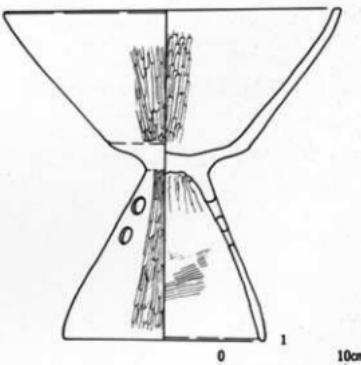


図15 弥生時代～古墳時代の土器

② 古墳時代の土器

A期の土器

古墳時代の土器は、須恵器、土師器がある。分布上の特徴は、94B区にやや乏しく、93区、94A区と94C区、94D区にまとまりをみることができる。なお本節が用いる年代観は(赤塚 1992)、(斎藤 1989)による。

1はSB01出土。須恵器の蓋で、大振り。天井部外面に回転ヘラ削り調整を加える。6世紀中頃。

2はSB02出土。土師器でS字彫の口縁部片。外面はハケメ調整。部分的にススが付着する。4世紀。

3はSK01出土。須恵器の杯。高台は低く、体部が屈曲する形状。器壁は厚く、形状はやや歪む。外底部には回転ヘラ切り後、回転ヘラ削り調整をラフに加える。使用痕が明瞭。7世紀後半。

4、5はSK02出土。いずれも須恵器。4は蓋。器壁は薄い。天井部外面に回転ヘラ削り調整を加える。5は瓶。口縁部を欠く。体部はバケツ状を呈し、底部にはキリヌキによる透かしを持つ。外面には幅が広く浅い沈線を一条巡らす。外面はタタキ調整後、下脚部には縱方向のケズリ調整をラフに加える。いずれも6世紀後半。

SK05資料

6~15はSK05出土。6~9は須恵器、10~15は土師器となる。6~8は杯。かえりを持つ形状。かえりより上部はやや長い。器壁は6がやや厚めだが、7、8は薄くシャープ。いずれも底部外面は回転ヘラ削り調整。6世紀中頃。9は高杯。体部は丸みを帯びる。脚部にはキリヌキによる長方形の透かしを三か所施す。杯部下方は回転ヘラ削り調整、脚部外面にはカキメ調整を施す。やはり6世紀中頃。10~15は、いずれもいわゆる宇田型甕3類(赤塚 1994)。10は、全形をとどめ、口縁部がやや直立気味に外反し、端部で肥厚する。体部は卵型を呈し、台部で大きく開く。外面はハケメ調整。口縁部は横ナデ調整を施す。台部内面は、折り返しの痕跡をとどめる。いずれも6~9と同時期か。

大型の甕

16はSK06出土。須恵器の甕で、肩が張る体部に、直立気味に外反する口縁部を持つ。端部は縁帶を形成するが、ラフとなる。底部は欠落するが、丸底を呈するのか。体部外面にタタキ調整。内の当て具痕はナデ消す。縁帶にはヘラによる沈線を一条、頭部の外面には突帯とクシによる波状文を施す。5世紀末。

17はSK07出土。土師器の高杯。やや浅い杯部に、低く太い脚部を持つ。脚部は屈曲する。内外面ナデ調整。なお、口縁部付近の内外面にはススが付着し、蓋として転用されているのかもしれない。5世紀後半。

18はSK08出土。土師器の甕。完形。形状は卵型の体部に、鈍く外反する口縁部を持つ。やや底気味な丸底。外面は、体部下方に縱方向のケズリ調整を施した後、全面にラフなミガキ調整を加える。使用痕は確認できない。4世紀後半。

19はSK09出土。須恵器の高杯。杯身はかえりを持ち、やや高い脚部が付く。脚部はキリ

ヌキによる長方形の透かしを三か所設定する。端部は屈曲し、縁帯を形成する。杯部下方には回転ヘラ削り調整を施す。成形は全体的にシャープだが、やや焼成不良となる。5世紀末～6世紀前半。

20～22はSK10出土。20は須恵器、21、22は土師器となる。20は杯。かえりを持つ形状。SK10資料
器壁はやや厚め。底部外面は回転ヘラ削り調整。全体にローリングが著しい。6世紀後半。
21、22は甌。21は口縁部片。いわゆる長胴甌で、体部はやや丸みを帯び、屈曲して口縁部を形成する。口縁部は長く直線的で、端部で縁帯を形成する。縁帯は、上方にやや突出し、このため中央がくぼみ、沈線状を呈する。調整は、口縁部外面が横ナデ調整。体部、口縁部内面はハケメ調整を施す。22は小型。球形の体部と短く屈曲する口縁部を持つ。端部は丸みを帯びる。調整は全体に風化が著しく不明瞭であるが、体部外面にはハケメ調整を施すのか。いずれも20と同時期か。

23～25はSK11出土。23は須恵器、24、25は土師器となる。23は杯。かえりを持つ形状。SK11資料
器壁はやや厚め。外底部には回転ヘラ削り調整後にヘラ記号を刻む。6世紀後半。24、25
は甌。25は、いわゆる長胴甌で、体部は丸みを帯び、屈曲して口縁部を形成する。丸底で口縁部は長く直線的。端部には縁帯を形成し、上端が突出する。縁帯は中央がややくぼみ沈線状を呈する。調整は、口縁部外面が横ナデ調整。体部や口縁部内面には、ハケメ調整を施す。24も25と基本的には同一。ただし口縁部の縁帯がややラフな形状で、上端はやや丸みを帯びる。いずれも23と同時期か。

26はSK12出土。土師器の甌。口縁部片で、いわゆる長胴甌。体部はやや丸みを帯び、屈曲して口縁部を形成する。口縁部は長く直線的で、端部で縁帯を形成する。縁帯は上方に突出する。調整は、口縁部外面が横ナデ調整。体部、口縁部内面はハケメ調整を施す。6世紀後半頃か。

27～32はSK13出土。27～31が須恵器、32が土師器となる。27～30は杯で、27が無台、28～30
が有台となる。27は丸みをもった底部に外反する体部を持つ。深手。外底部は無調整。28～30
は高台は低く、体部が屈曲する形状。器壁は薄い。外底部には28、30が回転ヘラ切り痕、
29には回転糸切り痕を残すが、いずれもこれを回転ヘラ削り調整でラフに消す。なお、27、
28、29は外底部にヘラ記号を施す。31は甌。外面に黄土を塗布する特殊な例。口縁部を欠く。
体部は肩で棱を持つ。高台は外傾する。下胴部は回転ヘラ削り調整。体部の両側以下に沈線二条で区画された文様帶を持つ。文様帶にはクシによる刻目文を充填する。いずれも
8世紀初頭だが、29は、これよりやや下がるのか。32は甌。大型品の口縁部片。体部は
やや丸みを帯び、屈曲して口縁部を形成する。口縁部は長く直線的で、端部で縁帯を形成する。縁帯は中央が浅くくぼむ。調整は、口縁部外面が横ナデ調整。体部、口縁部内面は
ハケメ調整を施す。27、28、30、31と同時期か。

33、34はSK14出土。前者は須恵器、後者は土師器。33は高杯。かえりを持つ杯身に、や
や高い脚部が付く形状。脚部には透かしは持たない。端部は屈曲し、縁帯を形成する。杯
部下方には回転ヘラ削り調整を施す。成形は全体的にシャープ。5世紀末～6世紀前半。

34は字田型甕3類。口縁部がやや直立気味に外反し、端部で肥厚する。体部外面はハケメ調整。口縁部は横ナデ調整を施す。32と同時期か。

35はSK15出土。土師器の壺で、体部は丸く、口縁部は直線的に開く。丸底で外面は横ナデ調整。5世紀前半。

36はSK16出土。土師器の高杯。杯部片で、中央で稜を持つ形状。口縁部は外反する。全面横ナデ調整だが、杯部の稜から下方はハケメ調整の痕跡をとどめる。4世紀末～5世紀前半。

37～55は包含層資料。37～48が須恵器となる。器種は、37～40が杯、41～47が蓋。48は鉢となる。なお、43は小型の蓋で、法量などから装飾須恵器の蓋である可能性を持つ。42、48は、5世紀中頃。器壁は厚く体部は丸みを帯びる。成形はシャープ。口縁部付近にクシによる波状文を施す。口縁部付近で稜を持つ形状。やはり器壁は厚く、成形はシャープ。口縁部付近にクシによる波状文を施す。49～55が土師器。器種は49、50が高杯、51～55が甕。51、52が字田型甕3類。53、54が長胴甕となる。

③ 奈良・平安時代の土器

B期の土器 奈良・平安時代の土器は、須恵器、灰釉陶器、土師器がある。なお、須恵器のうち杯類には、同一または類似した形状が多く、記述が煩雑になるため、さらに分類を加えることとする。具体的にはまず、体部の形状から三つに区分する(杯A類～杯C類)。杯A類は有台杯で、腰部で屈曲し直線的に口縁部に至るものを呼称する。器高の高いものから、杯A 1類、杯A 2類、杯A 3類とする。杯B類は杯A類から高台を取り除いたものを呼称する。底部の形状からフラットなものを杯B 1類、突出するものを杯B 2類とする。杯C類は体部が丸みを帯びるものを呼称する。有台を杯C 1類、無台を杯C 2類とする。なお本節が用いる年代観は(斎藤他 1995)による。

SK18資料 103、104はSK17出土。いずれも灰釉陶器碗。体部に丸みを持ち、口縁部で外反する。外底部は回転ヘラ削り調整。内外面に灰釉をハケメリする。9世紀後半。

56～102はSK18出土。56～97は須恵器、98～102は土師器。56、59は杯A 1類。外底部は中央に回転糸切り痕を残し、周囲は回転ヘラ削り調整を加える。いずれも内底部には使用痕が確認できる。57、58、60、61、62、64は杯A 2類。外底部は回転ヘラ削り調整だが、60、62は中央に回転糸切り痕を残す。57、62は焼成不良だが、使用痕が確認できる。63は杯A 3類。外底部は回転ヘラ削り調整。65は杯B 1類。外底部は回転ヘラ削り調整。やや焼成不良。内底部には使用痕が確認できる。66は杯B 2類。外底部は回転糸切り痕を未調整で残す。やや焼成不良だが使用痕が確認できる。71、72は杯C 1類。71は丸みを持つ体部に、短く外反する口縁部を持つ。使用痕は確認できる。72は底部を欠くが、形状は71と同様。70、73～78は杯C 2類。いずれも外底部に回転糸切り痕を未調整で残す。70、76、

77はやや焼成不良。いずれも内底部には使用痕が確認できる。79~86は蓋。いずれも宝珠形のつまみ部を持ち、口縁部が屈曲する形状か。80、82、83、86はやや焼成不良。なお、82は天井部内面とつまみ部上面に使用痕が著しい。転用硯か。87は盤。口縁部を欠く。器壁は厚い。外底部は中央に回転糸切り痕を残し、周囲には回転ヘラ削り調整を加える。使用痕は確認できる。88~91は長頸瓶。88は口縁部片。89~91は頸部片。いずれも三段成形。88、89は頸部にヘラによる沈線を施す。胎土の色調は、91が灰白色のほかは灰色。なお、89、90、91には頸部下方及び肩に灰釉が確認できる。94も長頸瓶だか、無台となる。外底部底部には回転糸切り痕を未調整で残す。体部は肩で棱を形成する。頸部は細い。胎土の色調は灰色。灰釉は肩の棱から頸部との境界部までに確認できる。95は淨瓶。卵形の体部に、細く長い頸部を持つ。頸部にはヘラによる沈線を二条施す。高台は高く、外傾する。肩には注口を持つ。注口は太い。胎土の色調は暗オリーブ灰色。頸部から体部上方に灰釉が確認できる。96は高杯。脚部上方の破片。97は瓶。体部下方を欠く。把手は棒状の粘土を半円状にし横位で貼付したもの。対角線に二か所付くのか。いずれも8世紀後半。98~102は甕。いずれも口縁部片で、体部上方で屈曲して口縁部を形成する。外面には粗いハケメ調整を施す。56~96と同時期か。

105はSK19出土。須恵器の杯C 1類。内面に使用痕が確認できる。10世紀。

106はSK21出土。須恵器の杯C 2類。やや焼成不良。外底部は中央に回転糸切り痕を残すが、周囲に手持ちヘラ削り調整を加える。8世紀中頃。

107はSK22出土。須恵器の蓋。口縁部はわずかに屈曲し、端部で縁帯を形成する。つまみ部は偏平。8世紀中頃。

108はSK23出土。須恵器の短頸壺。やや肩が張る。8世紀中頃か。

109はSK24出土。須恵器の杯。底部を欠くが、杯B 1類か。8世紀。

110~114は包含層資料。110、111は須恵器杯C 2類。112~114は灰釉陶器椀。

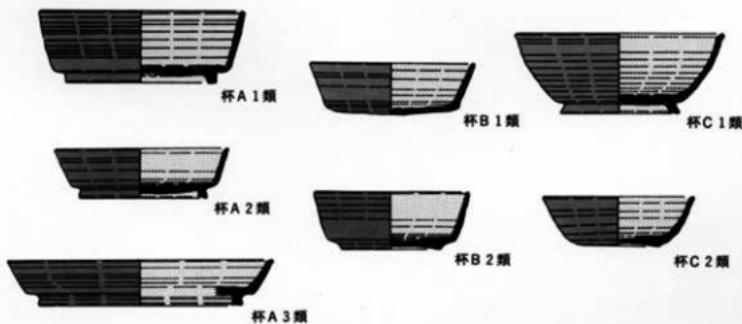


図16 須恵器杯の分類

④ 平安時代～鎌倉・室町時代の土器

C期の土器 平安時代末～鎌倉・室町時代の土器は、灰釉系陶器、土師器、貿易陶磁がある。このなかで灰釉系陶器は量的に最も多くを占める。そこで記述の煩雑さを避けるため、このうちの椀・皿類には、以下に示す分類を加える。具体的には、椀について、大型の椀を六つと、小型の椀に細分する。小皿については、四つに区分する。また、土師器の皿類についても出土数は乏しいが、同様の理由から細分を加える。

椀の分類 灰釉系陶器 梗（梗A類～梗G類）

梗A類

内外面とも丸みを持った体部を有し、腰部がやや張る深手の形状。口縁部は比較的丁寧に調整され外反する。高台はやや高い。本遺跡では全形をうかがえる資料は出土していない。

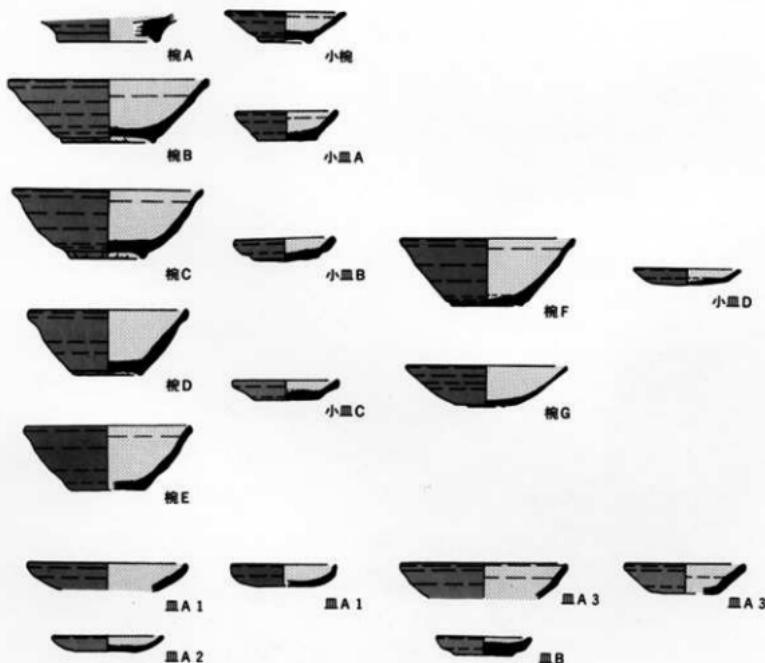


図17 灰釉系陶器椀・小皿、土師器皿の分類

椀B類

椀A類に比較して底径がやや大きくなる。内面の形状は、調整の省力化がうかがわれ、底部に浅いくぼみが一周するようになる。

椀C類

椀B類に比較して底径が小さい。体部の形状はわずかに丸みを残し、高台は低くつぶれる。内底部は浅くくぼみ、口縁部の調整はラフである。胎土は多量の砂粒を混和し、粗雑な印象を受ける。

椀D類

体部の形状が直線的となる。内面は体部との境界で棱を持つ。口端の調整が非常にラフで形状が不安定もしくは尖る。高台は椀C類と同様に低くつぶれ、平面形がひずむものが多くなる。また、高台部分のみ剥落する資料が多く、貼付が雑であることが考えられる。多量の砂粒を混和し粗雑な印象を受ける。

椀E類

無高台の椀で、椀D類から高台のみをとった形状。

椀F類

椀C類に類似した形状だが、器壁は薄く、胎土が緻密となる一群。

椀G類

椀Cに類似するが、器高は低く、器壁はさらに薄い。

灰釉系陶器 小椀

椀A類をそのまま小型にした形状。

灰釉系陶器 小皿 (小皿A類～小皿D類)**小皿A類**

小皿の分類

小椀から高台を取り除いた形状で、小皿としては深手の部類に含まれる。底部が堅高台状にやや突出するのが特色。体部はやや丸みを持ち、口縁部付近で短く外反する。全体の調整は丁寧である。

小皿B類

小皿A類に近似する形状であるが、底径がやや広く、器高がやや低くなる。底部は突出しない。全体の調整はややラフとなる。胎土には砂粒が多く混入されて、粗雑な印象を受ける。

小皿C類

小皿B類に近似する形状であるが、底径がやや大きく、器高がやや低くなり、偏平な形状。全体の調整はさらにラフとなる。この傾向は口縁端部に顕著で、調整の省力化から口縁部の形状が、縁帯状を呈するものが多い。胎土には砂粒が多く混入されて、粗雑な印象を受ける。

小皿D類

小皿Cに類似する器形であるが、器壁が薄く、胎土が緻密な一群。

皿の分類 土師器 皿 (皿A類・皿B類)

土師器皿は、ロクロもしくは回転台（以下、「ロクロ」と省略する。）を使用しているか否かを大区分とする。非ロクロのものを皿A類、ロクロ使用のものを皿B類とする。

皿A類

皿A類は、形状から三つに区分（皿A 1類～皿A 3類）する。

皿A 1類

体部は浅く、丸みを帯びた形状。口縁部は直立し、尖り気味となる。口縁部は横ナデ調整、体部外面は粗面で、成形時に「型」を使用している可能性が考えられる。大型品と小型品が存在する。

皿A 2類

体部は浅く、丸みを帯びた形状。器壁は薄い。口縁部は横ナデ調整、体部外面は粗面で、皿A 1類同様、成形時に「型」を使用している可能性が考えられる。確認できた資料は口径9cm程度の法量に留まる。

皿A 3類

形状は灰釉系陶器の小皿A類に類似するが、やや大振りとなる。大型品と小型品が存在する。

皿B類

成形にロクロを使用したもの。数量は乏しい。形状は灰釉系陶器の小皿A類に類似するが、底径がやや小さく、体部が口縁部付近で屈曲する。外底部に回転糸切り痕を残す。なお、大型品の底部片も存在するが、これは残存部分から推定すると、器高が前者より高い、形状がやや異なるものである可能性を残す。ただし、本遺跡では全形が判明していないため、ここに一応含めた。

115、116はSB04出土。いずれも灰釉系陶器。115は広口瓶。短く、外反する頸部を持つ。縁帶は細く、器壁は厚い。12世紀。116は小椀。器高は低く、高台端部にモミカラ痕を残す。みこみ、高台端部には使用痕が残る。

117、118はSB06出土。いずれも灰釉系陶器。117は椀C類。使用痕は確認できない。118は小皿B類。やはり使用痕は確認できない。

119はSB07出土。灰釉系陶器で椀D類。形状はややゆがむ。高台端部には使用痕が確認できる。

SE01資料 120～161はSE01出土。120～154は灰釉系陶器。120～134は椀。120～125、127、128、130～132は椀D類、126は椀E類、129、133、134は椀F類。120、128、131、134には使用痕が明瞭だが、122、124、125には、これが確認できない。135～153は小皿。135、137、139

は小皿B類で、136、138、140～153は小皿C類。140、150、152、153には使用痕が明瞭だが、137、142、144、148には、これが確認できない。なお、147は墨書きがみられ、「三」と判読できる。154は鉢。大きくひずむ。口縁端部は丸い。体部外下方には横方向のヘラ削り調整を施す。高台端部には使用痕が明瞭となる。13世紀。155～160は土師器。155、156は皿A1類。いずれも表面の風化が著しい。155は、口縁が端部で屈曲する。156はやや小振りだが、155と同一形状。157～160は伊勢型鍋。いずれも口縁部片で、器壁は薄い。158、160は外面にススが付着する。157～159が5類（新田 1985）で、13世紀、160は4類で12世紀中頃～12世紀末。161は貿易陶磁。青磁碗で龍泉窯系。12世紀前半～13世紀後半。

162～171はSE02出土。162～169は灰釉系陶器。162～167は椀。162～164は椀C類、165は椀B類、166、167は椀F類となる。166は全体にひずむ。162、163は使用痕が明瞭となる。168は小椀の底部片。高台は高く、端部にモミガラ痕は確認できない。みこみ及び高台端部に使用痕が明瞭となる。169は小皿A類。使用痕が明瞭となる。170、171は土師器で伊勢型鍋3類。いずれも口縁部片で器壁は厚く、端部は丸い。外面にはススが付着する。11世紀末～12世紀前半。

172～184はSE03出土。いずれも灰釉系陶器。172～181は椀。172、177、179が椀D類、173が椀E類、176が椀B類、178が椀C類で、174、175、180、181が椀F類。177～179は使用痕が明瞭だが、174、180、181にはこれが確認できない。182、183は小皿。前者が小皿C類、後者は小皿B類となる。いずれも使用痕が明瞭となる。184は壺の底部片。全体に風化が著しい。

185、186はSE04出土。いずれも灰釉系陶器の小皿D類。使用痕が明瞭となる。

187～200はSE07出土。187～198は灰釉系陶器。187～194は椀。187～191、194は椀B類、192、193は椀C類となる。187、191～194は使用痕が明瞭だが、180、190にはこれが確認できない。191は内外面に黒色の付着物が認められる。195～198は小皿A類。195、196、198は使用痕が明瞭となる。199は羽蓋の口縁部片。全体にひずむが、鉢部は特にこれが著しい。全面横ナデ整形による。12世紀後半頃。200は土師器で、伊勢型鍋4類の口縁部片。器壁は薄く外面にはススが付着する。12世紀中頃～12世紀末。

201はSE08出土。北部系灰釉系陶器の椀F類。

202～205はSE10出土。いずれも灰釉系陶器。202は椀C類の底部片で、使用痕が明瞭となる。203、204は壺。前者は体部上方の破片。後者は体部片。204は、体部下方の外面に回転ヘラ削り調整を施し、肩にヘラによる沈線を一条加える。205は壺の口縁部片。口縁部は短く外反し、端部で縁帯を形成する。12世紀前半頃。

206～210はSK26出土。206～209は灰釉系陶器。206、207は椀B類。前者は口縁部片で、後者は底部片。前者には使用痕が明瞭となる。208は小皿A類。使用痕が明瞭となる。209は鉢。底部を欠損する。体部は直線的で、端部は丸い。片口部が残存する。使用痕は確認できない。12世紀後半～13世紀初頭頃。210は土師器皿A1類の小型品。

211はSK27出土。土師器皿A3類の小型品。

212～231はSK28出土。212～224は灰釉系陶器。212、213、215、217は椀D類、214は椀F類、216は椀B類。215、216は、使用痕が明瞭だが、213にはこれが確認できない。218～224は小皿C類。221、223、224は使用痕が明瞭だが、222にはこれが確認できない。225～229は土器類の皿。いずれも表面の風化が著しい。225は皿A2類、226～228は皿A1類。229は口縁部を欠くが、皿B類の大型品か。230、231は貿易陶磁。230は椀。231は皿。前者は龍泉窯系の青磁椀。内面に画花文を施す。12世紀後半頃。231は青白磁。口縁部はヘラ切りにより、輪花状となる。333と同一個体か。12世紀～13世紀。

232～234はSK34出土。いずれも灰釉系陶器で椀。233は椀B類。232、234は椀F類。いずれも使用痕が明瞭となる。

235～237はSK37出土。いずれも灰釉系陶器で、235は椀F類、236は小皿C類、237は小皿D類となる。236は使用痕が明瞭となる。

238はSK41出土。灰釉系陶器の小皿C類。使用痕が明瞭となる。

239はSK42出土。灰釉系陶器の小椀。器高は高く、高台端部に砂粒痕を残す。使用痕が明瞭となる。

240はSK43出土。灰釉系陶器の椀C類。使用痕が明瞭となる。

241はSK44出土。貿易陶磁。白磁碗で底部片。口縁部が端反りとなるタイプか。

242はSK45出土。貿易陶磁碗で白磁。口縁部は玉縁状を呈する。

243～245はSK46出土。いずれも灰釉系陶器の椀C類。

246はSK47出土。南部系灰釉系陶器の小皿B類。使用痕が明瞭となる。

247～249はSK48出土。いずれも灰釉系陶器で椀B類。248、249は使用痕が明瞭となる。

250はSK49出土。灰釉系陶器の短頸壺。体部は丸みを帯びる。口縁部は内傾気味に直立する。端部は丸い。12世紀後半。

251、252はSK20出土。いずれも灰釉系陶器の椀。前者は椀F類で、後者が椀B類。使用痕が明瞭となる。

253～265はSD02出土。253、255～263、265は灰釉系陶器。253、255～261は椀B類。255～257、260は使用痕が明瞭となる。262、263は小皿A類。263は使用痕が明瞭となる。

254、264は灰釉陶器。265は三筋壺の体部片。沈線は複線。

266はSD03出土。灰釉系陶器の椀F類。使用痕が明瞭となる。

267～269はSD04出土。いずれも灰釉系陶器の椀。267は椀C類、268は椀B類、269は椀F類となる。

270～274はSD05出土。いずれも灰釉系陶器。270～273は椀C類。271、273は使用痕が明瞭となる。274は小皿B類。ひずみが著しく、使用痕は確認できない。

275～283はSD06出土。275～282は灰釉系陶器。275は椀B類。使用痕が明瞭となる。276は小椀。高台は高い。使用痕が明瞭となる。277～279は小皿A類。277は内面に使用痕が明瞭となる。280は甕。頸部は短く、端部で縁帶を形成する。13世紀前半頃。281、282は三筋壺。体部片。沈線はいずれも複線。283は貿易陶磁で青磁の椀。

284はSD07出土。灰釉系陶器の椀A類。使用痕が明瞭となる。

285～302はSD08出土。285～290、292～299は灰釉系陶器。285～290、292は椀。285～287、292は椀C類、288、289は椀D類、290は椀B類。290～292は使用痕が明瞭となる。290はひずむ。293～296は小皿A類。295、296は使用痕が明瞭だが、293にはこれが確認できない。297～299は壺。299は三筋壺。沈線は、複線となる。298は底部片。底部付近に横方向にヘラ削り調整、それより上方は縦方向にヘラ削り調整を施す。291は灰釉陶器の椀。300、301は土師器。皿B類の底部片で、前者は大型品。302は白磁碗の口縁部片。

303～333はSD10出土。303～324は灰釉系陶器。303～316は椀。303～308、310～315は椀C類、309は椀D類、316は椀B類となる。306、307は使用痕が明瞭だが、305、312にはこれが確認できない。317～324は小皿。317～319、322、323は小皿B類、321が小皿A類、320、324が小皿C類となる。318、323は使用痕が明瞭だが、317にはこれが確認できない。325～331は土師器。325～329は皿。いずれも表面の風化が著しい。325は皿A3類の大型品。口縁部片となる。326は皿A2類、327、328は皿A1類の小型品。前者はひどくゆがむ。329は皿B類。330、331は伊勢型鍋5類。いずれも口縁部片で、器壁は薄い。外面にはススが付着する。13世紀。332、333は貿易陶磁。332は同安窯系の青磁。皿の口縁部片で、12世紀後半頃。333は青白磁。後者は231と同一個体か。

334、335はSD11出土。いずれも灰釉系陶器の椀A類。なお、前者は使用痕が明瞭となる。

336～338はSD12出土。いずれも灰釉系陶器。336が椀A類で、337、338は椀B類。後者は使用痕が明瞭となる。

339～346はSD13出土。339～345は灰釉系陶器。339～343は椀。339、340は椀D類、341、342は椀C類、343は椀B類。343は使用痕が明瞭となる。339は口縁部付近にススが付着する。344は小皿A類。335は小皿D類。前者には、使用痕が明瞭となる。346は貿易陶磁。青磁の椀で、底部片。器壁は厚い。12世紀～13世紀前半。

347～363はSD14出土。347～357は灰釉系陶器。347～352は椀。347～348は椀C類、349は椀B、350は椀G類、351、352は椀D類。347はひずむ。353～357は小皿。353、354は小皿A類、355、356は小皿C類、357は小皿D類となる。355は使用痕が明瞭となる。358～362は土師器。358は皿A2類。359は伊勢型鍋5類の口縁部片。13世紀。360～362は羽釜。360、361には、外面にハケメ調整を施す。360は筒上方に直径4mm穿孔が認められる。穿孔は焼成前。361、362は外面にススが付着する。13世紀。363は貿易陶磁。龍泉窯系の青磁碗で、内面に画花文を施す。12世紀後半頃。

364はSD15出土。灰釉系陶器の椀F類。使用痕が明瞭となる。

365はSD19出土。灰釉系陶器の椀A類。

366～368はSD20出土。いずれも灰釉系陶器。366、367は椀F類。368は鉢。口縁部片で、端部は受け口状に発達する。15世紀前半。

369、370はSD24出土。いずれも灰釉系陶器。369が椀B類で、370は椀A類。前者には使用痕が明瞭となる。

SD10資料

371～33はSD25出土。いずれも灰釉系陶器の椀。371、373は椀B類、372は椀C類。373は使用痕が明瞭だが、372はこれが確認できない。

374～382はSD27出土。374～381は灰釉系陶器。374～379は椀G類。379は内面に使用痕が明瞭となる。377、378にはこれが確認できない。377は外底部に墨書「大」が認められる。380、381は小皿D類。381には使用痕が確認できない。いずれも外底部には墨書がみられ、文字は380が「十」、381が「大」。382は貿易陶磁。白磁の壺。肩に耳を持つのか。

383～419は遺構外資料。383～416は灰釉系陶器。383～395は椀。396は小椀。397～415は小皿。416は三筋壺。417～419は貿易陶磁の青磁碗となる。 (池本正明)

注

- (I) 筆者は本来灰釉陶器と山茶碗とを同一概念で理解し、「灰釉系陶器」と呼称する立場（池本 1990a・1990b）であるが、煩雑になるなどの理由からこの概念は一旦凍結する。なお、本書の用いる「灰釉系陶器」の概念は、瓷器系陶器第II、III類（横崎 1979）全般を指すものとなっている。

⑤ 江戸時代の土器

江戸時代の土器類は溝などから出土したが、他の時代に比べ量的には少なく、その多くは全体の器形を窺うことのできない小片であり、残存状況の良好な資料に乏しい。材質では、破片点数から見ると、陶器が磁器を圧倒的に上回り、産地の判るものでは瀬戸美濃産が多い。器種としては、器種分類に基づく程の資料がなく、統計的な分析は行っていないが、個体の識別と器種の判別が可能なものにおいては碗が最も多く、皿、鉢がこれに続く。製作時期の判るものでは18世紀中葉以降のものが多い。全体に高級品に乏しく雑器が目立つこと、肥前産磁器があまり見られないことなど、瀬戸美濃という大窯業生産地の近くに立地する一農村の消費傾向の一端が窺えよう。以下、造構ごとに遺物の説明を行う。

1～5はSD28出土。1、2は碗、4は皿、5は鉢と考えられる。1、5は内外面に灰釉、2は外面に横帯状に鉄釉の後、内外面に灰釉を施す。1の破断面にはススらしき黒色付着物があり、割れた後に焼かれた可能性が考えられる。5は口縁内に沈線が二条入る。4は長石釉の輪充皿で付け高台。破断面が摩滅しており、砥石に転用した可能性も考えられる。器種不明の3は内面には灰釉、外面の高台部周辺は露胎。いずれも瀬戸美濃産陶器で、製作時期は、概ね18世紀後半～19世紀初頭あたりと考えられる。

6はSD29出土。内面に鉄絵で植物が描かれ、内外面とも灰釉が施される。みこみにトチノ痕がある。瀬戸美濃産陶器の鉢で、製作時期は18世紀代であろうか。

7はSD31出土。底部に糸切り痕があり、底部周辺を除く内外面に鉄釉が施される。瀬戸美濃産陶器の錢甌の類であろうか。

8、9はSD32出土。どちらも内外面に灰釉が施され、貫入が顕著に見られる。8は高台部周辺が露胎、9は高台端部のみ露胎。8の方が胎土がやや粗い。8は碗と考えられる。どちらも瀬戸美濃産陶器で、製作時期は19世紀代であろうか。

10、11はSD33出土。10は長石釉の無高台皿で、貫入が顕著に見られる。11は受け口状に開く口縁で、外側に折り返され縁帶が形成されており、全面に鉄釉が施される。描鉢であろう。10・11とも瀬戸美濃産陶器で、製作時期は18世紀前半と考えられる。

12はSD35出土。ロクロで挽き出されたつまみを持つ蓋で、底部に糸切り痕がある。無釉で胎土は淡黄色。瀬戸美濃産陶器。

13～21はSD36出土。13～15は磁器。13は全体に厚手で重みのある丸碗で、雪の輪に梅樹文の染め付け。みこみに輪充がある。肥前で、製作時期は18世紀中葉～末と考えられる。

14は全体に青灰色を帯び、筆文、五弁花の染め付け。瀬戸美濃産と考えられる。15は口縁内に満巻文、外側面に文字の染め付け。関西系であろうか。製作時期は14、15とも19世紀中葉と考えられる。16～21は瀬戸美濃産陶器。16、17は端反碗。16は底が薄いタイプで、

鉄絵、呉須絵の麦藁手文。17は、内面が全体に淡黄色、外表面が淡黄色に灰オリーブ色の細い横縞の入る刷毛目文。18は呉須絵の広東茶碗。みこみに五弁花。19は口縁端部に鉄釉の細端反碗

後、灰釉、上野釉を施したもの。鉢であろうか。20は蓋で、粘土紐を貼り付けたつまみがある。上面のみ鉄釉が施され、底部に糸切り痕がある。胎土は浅黄橙色で、黒褐色の極小粒が見られる。21は内外面に灰釉が施され、高台部周辺は露胎。鉢であろうか。破断面にスラッシュ黒色付着物が見られ、割れた後に焼かれた可能性が考えられる。陶器の製作時期は、碗については19世紀中葉と考えられる。

22はSD39出土。内面に灰釉が施され、高台部周辺は露胎。内面に重ね焼きの際の高台痕がある。高台にスラッシュ黒色付着物がある。灯明皿であろうか。瀬戸美濃産陶器で、製作時期は19世紀代と考えられる。

23~26はSD40出土。23は、胎土、高台径に僅かな違いがあるが、SD32の8と同一タイプと考えられる。外側面の灰釉の下に呉須のような青い小さな点が見られ、呉須絵の存在した可能性も考えられる。24は削り出し高台で内外面に鉄釉が施される。灯明皿か。26は擂鉢。櫛目数は16本(1cm単位に5本)。底部に糸切り痕があり、全体に鉄釉。破断面にスラッシュ黒色付着物がある。以上は瀬戸美濃産陶器で、製作時期については23・24が19世紀代と考えられる。25は暗赤褐色の胎土で堅く焼き締められている。口縁部に自然釉。常滑産陶器の真焼物で、壺であろうか。

27、28はSD41出土。27は陶器の箱型湯呑。呉須絵で外側面に菊花散らし文、幾何文、みこみに五弁花。瀬戸美濃産で、製作時期は19世紀前~中葉と考えられる。28は瀬戸美濃産陶器で、鉄釉うのふ釉流しの碗。製作時期は18世紀後半あたりと考えられる。

29~38は遺構外資料。29~34は近接して出土している。29の端反椀は、浅黄橙色の胎土に内面に白化粧、外側面に白泥と鉄絵で梅花文を描いた後、透明釉を施したもの。30は全体の器形が判らないが、29と同様の装飾技法を用いたものと考えられる。31は呉須絵の広東茶碗。みこみに五弁花、外側面に花らしき文様。スタンプによるものか。いずれも瀬戸美濃産陶器で、製作時期は19世紀中葉と考えられる。32は脚部を欠くが、仏壇器と考えられる。蜻唐草文の染め付け。肥前産磁器で、製作時期は18世紀末~19世紀中葉頃と考えられる。みこみが付着物に覆われていた。33は全面に鉄釉が施される。瀬戸美濃産陶器の鉢皿の把手であろうか。34は瀬戸美濃産磁器で、碗の蓋のつまみと考えられる。銘らしき変形文字と水辺に鳥の文様の染め付け。製作時期は19世紀中葉以降であろうか。折縁鉢の口縁部と思われる35は、内外面とも灰釉が施され、内面には綠釉筆散らし。瀬戸美濃産陶器で、製作時期は18世紀代であろうか。36は常滑産陶器の赤物で、甕の口縁部と考えられる。製作時期は18世紀後半あたりであろうか。37、38は全面に鉄釉が施され、底部に糸切り痕がある。瀬戸美濃産陶器の擂鉢と考えられる。櫛目数は、37が19本(1cm単位に5本)、38が12本(1cm単位に3本)。

(水野多榮)

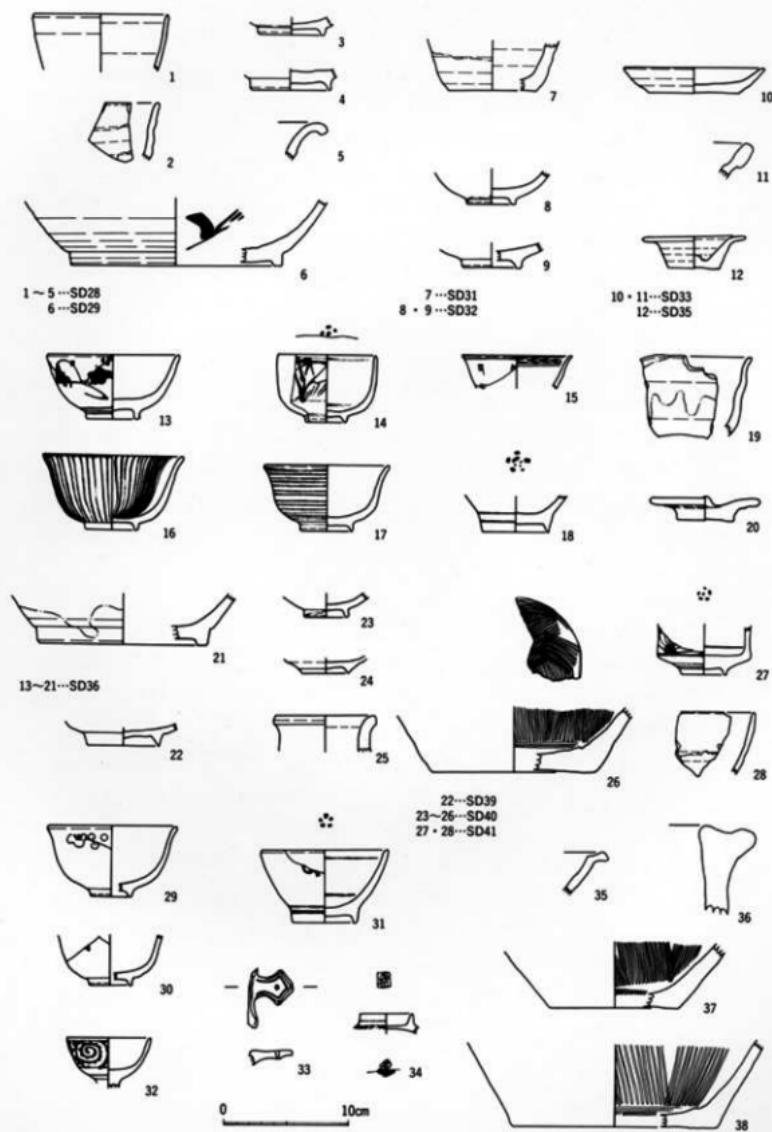


図18 近世土器

(2) そのほかの土器・土製品

そのほかの土器・土製品には、製塩土器、陶丸、加工円盤、土錘、瓦がある。

(1) 製塩土器 (図19)

内陸部出土の製塩土器 3点出土している。すべて知多式（立松1994）で、いずれも二次的に被熱する。1は、口縁部片。器壁は薄く、全面ラフなヨコナナデ調整。SK20出土。4類。2、3は脚部片。いずれもラフなナナデ調整。2が1C類、3が4類となる。

(2) 土錘 (図19)

土錘は6点出土している。すべて土師質で、出土位置に共通性はうかがえない。形状は紡錘形。上下端部は使用痕と考えられる剥離がある。それぞれの大きさや穿孔の直径などはほぼ類似する。時期は特定できないが、4、5は、SK28から出土し、平安時代末～鎌倉時代の土器が併出（図版17～212～231）する。重量は、ほぼ全形を残す4が7.9g、5が8.4g、7が9.1gとなる。

(3) 陶丸 (図19)

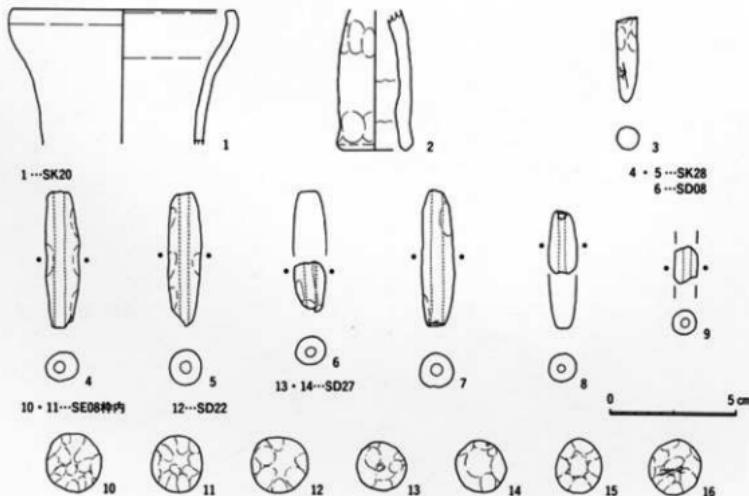


図19 その他の土器・土製品

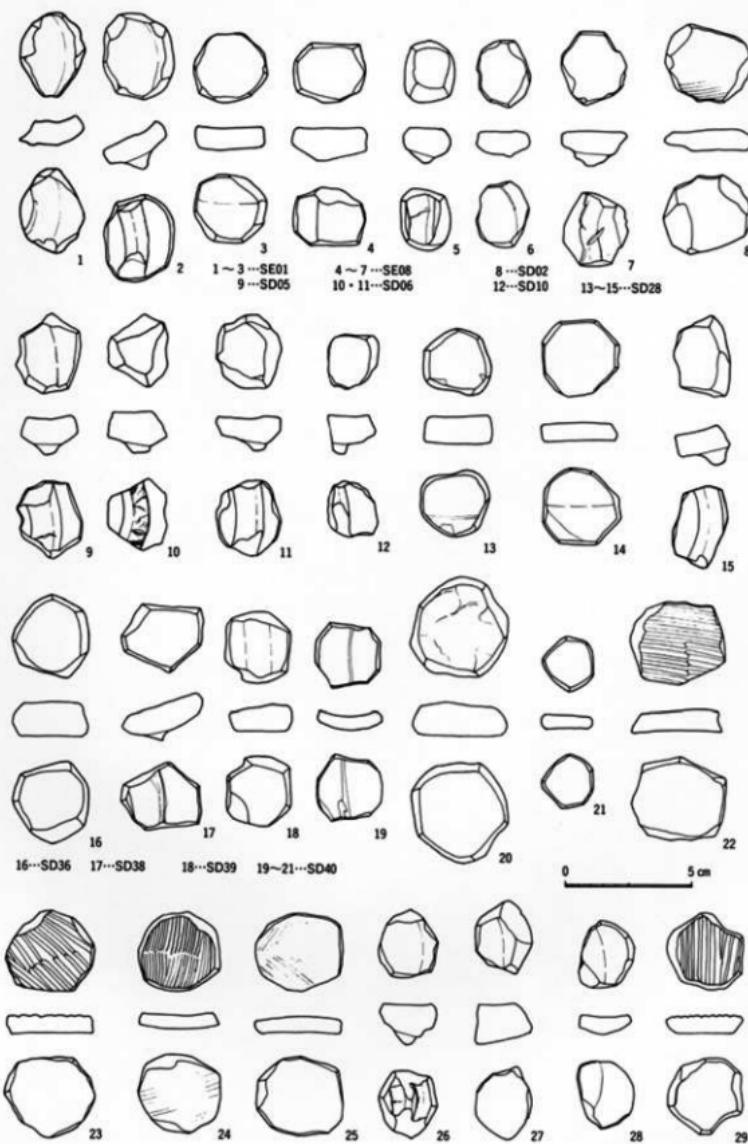


図20 加工円盤

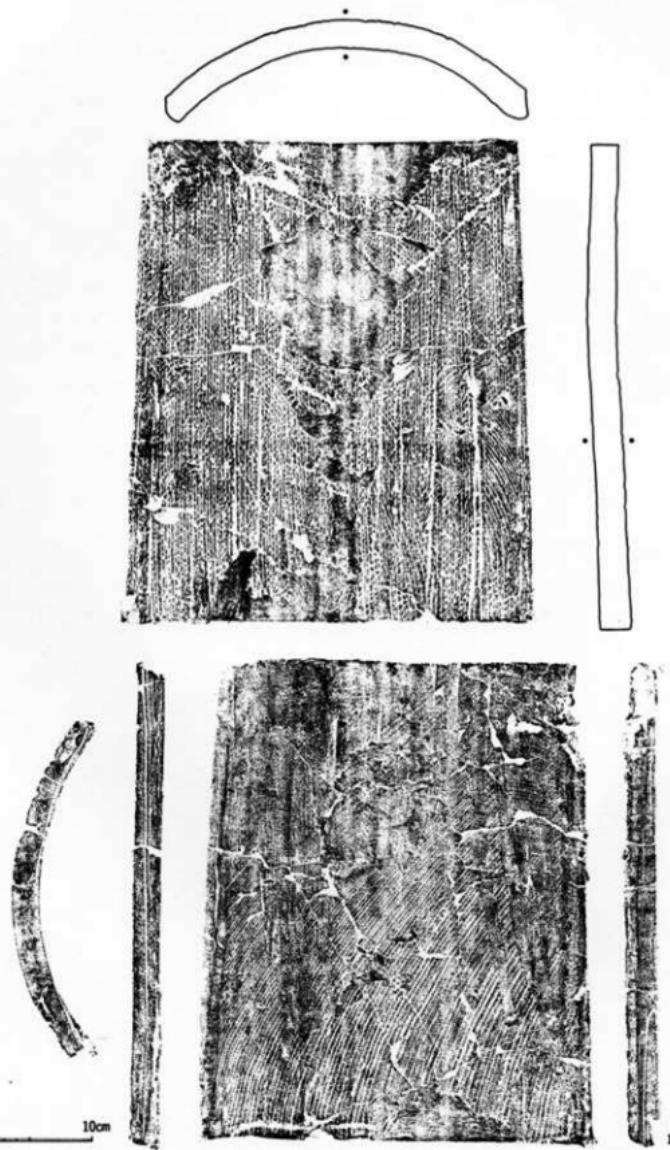


図21 E.1

陶丸の出
土位置

7点出土している。出土位置は、10、11がSE08枠内、12がSD22、13、14がSD27（D区で6点、C区西部で1点）と、調査区の西側のみで出土している。いずれも手づくねによる成形後、ナデ調整を施す。重量は8~10g程度で、すべて完形で出土している。外面は多くの場合摩滅するが、16にはこれが観察できない。胎土は、13、15、17が粗製、その他は精製となる。

④ 加工円盤（図20）

土器片の破面を打ち欠いて円形に加工したものを呼称する。31点出土している。側面は基本的には打ち欠いたままだが、5、13はさらに研磨を加える。出土位置は1~3がSE01、4~7がSE08、8がSD02、9がSD05、10、11がSD06、12がSD10、13~15がSD28、16がSD36、17がSD38、18がSD39、19~21がSD40となる。素材となる土器片は灰釉系陶器を中心だが、13、14、16、18~21、29は近世陶器、24、25は土師器、8、22、23は須恵器となる。

⑤ 瓦（図21、22）

すべて丸瓦、平瓦で約30点出土している。多くは表面の風化が著しい。出土位置は93区、94A区に集中するが、いずれも造構に伴うものではない。図示したものは側面ないし端面

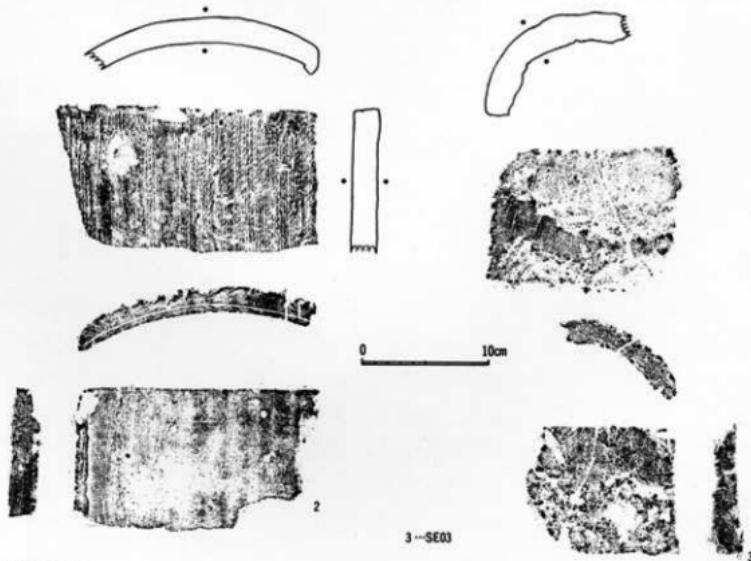


図22 瓦2

が残存するものに限定した。3点ある。1は、ほぼ全形を残存させる平瓦。台形を呈する。

(3) 石製品 (図23)

石製品に分類できるものには、砥石が5点出土している。1がSD04、3がSD27出土。石材は1から順に泥質凝灰岩、ホルンフェルス、凝灰岩、凝灰岩となる。3はやや特殊な形状だが、一応これに含めた。上部が一部分欠損するが、重量は89gをかる。上部には、直径5mm程度の穿孔が確認できる。この部分には縄掛けなどによる損耗は確認できない。外面に被熱が確認できる。なお、遺構埋土または、包含層中から、人為的に搬入されたと考えられる自然石が約数十点出土している。いずれも用途は不明。大きさは拳大から人頭大。石質はほとんどが木曽川水系で入手可能な石材で、砂岩が圧倒的に多く、泥岩、凝灰岩、漂飛流紋岩などがこれに続く。なお、その他に、結晶片岩、緑泥石片岩などの片岩類も含まれており、これらについては三重県南部産の可能性を残す。

(池本正明)

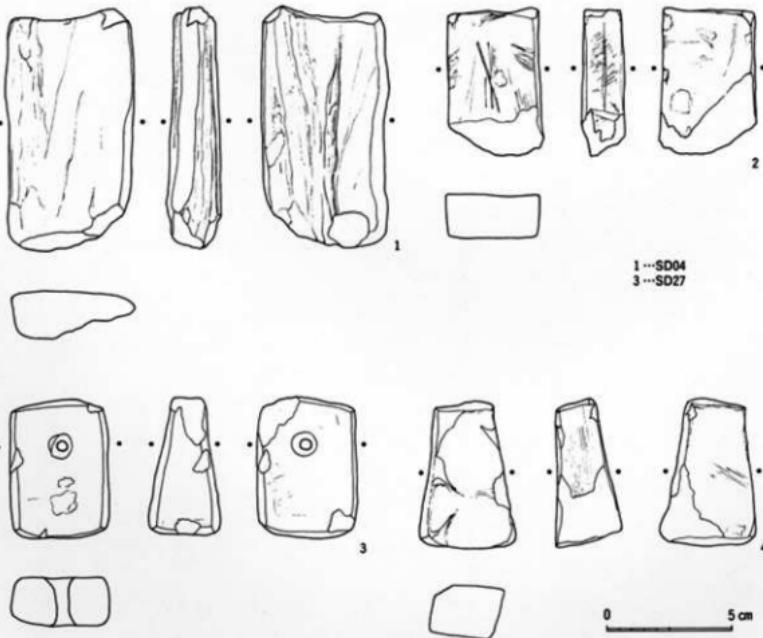


図23 石製品

(4) 木製品(図24)

木製品の多くは曲物の側板で、井戸側に使用されたものである。そして、板との接続用の孔があることから、多くが転用材であると考えられる。また、ほとんどが板を一重だけ曲げて作られたものであり(一重巻き)、樹皮で縫い合わされている。ここでは、樹皮の端部が板の内側に来るか外側に来るかによって、内縫じと外縫じとに呼び分けることにする。(図24参照)

1は、口径約50cm器高約23cmの曲物の側板である。この側板は、一重巻きの側板を3つ重ね合わせたもので、内側の2枚が本体で、外側の1枚の短いものがタガである。本体の側板は、数か所で樹皮による縫い合わせが行われている。また、3つの側板を重ね合わせたところで、底部との接続用の孔が開けられている。孔の直径は約1.7cmで合計12か所ある。便宜上、本体の側板のうち、内にあるものを内板、外にあるものを外板と呼ぶことにする。内板の縫い合わせ方は1列であり、内面に板を曲げるための縦方向のきざみが約0.7cm間隔で施されている。外板の縫い合わせ方は、上部はハの字状に折り返してあり(2列縫い)縫じ合わせ方は上下とも内縫じになっている。タガは、外板同様に2列縫いで上下とも内縫じとなっている。しかし、外板、タガとともに縦方向のきざみはない。

2は、口径約51cm器高約11cmの側板である。これは、一重巻きの側板を2つ重ね合わせたもので、1で見られたような側板どうしの縫い合わせは行われていない。しかし側板を重ね合わせたところで、底部との接続用の孔が開けられている点は同じである。孔の直径は約0.4cmで合計16か所ある。外板は2列縫いで、縫じ合わせ方は上が内縫じで下が外縫じとなっている。内板の縫じ合わせ方は、上下とも内縫じであり、板の縫い合わせ部の内側に約5cmにわたって縦方向のきざみが見られる。

3は、口径約46cm器高約16cmの側板である。一重巻きの側板であるが、縫い合わせ部以外にも補強用の縫い合わせが施されている。縫い合わせ方は2列縫いで、縫じ合わせ方は上下とも内縫じとなっている。

4は、口径約46cmの側板であるが、上部は欠損しており現存の高さは約44cmを計る。これは2に同じく、一重巻きの側板の2つ重ねで、底部との接続用の孔を持つ。孔の直径は約1.2cmで合計10か所ある。内板は1列で縫い合わされているが、内側に幅約1cmのきざみが全体にわたって施されており、さらに外面にも幅約10cmのきざみが5か所にわたって施されている。外板は、2列で縫い合わせられ、上下とも内縫じである。

5は、口径約43cm器高約31cmの側板で、これも一重巻きの側板の2つ重ねで、底部との接続用の孔を持つ。孔の直径は約1cmで5か所が確認される。内板は、1列で縫い合わされている。外板も1列で縫い合わせられ、上下とも内縫じである。

6は、口径約38cmの側板であるが、上部は欠損しており、現存の高さが約29cmである。内面にはきざみが施されており、底部にも穴が開けられているが縫じ方等は不明である。

儀長正樂寺遺跡

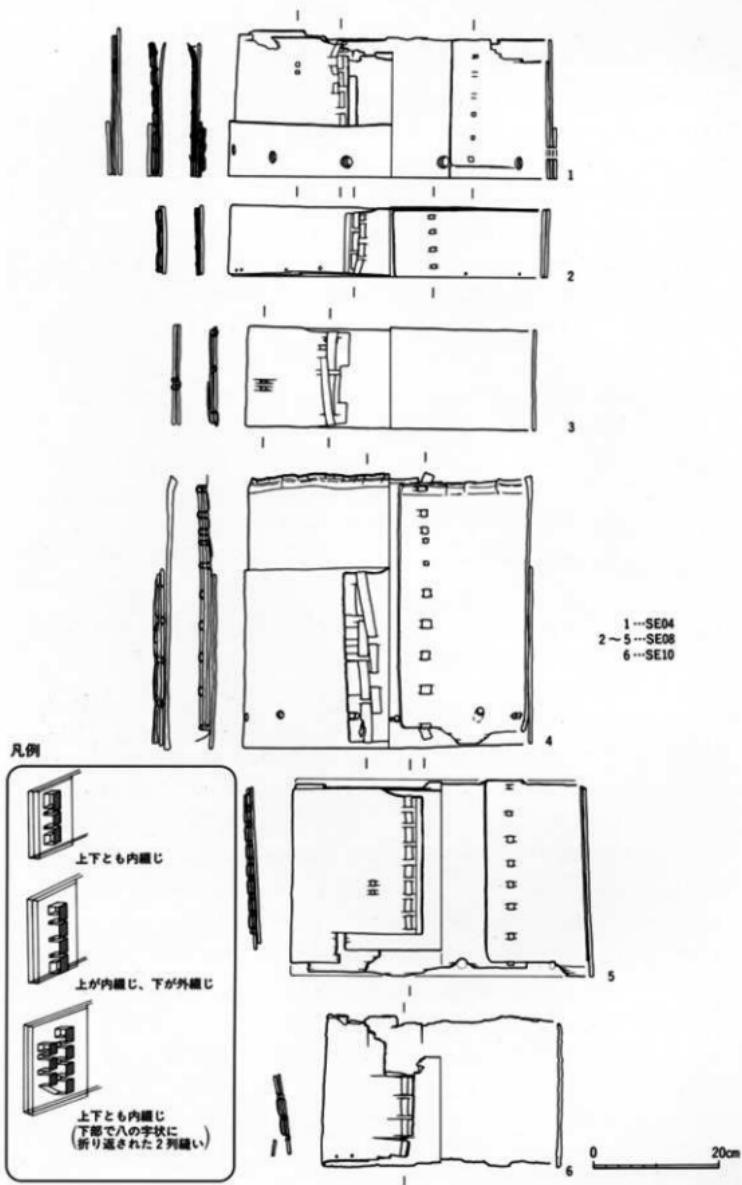


図24 木製品

(5) 金属製品 (図25)

出土金属製品は、刀子、釘、飾金具などの鉄製品とキセルや銅錢の銅製品である。

1は刀子で、長さ約18.5cm幅約1.4cmを測り、SE01から出土している。柄の部分にあたるところに、柄との接続用の径約0.5cmの孔があけている。5・9も刀子で、SD36、9は造構外資料で欠損がひどく法量は不明である。8は釘で、長さ約6.7cm直径約1.1cmである。7は飾金具で、長さ約5.1cmのひょうたん型をしている。どのようなものに取りつけられたかは不明である。10はキセルで、直径約1.0cmだが欠損がひどく長さは不明である。6は寛永通宝である。ただし、6～8、10は造構外資料である。
(水谷寛明)

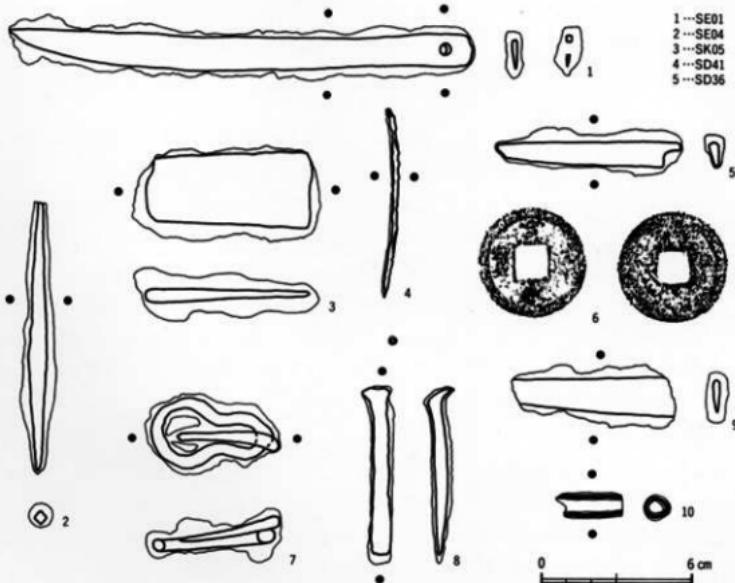


図25 金属製品

第4章 考察

(1) 儀長正樂寺遺跡の地形・地質

濃尾平野は伊勢湾に臨む完新統の堆積物からなる、わが国有数の沖積平野である。沖積面には東から木曾川、長良川、揖斐川の3河川が流れ、大量の土砂を運搬・堆積し今日の沖積地形を造りあげた。沖積平野の地形は一般に、扇状地帯・自然堤防帶・三角州帶の3地帯に区分できる。濃尾平野はこれら3地帯をもった模式的な平野といえる。犬山付近より西側には半径およそ12kmの犬山扇状地（木曾川扇状地）広がり、標高およそ10mまでが扇状地帯である。平野の南部や南西部にかけての標高およそ2mより低い場所が三角州帶（いわゆるゼロメートル地帯）であり、伊勢湾に向けてほぼ平坦な面が広がっている。上記の扇状地帯と三角州帶とに挟まれる部分が自然堤防帶となる。

自然堤防帶において堆積物の運搬を担うのは河川である。とくに平野中央部には東から五条川、三宅川、日光川、領内川の4河川が北から南へ流れ下っている。以上の4河川の流れる自然堤防帶は、地形勾配がそれまでの扇状地帯に比べて著しく緩やかになる。また、堆積物の粒子の大きさは、扇状地帯が礫を主体とするのに比べて細かくなり、砂や砂質堆積物を主体とするようになる。それらの堆積物は旧流路に並行に狭長な地形的な盛り上がり（微高地）を形成する。

儀長正樂寺遺跡は稻沢市儀長町に位置し、調査地東方を流れる三宅川の右岸に位置する。三宅川は木曾川から派生する支流のひとつである。ほぼ直線状に南西方向へ流下してきた河川は、一宮市を過ぎ稻沢市国府宮から調査地を含めた範囲において、顕著な蛇行ループを描くようになる。ループ内における蛇行軸は北からおよそ45°西へ傾く北西南東方向であり、およそ2.5kmの蛇行波長をもちながら屈曲している。ループが発達するに伴って、河川流路の脇には自然堤防がいくつも認められるようになる。例えば、稻沢市矢合町、法花寺町、堀之内町、井堀町には典型的な自然堤防が形成されている（図26）。儀長町を過ぎるあたりで蛇行ループは終焉し、およそ5km南の海部郡佐織町勝幡において日光川、領内川とに合流する。

自然堤防の形成された歴史は比較的新しく、例えば、東畠庵寺遺跡では7世紀中頃から平安時代後期の11世紀にかけての古瓦層の上に、層厚80cmほどの自然堤防をつくった褐色砂層が堆積している。また、砂層中には鎌倉時代の山茶碗がみられることから、地形としての自然堤防は11世紀以降に形成されたことがわかっている（井関、1994）。

蛇行河川系の地形は模式的には、自由蛇行するチャネル（流路）とチャネルの脇に形成される自然堤防、更にその外側の後背湿地で構成される。図26をみると、調査地周辺の地形も、旧流路に並行に狭長な地形的盛り上がり部分（自然堤防）とそれより低い部分（後背湿地）とに明瞭に分けられる（図26）。この地形的特徴とそれを構成する堆積物の違いは、そのまま土地利用にも反映されており、後背湿地は周よりも低く滞水するため水田

として利用されている。自然堤防部分は洪水時に河川からのオーバーフローによってもたらされた砂や砂質シルトで構成される。そのため粒子間隙が大きく透水性（水はけ）が良いので、宅地や畠地として利用されている。とくに当地は植木や苗木の産地として全国的に有名である。

（鬼頭 嘉）

文献

井関弘太郎、1994、自然堤防はいつ、車窓の風景科学-名鉄 名古屋本線編-、名古屋鉄道 株式会社、35-39



図26 儀長正楽寺遺跡の位置と周辺の地形

（国土地理院発行の1/25,000 土地条件図「名古屋北部」を使用）

アミセ部分が自然堤防、白抜き部分は後背湿地である。三宅川の蛇行ループ沿いに明瞭な自然堤防が形成されていることがわかる。また地形の違いは土地利用の状況にも反映されており、自然堤防は宅地や畠地として、後背湿地は水田として利用されている。

第5章 まとめ

(1) 主要遺構の変遷

本項では、今回検出できた遺構を時期別に整理し、その変遷を考察する。

今回検出できた遺構を時期別に分けると、古墳時代・奈良・平安時代前期・平安時代末～鎌倉・室町時代・江戸時代に区分できるが、これらはそれぞれ異なる性格を持った遺構群となる。以上の観点から、以下古墳時代の遺構をA期、奈良・平安時代前期の遺構をB期、平安時代末～鎌倉・室町時代の遺構をC期、江戸時代の遺構をD期と呼称する。

なお、調査段階での遺跡の名称となっていた『正樂寺』や『儀長城』については、今回の調査区内では確認することができなかった。

A期

古墳時代の遺構群がこれに該当する。竪穴住居と土坑で構成される遺構群となる。遺構は調査区全体に確認できるが、93区にやや比重が考えられる。94B区で確認できたNR01は、A期の遺構集中部の西側となるのかもしれない。調査区南側に分布する三橋遺跡と関連させて考えるべきなのかもしれない。また、この時期にはC、D区にも若干の遺構の分布が指摘でき、やはり儀長寺通遺跡と関連するのかもしれない。

B期

奈良・平安時代前期の遺構群がこれに該当する。いわゆる『正樂寺』の時期とはほぼ平行する段階。検出できた遺構は非常に希薄となり、遺構相互に有機的な関連は確認できず、わずかに93区で特徴的な土坑Aの存在が注目できるにとどまる。なお、SK18で確認できた遺物の出土状況をもってこのエリアを特徴付けるのであれば、生活域とはやや異なる土地利用を考えることができるのかもしれない。

C期

平安時代末～鎌倉・室町時代の遺構群がこれに該当する。今回の調査で最も良好な形で検出された。調査区全域に溝による方格地割が確認でき、その区画中に、井戸・土坑などが点在している。

次にこれらの遺構群を土器の形態分類から、C-1期～C-4期の四時期に区分する。これは、基本的には本書第3章の灰釉系陶器の形態分類に従ったものである。

ここでこれをまとめると、まずC-1期は灰釉系陶器碗A類、小瓶に代表される時期でさらに二つに細分する。12世紀初頭～12世紀中葉。C-2期は碗B類、小皿A類に代表される時期。12世紀後葉～13世紀前葉。C-3期は碗C類、D類、F類に代表される時期。

13世紀中葉、C-4期は楕円形、G形、小皿C形、D形に代表される時期である。13世紀後葉～14世紀前半に該当する(1)。以下、時期別の変遷を考える。

C期の年代

まず、C-1期はC-1a期(12世紀前半)、C-1b期(12世紀第3四半期頃)に区分する。前者は、儀長正樂寺遺跡の形成期で、調査区の東側に溝がやや集中して掘削される。ほぼN-24°～Eの軸線に規制された溝による地割が形成される。なお、94C区の西側に掘削されたSD19の西側には主要な造構は確認できない。後者の段階になると、調査区東側では前段階のSD11に加え、SD12が掘削される。SB04はこの段階に帰属し、SD12以東には明瞭に居住域として利用される(以下、東居住域)。一方、SD19以西では、この段階から明瞭に造構の形成が開始される。SD21、24がこれで、前者は西側を大きく擾乱により削り取られているが、これはほぼN-47°～Eの軸線に規制された地割となる。溝の幅は、東居住域のそれと比較して細い。建物は検出されてはいないが、やはり多数の土坑Dと井戸が存在することや出土遺物の内容から居住域と考えられる(以下、西居住域)。

東西居住域

C-2期はSD11以東で、新たにSD08、10などが掘削される段階。調査区東端ではSD03、04、06で道を形成している可能性が考えられるなど、東居住域優位の状況がより明確になる段階。また、SD02は区画の意味が薄れ、多量の土器が廃棄される。一方、西居住域にも東居住域と類似する軸線を持つSD25が掘削され、東西居住域が同様の軸線に制約されたそれとして成立するものと考えられる。西居住域に所在するSB08、SA01、02は、帰属時期に明瞭な根拠をあげることができないが、当該期もしくは、次段階に帰属するものと考えられる。

C-3期は今回の調査区のピークに該当する。土坑Bが東居住域に掘削される時期。東居住域は、さらに西側にSD14、15が掘削され、規模の拡大がうかがえるなど、一層充実した構成となる。SD14、15は並行して存在する溝で、西居住域との境界となる。中央部は道としての土地利用も考えることができる。また、SD10とSD11により区画されたエリアは、SB06、07などの建物と、SE01と前段階から残存するSE02などの井戸、さらにSK39、40などの土坑Bで構成される。今回は、これらに有機的な関連性を求めて、このエリアを屋敷地として認識しておく。なお、SE01は規模の突出する井戸で、この存在からこの屋敷地の優位性を考えることもできる。また、SB05も帰属時期に明瞭な根拠をあげることができないが、当該期もしくは、前段階に帰属するものと考えられる。また、SD08とSD04、06に区画されるエリアも今回の調査区中最も土坑Dの集中する部分となり、これらに未検出の掘立柱建物の柱穴である可能性を考えるのであれば、同様の性格を付与することもできるであろう。一方、西側居住域では、SD23が掘削され、これ以東に井戸が集中するなど、建物の検出はできなかったが、やはり屋敷地を形成しているものと考えられる。ただし、東居住域のように多数の溝が検出されているわけではなくSD14ないし15以西といった大区画として存在したものと思われる。つまり、この時期は、特に東居住域中に各屋敷地が明瞭な区画を伴って出現する段階と考えることができる。

C-4期は、造構数が激減する時期に該当する。一方ではSD13、27など、この段階で新

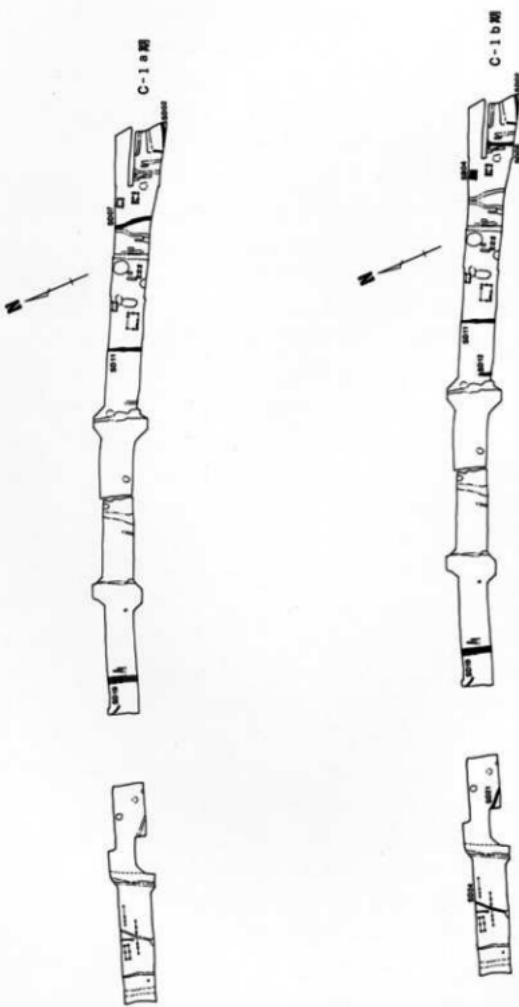


図27 造構変遷図 1 (1:2,000)

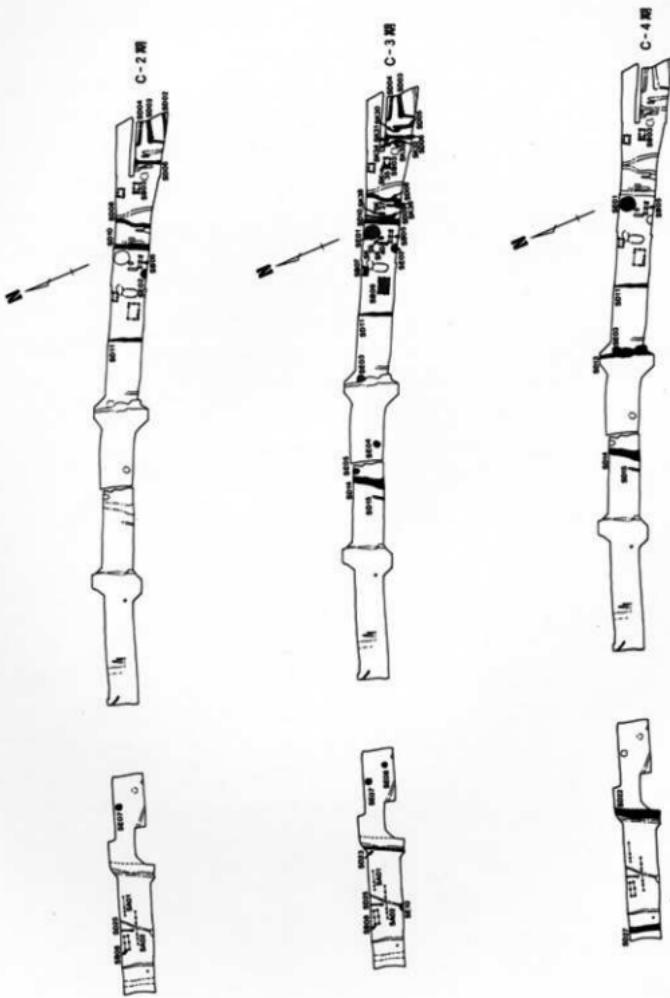


図28 遺構変遷図 2 (1:2,000)

たに掘削される溝も存在することから、東西の居住域は規模を縮小しながらも継続していると考えられる。ただし、西居住域には、やはりSD14ないし15以西の大区画として存在するが新たに、SD27が掘削されることを注意したい。SD27は西居住域の外縁を規定する溝と考えられる。埋土中で確認できた土器投棄は、未使用品(2)、墨書きが多く含む椀、皿のセットがみられることが特徴となる。一方、東居住域には、このような内容を持つ溝は確認できない。

以上、C期の遺構変遷を考えた。ここでこれをまとめると、まず12世紀初頭に、多元的に東西二つの居住域が形成される。そして、12世紀後葉には東居住域に統合し、その後東居住域優位の形で遺構群が形成されたと考えられる。遺構形成のピークは13世紀中頃となる。この時期の東居住域では、溝による地割り中に、数棟の孤立柱建物と井戸、2ないし3基の土坑Bが展開する屋敷地をみることができた。そして、13世紀後半を境界とし、西居住域が再編成され、東西の居住域が性格が異なったものとして共存する。そして14世紀代には遺構数が激減し、やがて遺跡が消滅している。つまり、C期の遺構群は、13世紀後半に画期、そして15世紀初頭までには廃絶を考えることができる。

ところで今回確認できた13世紀後半頃の画期は、尾張低地の他遺跡でも指摘されている。また画期後に位置する13世紀後半～14世紀の遺構群には、SD27のような溝が存在していることは、土田遺跡（赤塚 1987）、阿弥陀寺遺跡（北村 1990）、松河戸遺跡（赤塚 1994）でも知られている。なお、これらの外側には墓域（方形土坑群）の存在が一般的とされている（赤塚 1994）。本遺跡では方形土坑群は確認できていはないが、該当エリアが調査区外に存在しているものと考えられる。

D期

江戸時代の遺構群がこれに該当する。遺構は希薄となる。今回検出できた遺構は18、19世紀を主体とし、ほとんどが溝となる。主軸などはSD38、39、40を除き、C期の溝とよく一致する。しかし前段階の屋敷地はすでに廃絶しており、形骸的にこれを継承していることが考えられる。なお、D期段階の周辺景観を知る史料として『中嶋郡儀長村村絵図』（天保12年）があるが、ここには今回の調査区は多くが畠地として記載されている。

(2) 出土遺物の検討

ここでは、出土遺物を前述の時期別に整理し、その変遷を考察する。

A期

A期の資料は多量とはいえない。基本的には供膳具が須恵器、煮沸具が土師器で構成される。

なお、これらの資料は煮沸具の変化から大きく二つのまとまりを考えることができる。つまり台付斐段階のSK05資料と、前者が長胴斐に変わるSK10、11資料である。前者は宇田型斐3類、後者は長胴斐の初源的な形状を有している。いずれも資料不足と指摘される時期に属し、追加資料として重要であろう。なお、これらの資料に伴出する須恵器は、前者が東山11号窯式—東山61号窯式に、後者が東山61号窯式直後から東山44号窯式に該当している。

このほかに、断片的ではあるがこれらより若干遅る廻間田式に属する資料と、松河戸II式に属する資料も存在している。今回は確認できなかったが、後者には42ないし48などの最古段階の須恵器が伴うのであろうか。また、SK13資料はこれらの最後尾段階の資料で、奈良時代直前に該当している。

B期

B期の資料も多量とはいえない。この中でSK18資料は、一括性が高く、よくまとまったものとなる。時期的には折戸10号窯式を中心に、若干これを遡るもののが加わる。やはり供膳具が須恵器で、煮沸具が土師器で構成される。この資料を前述した分類に従い、肉眼観察により個体数を算出すると、認識できた物は総数57個体に及ぶ。内訳は杯が29個体（A1類が2個体、A2類が5個体、A3類が1個体、B1類が1個体、B2類が1個体、C1類が3個体、C2類が9個体のほか、底部片でA1類かA2類か判断できないものが4個体、口縁部片が3個体）、瓶6個体、瓶1個体、蓋11個体（うち1個体は転用碗）、盤1個体、斐は須恵器が3個体、土師器は6個体となる。これを同時期の窯跡出土資料と比較すると、器種は乏しい。これをもってSK18資料の特色を考えると、日常生活とはやや離れたものを考えるべきなのかもしれない（3）。なお、これは今回の調査区ではB期に属する土坑が若干検出されたにすぎないこと、出土遺物がSK18を除くと非常に希薄となることとよく整合していると考えられる。

SK18の組成

C期

今回最もまとった資料を得ている。器種の組成は、供膳具が基本的には灰釉系陶器で、これに若干の貿易陶磁、土師器が加わり、煮沸具は土師器、貯藏具は灰釉系陶器で構成される。

以下、すでに本章で述べた時期区分に従い、時期別に土器組成をまとめる。

まず、C-1期は灰釉系陶器椀A類、小皿に代表される時期。供膳具は土師器がこれに加わることが考えられる。貯藏具はやはり灰釉系陶器の壺・瓶類となる。次のC-2期は、椀B類、小皿A類に代表される時期となる。土師器皿類はA1類を主体する。貯藏具はやはり灰釉系陶器の壺・瓶類となる。煮沸具は伊勢型鍋3類となる。C-3期は椀C類、D類、F類に代表される時期。灰釉系陶器椀、皿類は椀C類、D類といった南部系のそれで構成されるが、この段階から北部系と呼称される椀F類、小皿D類が一定量含まれる。土師器皿類もA1類を主体とし、A2類やA3類やB類などがこれに加わる。貯藏具は灰釉系陶器の甕、煮沸具は土師器の伊勢型鍋4類となる。最終段階のC-4期は、椀E類、G類、小皿C類、D類に代表される時期である。遺物量は乏しく、組成を考えるに足る資料は得られなかった。主力器種である灰釉系陶器椀、皿類は基本的には椀G類、小皿D類といった北部系で構成され、前段階が南部系主力であったのに対し逆転現象を起こす。貯藏具は、灰釉系陶器の甕、煮沸具は土師器の伊勢型鍋5類となる。

以上が儀長正樂寺遺跡におけるC期の基本的な土器組成となる。次にこれを、前項で指摘したC-3期～C-4期の画期を境界として前後に分ける。まず前者は、供膳具では南部系の灰釉系陶器を主体とする。そしてこれに貿易陶磁や土師器がわずかに加わるが、後者は皿A類を主体とする。貯藏形態はやはり灰釉系陶器で構成される。煮沸具は、ほぼ伊勢型鍋で占められる。一方、後者は供膳具が灰釉系陶器にはば限定でき、北部系のそれを主体とし、これに南部系が加わる。土師器の存在は不明確。貯藏形態はやはり灰釉系陶器となる。

以上が儀長正樂寺遺跡のC期の土器の内容となる。なお、こうした様相は、周辺に所在する同時期の集落遺跡と基本的には同一となる。こうした点を考えると、本遺跡の土器組成は極めて一般的と言うことができる。

(池本正明)

注

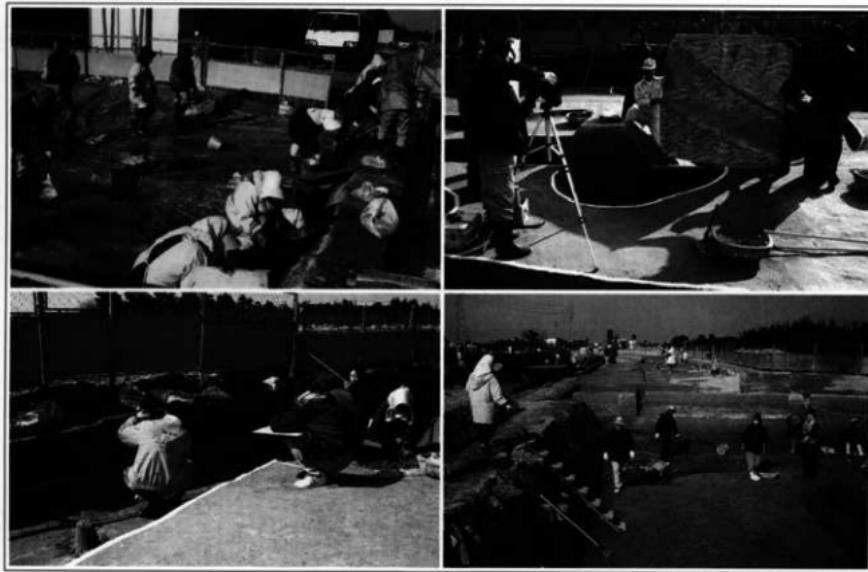
- (1) 年代観は(藤沢他 1993)に依拠した。
- (2) 使用痕が確認できないものを根拠に呼称する。厳密には「非使用痕土器」とも言うべきか。
- (3) 横崎彰一氏の御教示による。

参考・引用文献

- 赤坂次郎 1992 「東海系のトレス」 「古代文化」44 古代学協会
- 1994 a 「一色青海遺跡」 「愛知県埋蔵文化財情報」9 愛知県教育委員会
- 1994 b 「松河戸様式の設定」 「松河戸遺跡」 愛知県埋蔵文化財センター
- 赤坂次郎他 1987 「土田遺跡」 愛知県埋蔵文化財センター
- 1990 「廻間遺跡」 愛知県埋蔵文化財センター
- 1994 a 「舟橋宮裏遺跡」 愛知県埋蔵文化財センター
- 1994 b 「松河戸遺跡」 愛知県埋蔵文化財センター
- 池本正明 1990 a 「猿投窟の山茶樹」 「マージナル」10 愛知考古学談話会
- 1990 b 「奥三河の灰釉系陶器」 「考古学フォーラム」1 愛知考古学談話会
- 1991 「平安時代後期～室町時代」 「大河内」 愛知県埋蔵文化財センター
- 1995 a 「正楽寺・儀長城跡」 「愛知県埋蔵文化財情報」10 愛知県教育委員会
- 1995 b 「正楽寺・儀長城跡・儀長寺通遺跡」 「年報」 平成6年度 愛知県埋蔵文化財センター
- 1995 c 「一色青海遺跡」 「年報」 平成6年度 愛知県埋蔵文化財センター
- 池本正明他 1994 a 「正楽寺・儀長城跡」 「年報」 平成5年度 愛知県埋蔵文化財センター
- 1994 b 「一色青海遺跡」 「年報」 平成5年度 愛知県埋蔵文化財センター
- 石黒立人他 1994 「跡ノ道跡・一色長畠遺跡」 愛知県埋蔵文化財センター
- 宇野隆夫 1982 「井戸考」 「史林」65-5
- 大橋康二 1989 「肥前陶器」 考古学ライブラリー55 ニューサイエンス社
- 大橋康二他 1988 「古伊万里」 別冊太陽 平凡社
- 岡本直久 1990 「松河戸遺跡 SD105について」 「年報」 平成元年度 愛知県埋蔵文化財センター
- 加藤唐九郎他 1962 「原色陶器大辞典」 洋文社
- 蟹江吉弘他 1993 「堀之内花之木遺跡」 愛知県埋蔵文化財センター
- 北村利弘 1990 「雄倉・室町時代」 「阿弥陀寺遺跡」 愛知県埋蔵文化財センター
- 斎藤孝正 1983 「猿投窟成立期の様相」 「名古屋大学文学部研究論集」86
- 1986 「東山61号窟出土の須恵器」 「名古屋大学総合研究資料館報告」2
- 1988 「猿投窟第III期杯類の型式編年」 「名古屋大学総合研究資料館報告」4
- 1989 「古墳時代の猿投窟」 「断夫山古墳とその時代」 東海埋蔵文化財研究会
- 斎藤孝正他 1995 「須恵器集成図録」第三巻 東日本編 雄山閣出版
- 佐藤公保 1986 「中世土器研究ノート(1)」 「年報」 昭和60年度 愛知県埋蔵文化財センター
- 城ヶ谷和広 1991 a 「古代尾張の土器」 「年報」 平成2年度 愛知県埋蔵文化財センター
- 1991 b 「土田遺跡における中世土器の様相」 「土田遺跡」II 愛知県埋蔵文化財センター
- 鈴木正貴他 1995 「宿場町期の遺物」 「清洲城下町遺跡」V 愛知県埋蔵文化財センター
- 田口昭二 1983 「美濃焼」 考古学ライブラリー17 ニューサイエンス社
- 1993 「美濃窯の焼物」 多治見市教育委員会
- 立松彰 1994 「愛知県」 「日本土器製造研究」 青木書店
- 中野晴久 1983 「知多古窯址群における山茶碗の研究」 「常滑市民資料館研究紀要」I
- 1987 「知多古窯跡群」 「マージナル」7 愛知考古学談話会
- 1994 「生産地における編年について」 「中世常滑焼をとおって」資料集 日本福祉大学知多半島総合研究所
- 1995 a 「生産地における編年について」 「常滑焼と中世社会」 小学館
- 1995 b 「常滑焼編年作業と今後の課題」 「考古学ジャーナル」396
- 仲野泰裕 1988 「江戸時代後期の本業」 「江戸時代後期本業展」 濱戸市文化センター・濱戸市歴史民俗資料館
- 橋崎彰一 1979 「中世の社会と陶器生産」 「世界陶磁全集」3
- 1983 「猿投窟の編年について」 「愛知県古窯跡分布調査報告」III 愛知県教育委員会
- 新田 洋 1985 「平安時代から中世に於ける煮沸用具—伊勢型鍋」に関する若干の観察—「三重考古学研究」1
- 日野幸治 1982 「出土遺物」 「尾張国府跡発掘調査報告書」(IV) 稲沢市教育委員会

| | | |
|-------|------|---|
| 藤沢良祐 | 1982 | 「瀬戸古窯跡群Ⅰ」　「瀬戸市歴史民俗資料館研究紀要」Ⅰ　瀬戸市歴史民俗資料館 |
| | 1984 | 「古瀬戸概況」　「美濃陶磁歴史館報」Ⅲ　土岐市美濃陶磁歴史館 |
| | 1987 | 「本業焼の研究」(1)　「瀬戸市歴史民俗資料館研究紀要」VI　瀬戸市歴史民俗資料館 |
| | 1988 | 「本業焼の研究」(2)　「瀬戸市歴史民俗資料館研究紀要」VII　瀬戸市歴史民俗資料館 |
| | 1989 | 「本業焼の研究」(3)　「瀬戸市歴史民俗資料館研究紀要」VIII　瀬戸市歴史民俗資料館 |
| | 1990 | 「瀬戸古窯跡群Ⅱ」　「瀬戸市歴史民俗資料館研究紀要」X　瀬戸市歴史民俗資料館 |
| | 1991 | 「瀬戸古窯跡群Ⅱ—古瀬戸後期様式の編年一」　「瀬戸市歴史民俗資料館研究紀要」X 瀬戸市歴史民俗資料館 |
| 藤沢良祐他 | 1994 | 「山茶碗研究の現状と課題」　「研究紀要」3　三重県埋蔵文化財センター |
| | 1995 | 「山茶碗の生産体制」　「常滑焼と中世社会」　小学校 |
| 藤沢良祐他 | 1990 | 「尾呂」　瀬戸市教育委員会 |
| | 1993 | 「東海の中世窯」　瀬戸市埋蔵文化財センター |
| 北條文献示 | 1985 | 「儀長町埋蔵文化財発掘調査報告書」　稲沢市教育委員会 |
| 前田雅彦 | 1995 | 「一色青海道跡」　「愛知県埋蔵文化財情報」10　愛知県教育委員会 |
| 町田章也 | 1985 | 「木器集成図録」　奈良国立文化財研究所 |
| 森田勉他 | 1978 | 「太宰府出土の輸入陶磁器について」　「九州歴史資料館研究論集」4 |
| 山川一年 | 1993 | 「本業焼の製品」　「瀬戸市史」陶磁史編5　瀬戸市史編纂委員会 |
| 山下峰司他 | 1991 | 「古瀬戸小西遺跡」　瀬戸市教育委員会 |

付 表



SB (建物)

| 新番号 | 旧番号 | 規模 | 時期 |
|------|---|---------|----|
| SB01 | 93SK34 | | A期 |
| # 02 | 94DSK59 | | # |
| # 03 | 94ASK50, 52, 53, 61, 65, 66, 204, 222 | 3.8×2.2 | C期 |
| # 04 | 94ASK13, 18, 22, 24, 27, 29, 180, 184 | 3.1×2.5 | # |
| # 05 | 94ASK109, 110, 111, 113, 148, 170 | 4.5×1.2 | # |
| # 06 | 94BSK40, 13, 17, 19, 21, 26, 32, 39, 42 | 6.0×4.0 | # |
| # 07 | 94BSK96, 98, 100, 101, 102 | 3.5×1.6 | # |
| # 08 | 94DSK97, 103, 108, 110, 166, 167 | 5.3×1.5 | # |

SA (櫛)

| 新番号 | 旧番号 | 全長 | 時期 |
|------|--------------------------------|------|----|
| SA01 | 94DSK63, 64, 68, 70, 71 | 7.4 | C期 |
| # 02 | 94DSK80, 84, 90, 130, 135, 140 | 13.2 | # |

SE (井戸)

| 新番号 | 旧番号 | 長径 | 短径 | 深さ | 時期 |
|------|----------|-----|-----|----|----|
| SE01 | 94ASX01 | 6.1 | 5.6 | | C期 |
| # 02 | 94ASK168 | 3.0 | — | | # |
| # 03 | 94BSK132 | — | — | | # |
| # 04 | 94BSK111 | — | 2.3 | | # |
| # 05 | 94CSK98 | — | 2.1 | | # |
| # 06 | 94CSK37 | 1.0 | 0.7 | | # |
| # 07 | 94DSK21 | 2.4 | 2.3 | | # |
| # 08 | 94DSK48 | 2.0 | — | | # |
| # 09 | 94DSK147 | 0.5 | 0.4 | | # |
| # 10 | 94DSK153 | — | 0.8 | | # |
| # 11 | 94DSK152 | 0.8 | 0.8 | | # |

SK (土坑)

| 新番号 | 旧番号 | 分類 | 長径 | 短径 | 深さ | 時期 |
|------|--------------------|-----|-----|-----|-----|----|
| SK01 | 93SK46 | 土坑A | — | — | 0.1 | A期 |
| # 02 | 94ASK208 | # | — | — | 0.2 | # |
| # 03 | 94ASK138 | # | — | — | 0.2 | # |
| # 04 | 94CSK69 | # | — | 2.8 | 0.2 | # |
| # 05 | 94CSX01 | # | 8.7 | — | 0.2 | # |
| # 06 | 94BSK147 | 土坑C | 1.7 | — | 0.4 | # |
| # 07 | 93SK25 | 土坑D | — | 0.4 | 0.2 | # |
| # 08 | 94ASK202 | # | 1.4 | — | 0.7 | # |
| # 09 | 94ASK108 | # | 1.4 | 1.2 | 0.1 | # |
| # 10 | 94BSK01 | # | 1.1 | — | 0.1 | # |
| # 11 | 94BSK09 | # | — | 1.1 | 0.1 | # |
| # 12 | 94BSK82 | # | 0.4 | 0.4 | 0.1 | # |
| # 13 | 94CSK90 | # | 0.4 | 0.4 | 0.2 | # |
| # 14 | 94CSK28 | # | 2.3 | — | 0.3 | # |
| # 15 | 94DSK50 | # | — | 0.5 | 0.2 | # |
| # 16 | 94DSK22 | # | 2.1 | 1.2 | 0.4 | # |
| # 17 | 93SK18 | 土坑A | — | — | 0.1 | B期 |
| # 18 | 93SK55 | 土坑C | 2.0 | — | 0.5 | # |
| # 19 | 93SK40 | 土坑D | — | 0.7 | 0.2 | # |
| # 20 | 94BSK113 | # | 0.5 | 0.4 | 0.1 | # |
| # 21 | 94BSK114 | # | 1.5 | 0.8 | 0.2 | # |
| # 22 | 94BSK122 | # | 1.1 | 0.7 | 0.7 | # |
| # 23 | 94CSK84 | # | 0.5 | 0.4 | 0.2 | # |
| # 24 | 94CSK75 | # | — | 1.0 | 0.1 | # |
| # 25 | 93SK32 | 土坑A | — | — | 0.2 | C期 |
| # 26 | 93SK02 94ASK125 | # | 2.9 | 2.5 | 0.1 | # |
| # 27 | 94BSK86 | # | — | — | 0.4 | # |
| # 28 | 94BSK07 | # | — | 3.1 | 0.3 | # |
| # 29 | 94BSK41 | # | 3.0 | — | 0.4 | # |
| # 30 | 93SK30 | 土坑B | 2.8 | 0.8 | 0.1 | # |
| # 31 | 93SK04 | # | — | 0.9 | 0.2 | # |
| # 32 | 93SK07 | # | 3.7 | 1.1 | 0.4 | # |
| # 33 | 93SK06 | # | 2.7 | 0.8 | 0.3 | # |

主要造構計測一覧

| 新番号 | 旧番号 | 分類 | 長径 | 短径 | 深さ | 時期 |
|------|----------|-----|-----|-----|-----|----|
| SK34 | 93SK03 | 土坑B | 5.1 | 1.1 | 0.5 | # |
| # 35 | 94ASK137 | # | — | 1.0 | 0.2 | # |
| # 36 | 94ASK144 | # | — | 2.0 | 0.3 | # |
| # 37 | 94ASK143 | # | 2.9 | 0.9 | 0.3 | # |
| # 38 | 94ASK160 | # | — | 1.0 | 0.1 | # |
| # 39 | 94ASK151 | # | 1.8 | 1.1 | 0.3 | # |
| # 40 | 94ASK152 | # | 3.9 | 1.0 | 0.3 | # |
| # 41 | 93SK68A | 土坑D | — | 1.7 | 0.2 | # |
| # 42 | 94ASK60 | # | 1.0 | 1.0 | 0.5 | # |
| # 43 | 94ASK160 | # | 0.5 | 0.4 | 0.2 | # |
| # 44 | 94ASK63 | # | 0.5 | 0.4 | 0.2 | # |
| # 45 | 94ASK35 | # | 0.5 | 0.4 | 0.2 | # |
| # 46 | 94ASK85 | # | 0.4 | 0.4 | 0.6 | # |
| # 47 | 94CSK93 | # | — | — | 0.1 | # |
| # 48 | 94DSK20 | # | — | 1.0 | 0.1 | # |
| # 49 | 94DSK155 | # | — | — | 0.3 | # |
| # 50 | 94DSK128 | # | 2.4 | — | 0.3 | # |

SD(溝)

| 新番号 | 旧番号 | 全長 | 幅 | 深さ | 時期 |
|------|------------|------|---------|---------|----|
| SD01 | 94B2SD01 | 3.0 | 0.8~1.0 | 0.2 | A期 |
| # 02 | 93SD06 | 8.7 | 0.7~1.0 | 0.1 | C期 |
| # 03 | 93SD04, 07 | 13.6 | 1.2~1.7 | 0.5 | # |
| # 04 | 93SD03 | 7.2 | 0.4~0.9 | 0.2 | # |
| # 05 | 93SD02 | 7.7 | 0.7~1.3 | 0.2~0.3 | # |
| # 06 | 93SD01 | 12.9 | 0.7~1.1 | 0.4 | # |
| # 07 | 94ASD01 | 14.5 | 0.8~1.4 | 0.2 | # |
| # 08 | 94ASD02 | 13.7 | 0.9~1.4 | 0.3 | # |
| # 09 | 94ASD03 | 8.1 | 0.9~1.2 | 0.2 | # |
| # 10 | 94ASD04 | 13.7 | 1.6~2.0 | 0.3 | # |
| # 11 | 94BSD01 | 13.1 | 0.4~1.2 | 0.2~0.3 | # |
| # 12 | 94BSD02 | 4.7 | 0.7~0.9 | 0.2 | # |
| # 13 | 94BSD11 | 21.3 | 0.9~3.7 | 0.2~0.3 | # |
| # 14 | 94CSD04 | 12.0 | 2.0~3.7 | 0.6 | # |

| 新番号 | 旧番号 | 全長 | 幅 | 深さ | 時期 |
|------|---------|------|---------|---------|----|
| SD15 | 94CSD16 | 3.1 | 0.6 | 0.2 | # |
| # 16 | 94CSD13 | 11.4 | 0.5~1.6 | 0.2~0.3 | # |
| # 17 | 94CSD10 | 4.3 | 0.2~0.6 | 0.2 | # |
| # 18 | 94CSD11 | 2.8 | 0.2~0.4 | 0.1 | # |
| # 19 | 94CSD08 | 4.2 | 2.3~2.5 | 0.2 | # |
| # 20 | 94CSD17 | 3.8 | 0.5~0.8 | 0.3~0.4 | # |
| # 21 | 94DSD01 | 6.8 | 0.6~0.9 | 0.2 | # |
| # 22 | 94DSD04 | 17.7 | 0.7 | 0.2 | # |
| # 23 | 94DSD06 | 16.5 | 0.7~1.2 | 0.2 | # |
| # 24 | 94DSD08 | 11.8 | 0.3~0.8 | 0.2~0.3 | # |
| # 25 | 94DSD13 | 3.8 | 0.4~0.8 | 0.2~0.3 | # |
| # 26 | 94DSD09 | 10.7 | 0.4~0.9 | 0.1~0.3 | # |
| # 27 | 94DSD11 | 12.3 | 1.8~2.1 | 0.6 | # |
| # 28 | 94ASD05 | 12.9 | 2.4~2.6 | 0.3~0.6 | D期 |
| # 29 | 94ASD06 | 12.9 | 0.3~1.0 | 0.2 | # |
| # 30 | 94ASD07 | 12.8 | 0.3~ | 0.1 | # |
| # 31 | 94BSD04 | 29.0 | 0.4~1.0 | 0.1 | # |
| # 32 | 94BSD07 | 16.5 | 0.2~ | 0.1 | # |
| # 33 | 94BSD09 | 21.2 | 1.6~1.9 | 0.1~0.3 | # |
| # 34 | 94CSD01 | 11.2 | 0.2~0.4 | 0.1 | # |
| # 35 | 94CSD02 | 18.6 | 0.7~1.5 | 0.1 | # |
| # 36 | 94CSD14 | 11.2 | 0.3~0.4 | 0.1~0.2 | # |
| # 37 | 94CSD15 | 8.0 | 0.2~0.3 | 0.1 | # |
| # 38 | 94CSD05 | 9.8 | 0.6~0.7 | 0.3 | # |
| # 39 | 94CSD06 | 21.3 | 3.2~3.6 | 0.5~0.7 | # |
| # 40 | 94CSD07 | 21.5 | 0.9~3.5 | 0.3~0.6 | # |
| # 41 | 94DSD03 | 18.0 | — | 0.3~0.5 | # |
| # 42 | 94DSD05 | 14.7 | 0.3~0.4 | 0.1~0.2 | # |
| # 43 | 94DSD02 | 12.0 | 0.6~ | 0.1~0.3 | # |

・単位: m

| 番号 | 出土位置 | 種類 | 器種 | 口径 | 底径 | 器高 | 色調 | 登録番号 | 備考 |
|----|------|-----|----|------|------|------|-------------|----------|-----|
| 1 | SB01 | 須恵器 | 壺 | 14.8 | — | 5.3 | 黄灰色 | 93E1 | |
| 2 | SB02 | 土師器 | 甕 | 13.8 | — | — | 浅黄褐色 | 94D E61 | |
| 3 | SK01 | 須恵器 | 杯 | 14.0 | 10.6 | 3.4 | 灰白色 | 93E21 | ひずみ |
| 4 | SK02 | * | 壺 | 12.9 | — | 4.6 | 青灰色 | 94A E184 | |
| 5 | * | * | 瓶 | — | 10.7 | — | 青オリーブ 灰色 | 94A E183 | |
| 6 | SK05 | * | 杯 | 12.6 | — | — | 灰白色 | 94C E3 | |
| 7 | * | * | * | 12.0 | — | — | 灰白色 | 94C E2 | |
| 8 | * | * | * | 11.9 | — | — | 青灰色 | 94C E4 | |
| 9 | * | * | 高杯 | 14.5 | — | — | 青灰色 | 94C E1 | |
| 10 | * | 土師器 | 甕 | 15.9 | 10.0 | 30.6 | にじみ 黄褐色 | 94C E101 | |
| 11 | * | * | * | 14.4 | — | — | 明褐色 | 94C E104 | |
| 12 | * | * | * | 14.5 | — | — | にじみ 黄褐色 | 94C E106 | |
| 13 | * | * | * | 14.6 | — | — | 灰黄褐色 | 94C E105 | |
| 14 | * | * | * | — | — | — | 浅黄褐色 | 94C E102 | |
| 15 | * | * | * | — | 9.2 | — | 浅黄褐色 | 94C E103 | |
| 16 | SK06 | 須恵器 | 甕 | 45.4 | — | — | 灰白色 | 94B E36 | |
| 17 | SK07 | 土師器 | 高杯 | 19.8 | 14.6 | 14.0 | にじみ 黄褐色 | 93E4 | |
| 18 | SK08 | * | 壺 | 9.0 | — | 13.7 | 褐色 | 94A E185 | |
| 19 | SK09 | 須恵器 | 高杯 | 11.8 | 9.7 | 11.1 | 灰白色 | 94A E186 | |
| 20 | SK10 | * | 杯 | 11.2 | — | — | 灰白色 | 94B E106 | |
| 21 | * | 土師器 | 甕 | 19.3 | — | — | 灰黄色 | 94B E105 | |
| 22 | * | * | * | 11.9 | — | — | にじみ 赤褐色 | 94B E104 | |
| 23 | SK11 | 須恵器 | 杯 | 13.0 | — | 5.4 | 灰オリーブ 灰色 | 94B E103 | |
| 24 | * | 土師器 | 甕 | 19.6 | — | — | にじみ 黄褐色 | 94B E55 | |
| 25 | * | * | * | 20.2 | — | 33.3 | にじみ 黄褐色 | 94B E102 | |
| 26 | SK12 | * | * | 21.2 | — | — | にじみ 黄褐色 | 94B E52 | |
| 27 | SK13 | 須恵器 | 杯 | 11.9 | — | 4.4 | 灰白色 | 94C E97 | |
| 28 | * | * | * | 12.6 | 9.5 | 3.8 | オリーブ 灰色 | 94C E100 | |
| 29 | * | * | * | 12.3 | 9.1 | 3.5 | 明褐色 | 94C E99 | |
| 30 | * | * | * | 13.1 | 9.8 | 4.3 | 黑褐色 | 94C E98 | |
| 31 | * | * | 甕 | — | 4.8 | — | 灰白色 | 94C E26 | |
| 32 | * | 土師器 | 甕 | — | — | — | にじみ 黑褐色 | 94C E25 | |
| 33 | SK14 | 須恵器 | 高杯 | 12.8 | 9.9 | 10.0 | 青灰色 | 94C E8 | |
| 34 | * | 土師器 | 甕 | 13.6 | — | — | 浅黄褐色 | 94C E21 | |
| 35 | SK15 | * | 甕 | 13.2 | — | — | 明褐色 | 94D E55 | |

| 番号 | 出土位置 | 種類 | 器種 | 口径 | 底径 | 器高 | 色調 | 登録番号 | 備考 |
|----|------|-----|-----|------|------|------|------------|---------|----|
| 36 | SK16 | 土師器 | 高杯 | 15.9 | — | — | 浅黄褐色 | 94D E21 | |
| 37 | 94A区 | 須恵器 | 杯 | 11.6 | — | 4.8 | 青灰色 | 94A E37 | |
| 38 | 94C区 | * | * | 13.4 | — | 5.1 | 青灰色 | 94C E7 | |
| 39 | 94A区 | * | * | 12.6 | — | 5.2 | 青灰色 | 94A E18 | |
| 40 | 94C区 | * | * | 15.8 | — | 5.0 | 灰白色 | 94C E13 | |
| 41 | 94C区 | * | 甕 | 14.2 | — | 4.9 | 青灰色 | 94C E6 | |
| 42 | 93区 | * | * | 13.1 | — | — | 灰白色 | 93E125 | |
| 43 | 94C区 | * | * | 7.4 | — | — | 青灰色 | 94C E15 | |
| 44 | 93区 | * | * | 11.9 | — | — | 灰白色 | 93E91 | |
| 45 | * | * | * | 11.2 | — | 3.1 | 灰白色 | 93E93 | |
| 46 | * | * | * | 11.2 | — | 2.4 | 灰白色 | 93E124 | |
| 47 | 94A区 | * | * | 11.1 | — | — | 灰白色 | 94A E19 | |
| 48 | 93区 | * | 杯 | — | — | — | 黑褐色 | 93E198 | |
| 49 | * | 土師器 | 高杯 | 17.0 | 11.3 | 12.3 | 淡黄色 | 93E76 | |
| 50 | * | * | * | — | 10.6 | — | 黄褐色 | 93E89 | |
| 51 | 94A区 | * | 甕 | 16.0 | — | — | 淡棕色 | 94A E17 | |
| 52 | 93区 | * | * | 15.6 | — | — | 明褐色 | 93E95 | |
| 53 | * | * | * | 20.4 | — | — | 淡黄色 | 93E90 | |
| 54 | 94A区 | * | * | 16.0 | — | — | 灰白色 | 94A E40 | |
| 55 | 93区 | * | * | 20.0 | — | — | にじみ 褐色 | 93E127 | |
| 56 | SK18 | 須恵器 | 杯A1 | 16.0 | 12.0 | 5.6 | 赤灰色 | 93E157 | |
| 57 | * | * | 杯A1 | 14.5 | 9.9 | 4.0 | 褐色 | 93E150 | |
| 58 | * | * | * | 13.8 | 9.6 | 4.1 | 絞灰色 | 93E160 | |
| 59 | * | * | 杯A1 | 12.0 | 8.6 | 4.5 | 灰オリーブ 色 | 93E154 | |
| 60 | * | * | 杯A2 | 12.8 | 8.8 | 3.3 | 黑褐色 | 93E147 | |
| 61 | * | * | * | 14.0 | 10.2 | 3.9 | 灰白色 | 93E153 | |
| 62 | * | * | * | 13.5 | 9.9 | 4.0 | 明褐色 | 93E151 | |
| 63 | * | * | 杯A2 | 21.9 | 16.0 | 3.6 | 灰色 | 93E162 | |
| 64 | * | * | 杯A2 | 14.0 | 10.2 | 3.7 | 灰色 | 93E165 | |
| 65 | * | * | 杯B1 | 12.8 | — | 4.1 | にじみ 褐色 | 93E152 | |
| 66 | * | * | 杯B2 | 12.1 | 7.7 | 4.5 | 褐色 | 93E148 | |
| 67 | * | * | 杯 | 13.0 | — | — | 赤褐色 | 93E163 | |
| 68 | * | * | * | 12.8 | — | — | 褐色 | 93E161 | |
| 69 | * | * | * | — | 9.6 | — | 黑褐色 | 93E166 | |
| 70 | * | * | 杯C2 | 12.8 | 6.0 | 5.0 | 灰白色 | 93E159 | |

遺物計測一覧

| 番号 | 出土位置 | 種類 | 器種 | 口径 | 底径 | 器高 | 色調 | 登録番号 | 備考 |
|-----|------|-----|-----|------|------|------|-------------|--------|----|
| 71 | SK18 | 須志器 | 杯C1 | 16.2 | 9.2 | 6.3 | 黄灰色 | 93E168 | |
| 72 | # | # | 杯C1 | 11.2 | — | — | オリーブ 黒色 | 93E169 | |
| 73 | # | # | 杯C2 | 12.0 | 5.2 | 3.7 | 黄灰色 | 93E146 | |
| 74 | # | # | # | 11.7 | 6.3 | 3.9 | 灰色 | 93E149 | |
| 75 | # | # | # | 12.6 | 7.4 | 3.6 | オリーブ 灰色 | 93E156 | |
| 76 | # | # | # | 12.8 | 6.4 | 4.8 | 明黄褐色 | 93E155 | |
| 77 | # | # | # | 12.2 | 6.0 | 3.6 | にじい 黄褐色 | 93E158 | |
| 78 | # | # | # | — | 6.0 | — | 灰色 | 93E164 | |
| 79 | # | # | 盤 | 17.5 | — | 4.6 | 灰白色 | 93E170 | |
| 80 | # | # | # | 14.3 | — | 2.5 | 橙色 | 93E172 | |
| 81 | # | # | # | 15.0 | — | 3.4 | 浅黄色 | 93E174 | |
| 82 | # | # | # | 13.0 | — | 2.4 | にじい 黄褐色 | 93E171 | |
| 83 | # | # | # | 13.8 | — | 3.8 | にじい 褐色 | 93E173 | |
| 84 | # | # | # | 14.4 | — | — | 暗オリ ーブ色 | 93E176 | |
| 85 | # | # | # | 15.7 | — | — | 灰オリ ーブ色 | 93E177 | |
| 86 | # | # | # | 15.0 | — | — | 明黄褐色 | 93E175 | |
| 87 | # | # | 盤 | — | 8.0 | — | 暗オリ ーブ色 | 93E187 | |
| 88 | # | # | 長脚瓶 | 7.4 | — | — | 灰色 | 93E181 | |
| 89 | # | # | # | — | — | — | 灰色 | 93E180 | |
| 90 | # | # | # | — | — | — | 灰色 | 93E182 | |
| 91 | # | # | # | — | — | — | 灰白色 | 93E183 | |
| 92 | # | # | 瓶 | — | 8.4 | — | 暗オリ ーブ色 | 93E185 | |
| 93 | # | # | # | — | 10.8 | — | 青灰色 | 93E184 | |
| 94 | # | # | 長脚瓶 | — | 6.1 | — | 灰色 | 93E179 | |
| 95 | # | # | 淨瓶 | 1.3 | 7.8 | 27.3 | 暗オリ ーブ灰色 | 93E145 | |
| 96 | # | # | 高杯 | — | — | — | 灰色 | 93E186 | |
| 97 | # | # | 瓶 | 27.8 | — | — | 灰白色 | 93E187 | |
| 98 | # | 土師器 | 甕 | 22.6 | — | — | にじい 黄褐色 | 93E193 | |
| 99 | # | # | # | 21.6 | — | — | 淡黄褐色 | 93E190 | |
| 100 | # | # | # | 19.8 | — | — | にじい 褐色 | 93E192 | |
| 101 | # | # | # | 14.8 | — | — | 淡黄褐色 | 93E189 | |
| 102 | # | # | # | — | — | — | 淡黄色 | 93E188 | |
| 103 | SK17 | 灰陶器 | 瓶 | 13.9 | 6.7 | 4.6 | 浅黄色 | 93E2 | |
| 104 | # | # | # | — | 7.2 | — | 灰黄色 | 93E3 | |
| 105 | SK19 | 須志器 | 杯C1 | 14.0 | 5.6 | 4.5 | 灰色 | 93E11 | |

| 番号 | 出土位置 | 種類 | 器種 | D径 | 底径 | 器高 | 色調 | 登録番号 | 備考 |
|-----|------|------------|----------|------|-----|-----|------------|----------|-----|
| 106 | SK21 | 須志器 | 杯C1 | 11.6 | — | 3.6 | 青色 | 94B E43 | |
| 107 | SK22 | # | 蓋 | 15.4 | — | 3.3 | にじい 黄褐色 | 94B E42 | |
| 108 | SK23 | # | 短脚瓶 | 9.4 | — | — | 灰白色 | 94C E24 | |
| 109 | SK24 | # | 杯 | 12.0 | — | — | 灰灰色 | 94C E23 | |
| 110 | 93区 | # | 杯C1 | 12.9 | 5.4 | 3.9 | 明赤褐色 | 93E92 | |
| 111 | 94B区 | # | # | 12.5 | 5.0 | 4.2 | 灰色 | 94B E17 | |
| 112 | # | 灰陶器 | 瓶 | 17.5 | 8.4 | 5.4 | 灰黄色 | 94B E16 | |
| 113 | 93区 | # | # | 13.0 | 5.8 | 3.6 | 淡黄色 | 93E67 | |
| 114 | # | # | # | — | 8.4 | — | 灰白色 | 93E122 | |
| 115 | SB04 | 医施系 灰陶器 | 広口瓶 | 16.0 | — | — | 灰白色 | 94A E15 | |
| 116 | # | # | 小瓶 | 9.5 | 3.6 | 2.4 | 灰白色 | 94A E16 | |
| 117 | SB06 | # | 梅C型 | 15.2 | 7.2 | 5.3 | オリーブ 黄色 | 94B E48 | |
| 118 | # | # | 小罐 B型 | 8.6 | 4.6 | 1.9 | 灰白色 | 94B E49 | |
| 119 | SB07 | # | 梅D型 | 14.4 | 6.0 | 5.2 | 灰白色 | 94B E37 | ひずみ |
| 120 | SE01 | # | # | 13.8 | 5.8 | 5.4 | 灰白色 | 94A E67 | |
| 121 | # | # | # | 12.4 | 5.1 | 5.1 | 灰白色 | 94A E69 | |
| 122 | # | # | # | 13.2 | 5.0 | 5.6 | 灰白色 | 94A E68 | |
| 123 | # | # | # | 13.5 | 5.9 | 5.2 | 灰白色 | 94A E66 | |
| 124 | # | # | # | 14.2 | — | — | 灰白色 | 94A E72 | |
| 125 | # | # | # | 14.5 | — | — | 灰白色 | 94A E70 | |
| 126 | # | # | 梅E型 | 15.2 | 6.4 | 4.2 | 褐灰色 | 94A E73 | |
| 127 | # | # | 梅D型 | 13.8 | — | — | 灰白色 | 94A E71 | |
| 128 | # | # | # | 13.6 | — | — | 灰白色 | 94A E74 | |
| 129 | # | # | 梅F型 | 13.8 | — | — | 灰白色 | 94A E80 | |
| 130 | # | # | 梅D型 | — | 5.2 | — | 灰白色 | 94A E76 | |
| 131 | # | # | # | — | 5.6 | — | 灰白色 | 94A E75 | |
| 132 | # | # | # | — | 6.6 | — | 灰白色 | 94A E77 | |
| 133 | # | # | 梅F型 | — | 5.7 | — | 灰白色 | 94A E78 | |
| 134 | # | # | # | — | 5.4 | — | 灰白色 | 94A E79 | |
| 135 | # | # | 小罐 A型 | 7.9 | 4.5 | 1.9 | 灰白色 | 94A E100 | |
| 136 | # | # | 小罐 C型 | 7.7 | 4.8 | 1.7 | 灰白色 | 94A E91 | |
| 137 | # | # | 小罐 B型 | 7.8 | 5.2 | 1.8 | 灰白色 | 94A E84 | |
| 138 | # | # | 小罐 C型 | 8.0 | 4.8 | 1.5 | 灰白色 | 94A E102 | |
| 139 | # | # | 小罐 B型 | 7.4 | 3.7 | 1.9 | 灰白色 | 94A E85 | |
| 140 | # | # | 小罐 C型 | 8.4 | 4.9 | 1.6 | 灰白色 | 94A E95 | |

| 番号 | 出土位置 | 種類 | 器種 | 口径 | 底径 | 器高 | 色調 | 登録番号 | 備考 |
|-----|------|-----------|----------|------|------|------|------------|-------------------|----|
| 141 | SE01 | 灰陶系 陶器 | 小盤 C型 | 7.9 | 4.9 | 1.4 | 灰白色 | 94AE101 | |
| 142 | # | # | # | 7.9 | 5.0 | 1.7 | 灰白色 | 94AE97 | |
| 143 | # | # | # | 7.5 | 5.0 | 1.7 | 灰白色 | 94AE86 | |
| 144 | # | # | # | 8.4 | 5.7 | 1.6 | 灰白色 | 94AE49 | |
| 145 | # | # | # | 6.8 | 3.6 | 1.3 | 灰白色 | 94AE93 | |
| 146 | # | # | # | 7.8 | 5.0 | 1.3 | 灰白色 | 94AE92 | |
| 147 | # | # | # | 7.8 | 5.3 | 1.6 | 灰白色 | 94AE81 重唇 口 | |
| 148 | # | # | # | 7.8 | 4.8 | 1.9 | 灰白色 | 94AE42 | |
| 149 | # | # | # | 8.6 | 5.2 | 1.5 | 灰白色 | 94AE98 | |
| 150 | # | # | # | 9.3 | 5.2 | 1.9 | 灰白色 | 94AE30 | |
| 151 | # | # | # | 8.0 | 4.4 | 1.9 | 灰白色 | 94AE43 | |
| 152 | # | # | # | 8.0 | 4.9 | 1.5 | 灰白色 | 94AE99 | |
| 153 | # | # | # | 8.5 | 5.0 | 1.6 | 灰白色 | 94AE96 | |
| 154 | # | # | 鉢 | 26.6 | 11.2 | 15.2 | 灰白色 | 94AE103 ひずみ | |
| 155 | # | 土師器 | 圓A 1型 | 12.6 | — | — | 浅黃褐色 | 94AE106 | |
| 156 | # | # | # | 7.0 | 4.0 | 1.2 | にじい 橙褐色 | 94AE105 | |
| 157 | # | # | 鍋 | — | — | — | 灰白色 | 94AE109 | |
| 158 | # | # | # | — | — | — | 浅黃褐色 | 94AE119 | |
| 159 | # | # | # | — | — | — | 灰白色 | 94AE108 | |
| 160 | # | # | # | — | — | — | 浅黃褐色 | 94AE107 | |
| 161 | # | 貿易 陶器 | 青磁瓶 | — | — | — | 灰白色 | 94AE104 | |
| 162 | SE02 | 灰陶系 陶器 | 瓶C型 | 15.0 | 5.5 | 5.4 | 灰白色 | 94AE61 | |
| 163 | # | # | # | 14.8 | 6.4 | 5.2 | 灰白色 | 94AE60 | |
| 164 | # | # | # | 13.8 | — | — | 灰白色 | 94AE59 | |
| 165 | # | # | 瓶B型 | — | 6.0 | — | 灰白色 | 94AE62 | |
| 166 | # | # | 瓶F型 | — | 5.4 | — | 浅黃褐色 | 94AE56 ひずみ | |
| 167 | # | # | # | — | 6.2 | — | 灰白色 | 94AE55 | |
| 168 | # | # | 小柄 | — | 4.6 | — | 灰白色 | 94AE63 | |
| 169 | # | # | 小盤 A型 | 7.3 | 4.0 | 2.1 | 灰白色 | 94AE65 | |
| 170 | # | 土師器 | 鍋 | — | — | — | 灰白色 | 94AE58 | |
| 171 | # | # | # | — | — | — | 灰白色 | 94AE57 | |
| 172 | SE03 | 灰陶系 陶器 | 瓶D型 | 14.0 | 6.0 | 5.0 | 灰白色 | 94BE1 | |
| 173 | # | # | 瓶E型 | 13.0 | 5.8 | 5.2 | 灰白色 | 94BE3 | |
| 174 | # | # | 瓶F型 | 14.0 | 5.8 | 5.4 | 浅黃褐色 | 94BE8 | |
| 175 | # | # | # | 14.6 | 6.6 | 5.6 | 灰白色 | 94BE7 | |

| 番号 | 出土位置 | 種類 | 器種 | 口径 | 底径 | 器高 | 色調 | 登録番号 | 備考 |
|-----|------|-----------|----------|------|------|-----|------------|---------------|----|
| 176 | SE03 | 灰陶系 陶器 | 陶人頭 | — | 7.4 | — | 灰白色 | 94BE11 | |
| 177 | # | # | 陶D型 | — | 6.2 | — | 灰白色 | 94BE6 | |
| 178 | # | # | 陶C型 | — | 6.8 | — | 灰白色 | 94BE5 | |
| 179 | # | # | 陶D型 | — | 6.8 | — | 灰白色 | 94BE4 | |
| 180 | # | # | 陶F型 | — | 6.0 | — | 灰白色 | 94BE10 | |
| 181 | # | # | # | — | 5.0 | — | 灰白色 | 94BE9 | |
| 182 | # | # | 小盤 C型 | 8.3 | 4.5 | 1.9 | 灰白色 | 94BE12 | |
| 183 | # | # | 小盤 B型 | 8.0 | 4.6 | 2.1 | 灰白色 | 94BE13 | |
| 184 | # | # | 盞 | — | 13.6 | — | 灰白色 | 94BE14 | |
| 185 | SE04 | # | 小盤 D型 | 8.5 | 5.5 | 1.1 | 灰白色 | 94BE41 | |
| 186 | # | # | # | 8.4 | 5.2 | 1.1 | 灰白色 | 94BE40 | |
| 187 | SE07 | # | 陶B型 | 15.6 | 6.4 | 5.1 | 灰黃色 | 94DE7 | |
| 188 | # | # | # | 15.4 | 6.8 | 4.9 | 灰白色 | 94DE1 | |
| 189 | # | # | # | 15.6 | 7.2 | 5.0 | 灰白色 | 94DE3 | |
| 190 | # | # | # | 15.8 | 7.6 | 5.0 | 灰白色 | 94DE4 | |
| 191 | # | # | # | 15.7 | 7.1 | 5.4 | 灰白色 | 94DE2 | |
| 192 | # | # | 陶C型 | 15.2 | 6.6 | 5.9 | 灰黃色 | 94DE5 | |
| 193 | # | # | # | 14.9 | 6.8 | 5.1 | 灰白色 | 94DE6 | |
| 194 | # | # | 陶B型 | 17.2 | — | — | 灰白色 | 94DE9 | |
| 195 | # | # | 小盤 A型 | 7.8 | 4.0 | 2.3 | 灰白色 | 94DE16 | |
| 196 | # | # | # | 8.1 | 4.6 | 2.3 | 灰白色 | 94DE11 | |
| 197 | # | # | # | 8.1 | — | — | 灰白色 | 94DE12 | |
| 198 | # | # | # | 8.4 | 3.8 | 2.2 | 灰白色 | 94DE10 | |
| 199 | # | # | 羽筆 | — | — | — | 明赤褐色 | 94DE13 ひずみ | |
| 200 | # | 土師器 | 鍋 | — | — | — | 淡黃色 | 94DE15 | |
| 201 | SE08 | 灰陶系 陶器 | 陶F型 | — | 4.4 | — | 灰白色 | 94DE65 | |
| 202 | SE10 | # | 陶C型 | — | 5.6 | — | 灰白色 | 94DE31 | |
| 203 | # | # | 盞 | — | — | — | 明青灰色 | 94DE30 | |
| 204 | # | # | # | — | — | — | 灰黑色 | 94DE29 | |
| 205 | # | # | 盞 | — | — | — | にじい 赤褐色 | 94DE32 | |
| 206 | SK26 | # | 陶B型 | 16.0 | — | — | 灰白色 | 94AE51 | |
| 207 | # | # | # | — | 7.2 | — | 灰黃色 | 93E10 | |
| 208 | # | # | 小盤 A型 | 7.4 | 3.4 | 2.2 | 灰黃色 | 93E9 | |
| 209 | # | # | 鉢 | 34.0 | — | — | 灰白色 | 93E8 | |
| 210 | # | 土師器 | 圓A 1型 | 8.4 | 4.0 | 1.7 | 浅黃褐色 | 94AE52 | |

遺物計測一覧

| 番号 | 出土位置 | 種類 | 器種 | 口径 | 底径 | 器高 | 色調 | 登録番号 | 備考 |
|-----|------|-----------|----------|------|-----|-----|------------|----------|----|
| 211 | SK27 | 土師器 | 皿A 3型 | 9.8 | 4.0 | 2.3 | にじい 黄褐色 | 94B E53 | |
| 212 | SK28 | 灰陶系 陶器 | 碗D型 | 14.6 | 6.8 | 5.1 | 灰オリ 一色 | 94B E79 | |
| 213 | # | # | # | 15.8 | 7.0 | 4.3 | 灰白色 | 94B E81 | |
| 214 | # | # | 碗F型 | 15.2 | — | — | 灰白色 | 94B E85 | |
| 215 | # | # | 碗D型 | — | 6.8 | — | 灰白色 | 94B E82 | |
| 216 | # | # | 碗C型 | — | 7.4 | — | 灰白色 | 94B E83 | |
| 217 | # | # | 碗D型 | — | 6.6 | — | 灰白色 | 94B E84 | |
| 218 | # | # | 小皿 C型 | 8.6 | 5.4 | 1.4 | にじい 黄褐色 | 94B E88 | |
| 219 | # | # | # | 8.4 | 5.4 | 1.7 | 灰白色 | 94B E87 | |
| 220 | # | # | # | 8.2 | 5.0 | 1.8 | 灰白色 | 94B E90 | |
| 221 | # | # | # | 8.8 | 5.2 | 1.7 | 灰白色 | 94B E89 | |
| 222 | # | # | # | 7.7 | 5.2 | 1.5 | 灰白色 | 94B E86 | |
| 223 | # | # | # | 8.0 | 5.0 | 1.7 | 灰白色 | 94B E91 | |
| 224 | # | # | # | 8.0 | 5.0 | 1.7 | 灰白色 | 94B E92 | |
| 225 | # | 土師器 | 皿A 2型 | 9.0 | 4.2 | 1.3 | にじい 黄褐色 | 94B E95 | |
| 226 | # | # | 皿A 1型 | 8.4 | 5.6 | 1.3 | 淡黄褐色 | 94B E93 | |
| 227 | # | # | # | 6.8 | 4.0 | 1.2 | にじい 黄褐色 | 94B E94 | |
| 228 | # | # | # | 8.6 | — | — | にじい 黄褐色 | 94B E96 | |
| 229 | # | # | 皿B型 | — | 7.8 | — | 褐色 | 94B E97 | |
| 230 | # | 質易 陶器 | 青釉碗 | 17.0 | — | — | 灰オリ 一色 | 94B E98 | |
| 231 | # | # | # | — | — | — | 明緑灰色 | 94B E45 | |
| 232 | SK34 | 灰陶系 陶器 | 碗F型 | 14.6 | — | — | 灰黄色 | 93E 13 | |
| 233 | # | # | 碗B型 | — | 6.7 | — | 灰白色 | 93E 12 | |
| 234 | # | # | 碗F型 | — | 4.2 | — | 灰白色 | 93E 14 | |
| 235 | SK37 | # | # | — | 6.0 | — | 灰白色 | 94A E188 | |
| 236 | # | # | 小皿 C型 | 7.4 | 5.4 | 1.7 | 灰白色 | 94A E189 | |
| 237 | # | # | 小皿 D型 | 8.2 | 5.0 | 1.0 | 淡黄色 | 94A E190 | |
| 238 | SK41 | # | 小皿 C型 | 7.8 | 5.2 | 1.5 | 灰白色 | 93E 19 | |
| 239 | SK42 | # | 小碗 | 9.7 | 4.4 | 3.5 | 灰色 | 94A E43 | |
| 240 | SK43 | # | 碗C型 | 13.4 | 6.2 | 5.2 | 灰白色 | 94A E54 | |
| 241 | SK44 | 質易 陶器 | 白釉碗 | — | 5.6 | — | 灰白色 | 94A E44 | |
| 242 | SK45 | # | # | 16.2 | — | — | 灰白色 | 94A E42 | |
| 243 | SK46 | 灰陶系 陶器 | 碗C型 | 13.2 | — | — | 灰白色 | 94A E46 | |
| 244 | # | # | # | 13.1 | — | — | 灰白色 | 94A E48 | |
| 245 | # | # | # | — | 6.1 | — | 灰白色 | 94A E47 | |

| 番号 | 出土位置 | 種類 | 器種 | 口径 | 底径 | 器高 | 色調 | 登録番号 | 備考 | |
|-----|------|-----------|----------|------|-----|-----|------------|---------|--------|--|
| 246 | SK47 | 灰陶系 陶器 | 小皿 B型 | 8.4 | 5.0 | 1.8 | 灰色 | 94C E28 | | |
| 247 | SK48 | # | 碗B型 | 15.0 | — | — | 灰白色 | 94D E17 | | |
| 248 | # | # | # | — | 7.0 | — | 灰白色 | 94D E18 | | |
| 249 | # | # | # | — | 7.2 | — | 灰白色 | 94D E19 | | |
| 250 | SK49 | # | 短脚盆 | 10.7 | — | — | 灰白色 | 94D E33 | | |
| 251 | SK50 | # | 碗F型 | 14.6 | 6.9 | 5.2 | 灰白色 | 94D E27 | | |
| 252 | # | # | 碗B型 | 16.1 | 6.6 | 5.1 | 灰白色 | 94D E28 | | |
| 253 | SD62 | # | # | 15.0 | 7.6 | 4.6 | 灰白色 | 93E 44 | | |
| 254 | # | 灰陶 陶器 | 碗 | — | 8.6 | — | 灰白色 | 93E 49 | | |
| 255 | # | 灰陶系 陶器 | 碗B型 | — | 7.3 | — | 灰白色 | 93E 48 | | |
| 256 | # | # | # | — | 6.6 | — | 明黄褐色 | 93E 51 | | |
| 257 | # | # | # | — | 7.8 | — | 灰オリ 一色 | 93E 43 | | |
| 258 | # | # | 碗A型 | — | 7.4 | — | 灰白色 | 93E 45 | | |
| 259 | # | # | 碗B型 | — | 6.6 | — | 灰白色 | 93E 50 | | |
| 260 | # | # | # | — | 7.3 | — | 灰白色 | 93E 47 | | |
| 261 | # | # | # | — | 6.7 | — | 灰白色 | 93E 52 | | |
| 262 | # | # | 小皿 A型 | 8.8 | 4.3 | 2.5 | 明黄褐色 | 93E 42 | | |
| 263 | # | # | # | — | 8.7 | 4.7 | 2.4 | 灰白色 | 93E 46 | |
| 264 | # | 灰陶 陶器 | 盤 | — | 8.2 | — | 灰白色 | 93E 130 | | |
| 265 | # | 灰陶系 陶器 | # | — | — | — | 灰白色 | 93E 53 | | |
| 266 | SD63 | # | 碗F型 | 12.6 | — | — | 灰白色 | 93E 41 | | |
| 267 | SD64 | # | 碗C型 | — | 7.4 | — | 淡黄色 | 93E 38 | | |
| 268 | # | # | 碗B型 | — | 6.9 | — | 灰白色 | 93E 39 | | |
| 269 | # | # | 碗F型 | — | 4.6 | — | 灰白色 | 93E 37 | | |
| 270 | SD65 | # | 碗C型 | — | 6.6 | — | 灰白色 | 93E 36 | | |
| 271 | # | # | # | — | 6.2 | — | 灰色 | 93E 33 | | |
| 272 | # | # | # | — | 6.3 | — | 灰白色 | 93E 35 | | |
| 273 | # | # | # | — | 5.9 | — | 灰白色 | 93E 34 | | |
| 274 | # | # | 小皿 B型 | 7.7 | 4.2 | 1.9 | 灰白色 | 93E 32 | ひすみ | |
| 275 | SD66 | # | 碗B型 | — | 7.0 | — | 灰白色 | 93E 23 | | |
| 276 | # | # | 小碗 | — | 5.0 | — | 灰白色 | 93E 24 | | |
| 277 | # | # | 小皿 A型 | 8.0 | 4.4 | 1.8 | 灰白色 | 93E 26 | | |
| 278 | # | # | # | — | 3.6 | — | 灰黄色 | 93E 25 | | |
| 279 | # | # | # | — | 2.8 | — | 灰白色 | 93E 27 | | |
| 280 | # | # | 甕 | 20.0 | — | — | にじい 黄褐色 | 93E 30 | | |

| 番号 | 出土位置 | 種類 | 器種 | 口径 | 底径 | 器高 | 色調 | 登録番号 | 備考 |
|-----|------|-----------|----------|------|-----|-----|------------|---------|-----|
| 281 | SD06 | 灰陶系 陶器 | 壺 | — | — | — | オリーブ 黒色 | 93E28 | |
| 282 | # | # | # | — | — | — | 灰オリーブ色 | 93E29 | |
| 283 | # | 貿易 陶器 | 青磁瓶 | — | — | — | 灰白色 | 93E31 | |
| 284 | SD07 | 灰陶系 陶器 | 壺A型 | — | 8.0 | — | 灰白色 | 94AE137 | |
| 285 | SD08 | # | 壺C型 | 14.4 | 6.8 | 4.2 | 灰白色 | 94AE116 | |
| 286 | # | # | # | 14.6 | — | — | 灰白色 | 94AE119 | |
| 287 | # | # | # | 13.8 | — | — | 灰白色 | 94AE118 | |
| 288 | # | # | 壺D型 | 13.8 | — | — | 灰白色 | 94AE120 | |
| 289 | # | # | # | 14.0 | — | — | 灰白色 | 94AE115 | |
| 290 | # | # | 壺B型 | — | 7.8 | — | 灰白色 | 94AE122 | ひずみ |
| 291 | # | 灰陶 陶器 | 壺 | — | 7.5 | — | 淡黄色 | 94AE114 | |
| 292 | # | 灰陶系 陶器 | 壺C型 | — | 6.6 | — | 灰白色 | 94AE121 | |
| 293 | # | # | 小壺 A型 | 8.0 | 4.3 | 2.3 | 灰白色 | 94AE123 | |
| 294 | # | # | # | 8.3 | 4.0 | 2.0 | 灰白色 | 94AE124 | |
| 295 | # | # | # | — | 3.6 | — | 灰白色 | 94AE125 | |
| 296 | # | # | # | — | 4.0 | — | 灰白色 | 94AE126 | |
| 297 | # | # | 壺 | — | — | — | 灰白色 | 94AE128 | |
| 298 | # | # | # | — | 7.8 | — | 灰白色 | 94AE129 | |
| 299 | # | # | # | — | — | — | 灰白色 | 94AE127 | |
| 300 | # | 土師器 | 壺B型 | — | 6.8 | — | 浅黄色 | 94AE133 | |
| 301 | # | # | # | — | 4.0 | — | 淡赤橙 | 94AE132 | |
| 302 | # | 貿易 陶器 | 青磁瓶 | — | — | — | 灰白色 | 94AE131 | |
| 303 | SD10 | 灰陶系 陶器 | 壺C型 | 15.6 | 7.1 | 5.0 | 灰白色 | 94AE157 | |
| 304 | # | # | # | 14.7 | 6.9 | 4.9 | 灰白色 | 94AE145 | |
| 305 | # | # | # | 14.6 | 6.7 | 5.6 | 灰白色 | 94AE144 | |
| 306 | # | # | # | 14.8 | 7.2 | 4.9 | 灰白色 | 94AE156 | |
| 307 | # | # | # | 13.6 | 6.5 | 5.3 | 灰白色 | 94AE141 | |
| 308 | # | # | # | 14.0 | 6.4 | 4.9 | 灰白色 | 94AE155 | |
| 309 | # | # | 壺D型 | 14.4 | — | — | 灰白色 | 94AE159 | |
| 310 | # | # | 壺C型 | 14.7 | — | — | 灰白色 | 94AE158 | |
| 311 | # | # | # | — | 6.6 | — | 灰白色 | 94AE143 | |
| 312 | # | # | # | — | 7.1 | — | 灰白色 | 94AE142 | |
| 313 | # | # | # | — | 7.3 | — | 灰白色 | 94AE160 | |
| 314 | # | # | # | — | 7.0 | — | 灰白色 | 94AE161 | |
| 315 | # | # | # | — | 5.6 | — | 灰白色 | 94AE140 | |

| 番号 | 出土位置 | 種類 | 器種 | 口径 | 底径 | 器高 | 色調 | 登録番号 | 備考 |
|-----|------|-----------|----------|------|-----|-----|------------|---------|-----|
| 316 | SD10 | 灰陶系 陶器 | 壺B型 | — | 6.9 | — | 灰白色 | 94AE146 | |
| 317 | # | # | 小壺 日置 | 8.1 | 4.3 | 2.2 | 灰白色 | 94AE149 | |
| 318 | # | # | # | 8.3 | 4.5 | 2.0 | 灰白色 | 94AE150 | |
| 319 | # | # | # | 8.7 | 5.2 | 2.2 | 灰白色 | 94AE145 | |
| 320 | # | # | 小壺 C型 | 9.0 | 6.5 | 2.1 | 灰白色 | 94AE164 | |
| 321 | # | # | 小壺 A型 | 7.7 | 4.0 | 2.1 | 灰白色 | 94AE148 | |
| 322 | # | # | 小壺 B型 | 7.6 | 4.2 | 2.0 | 灰白色 | 94AE162 | |
| 323 | # | # | # | 7.9 | 4.6 | 1.8 | 灰白色 | 94AE147 | |
| 324 | # | # | 小壺 C型 | 8.2 | 4.6 | 1.7 | 灰白色 | 94AE151 | |
| 325 | # | 土師器 | 壺A 3個 | 13.2 | — | — | 黃褐色 | 94AE167 | |
| 326 | # | # | 壺A 2個 | 8.6 | 6.0 | 1.1 | 黃褐色 | 94AE168 | |
| 327 | # | # | 壺A 1個 | 8.2 | 5.8 | 1.6 | 黃褐色 | 94AE154 | ひずみ |
| 328 | # | # | # | 8.5 | 4.9 | 1.9 | 黃褐色 | 94AE153 | |
| 329 | # | # | 壺B型 | 7.4 | 4.0 | 1.4 | 黃褐色 | 94AE152 | |
| 330 | # | # | 壺 | 22.0 | — | — | 黃褐色 | 94AE169 | |
| 331 | # | # | # | — | — | — | にじみ 黃褐色 | 94AE170 | |
| 332 | # | 貿易 陶器 | 青磁瓶 | — | — | — | 灰白色 | 94AE171 | |
| 333 | # | # | # | — | — | — | 白色 | 94AE172 | |
| 334 | SD11 | 灰陶系 陶器 | 壺A型 | — | 7.8 | — | 灰白色 | 94BE56 | |
| 335 | # | # | # | — | 5.0 | — | 灰白色 | 94BE57 | |
| 336 | SD12 | # | # | — | 8.2 | — | 灰白色 | 94BE58 | |
| 337 | # | # | 壺B型 | — | 6.8 | — | 灰白色 | 94BE60 | |
| 338 | # | # | # | — | — | — | 灰白色 | 94BE59 | |
| 339 | SD13 | # | 壺D型 | 16.2 | — | — | 灰白色 | 94BE69 | |
| 340 | # | # | # | — | 6.6 | — | 灰白色 | 94BE71 | |
| 341 | # | # | 壺C型 | — | 6.6 | — | 灰白色 | 94BE68 | |
| 342 | # | # | # | — | 6.8 | — | 灰白色 | 94BE74 | |
| 343 | # | # | 壺B型 | — | 8.6 | — | 灰白色 | 94BE70 | |
| 344 | # | # | 小壺 A型 | — | 3.6 | — | 灰白色 | 94BE72 | |
| 345 | # | # | 小壺 D型 | — | 4.0 | — | 灰白色 | 94BE73 | |
| 346 | # | 貿易 陶器 | 青磁瓶 | — | 6.2 | — | オリーブ 灰色 | 94BE76 | |
| 347 | SD14 | 灰陶系 陶器 | 壺C型 | 14.8 | 6.2 | 4.5 | 灰白色 | 94CE90 | ひずみ |
| 348 | # | # | # | 14.6 | — | — | 灰色 | 94CE29 | |
| 349 | # | # | 壺B型 | 15.7 | — | — | 灰白色 | 94CE31 | |
| 350 | # | # | 壺G型 | 11.8 | 4.2 | 3.5 | 灰白色 | 94CE9 | |

遺物計測一覧

| 番号 | 出土位置 | 種類 | 器種 | 口径 | 底径 | 器高 | 色調 | 登録番号 | 備考 |
|-----|------|------------|----------|------|-----|-----|-------------|--------|------------|
| 351 | SD14 | 灰褐色 灰褐色 | 瓶D型 | — | 5.5 | — | 灰白色 | 94CE33 | |
| 352 | # | # | # | — | 6.7 | — | 灰白色 | 94CE32 | |
| 353 | # | # | 小皿 A型 | 8.4 | 4.4 | 2.2 | 灰白色 | 94CE42 | |
| 354 | # | # | # | 7.2 | 4.6 | 2.1 | 灰白色 | 94CE40 | |
| 355 | # | # | 小皿 C型 | 8.4 | 4.6 | 1.6 | 灰白色 | 94CE38 | |
| 356 | # | # | # | 7.2 | 4.8 | 1.5 | 灰白色 | 94CE41 | |
| 357 | # | # | 小皿 D型 | 9.0 | 5.6 | 1.3 | 灰白色 | 94CE39 | |
| 358 | # | 土師器 | 皿A型 | 7.2 | 5.8 | 0.9 | 浅黄色 | 94CE43 | |
| 359 | # | # | 鍋 | — | — | — | 浅黄色 | 94CE51 | |
| 360 | # | # | 羽茎 | 24.2 | — | — | 褐色 | 94CE10 | |
| 361 | # | # | # | 28.0 | — | — | 灰白色 | 94CE44 | |
| 362 | # | # | # | — | — | — | 浅黄色 | 94CE46 | |
| 363 | # | 貿易 陶器 | 青磁瓶 | — | — | — | 灰色 | 94CE52 | |
| 364 | SD15 | 灰褐色 灰褐色 | 瓶F型 | — | 5.2 | — | 明赤灰色 | 94CE85 | |
| 365 | SD19 | # | 瓶A型 | — | 6.0 | — | 灰白色 | 94CE75 | |
| 366 | SD20 | # | 瓶F型 | 12.0 | — | — | 灰白色 | 94CE86 | |
| 367 | # | # | # | — | 5.4 | — | 灰白色 | 94CE87 | |
| 368 | # | # | 折腹 深腹 | — | — | — | 灰白色 | 94CE68 | |
| 369 | SD24 | # | 瓶B型 | 15.9 | 7.9 | 4.7 | 灰白色 | 94DE42 | |
| 370 | # | # | 瓶A型 | — | 6.0 | — | 灰白色 | 94DE43 | |
| 371 | SD25 | # | 瓶B型 | 16.0 | 7.2 | 4.6 | 灰黄色 | 94DE38 | |
| 372 | # | # | 瓶C型 | — | 5.4 | — | 灰黄色 | 94DE40 | |
| 373 | # | # | 瓶B型 | — | 7.2 | — | 灰白色 | 94DE39 | |
| 374 | SD27 | # | 瓶G型 | 11.8 | 3.8 | 3.7 | 灰白色 | 94DE45 | |
| 375 | # | # | # | 13.0 | 4.5 | 4.3 | 灰黄色 | 94DE46 | |
| 376 | # | # | # | 13.8 | 6.2 | 3.9 | 灰色 | 94DE48 | |
| 377 | # | # | # | 11.7 | 3.8 | 3.5 | 明オリーブ 灰色 | 94DE44 | 墨書き 「大」 |
| 378 | # | # | # | 12.6 | 2.9 | 3.2 | 灰白色 | 94DE47 | |
| 379 | # | # | # | 14.0 | — | — | 灰色 | 94DE49 | |
| 380 | # | # | 小皿 D型 | 8.3 | 4.8 | 1.2 | 灰白色 | 94DE50 | 墨書き 「十」 |
| 381 | # | # | # | 8.3 | 5.3 | 1.3 | 灰白色 | 94DE51 | 墨書き 「大」 |
| 382 | # | 貿易 陶器 | 白磁密 | — | — | — | 明緑灰色 | 94DE54 | |
| 383 | 93E | 灰褐色 灰褐色 | 瓶 | 15.6 | 7.0 | 5.2 | 浅黄色 | 93E84 | |
| 384 | 94E区 | # | # | 15.3 | 8.0 | 5.5 | 灰白色 | 94AE9 | |
| 385 | # | # | # | 14.9 | 6.8 | 5.4 | 灰白色 | 94AE24 | |

| 番号 | 出土位置 | 種類 | 器種 | 口径 | 底径 | 器高 | 色調 | 登録番号 | 備考 |
|-----|------|------------|-----|------|-----|-----|-------------|--------|----|
| 386 | 94A区 | 灰褐色 灰褐色 | 瓶 | 14.9 | 7.4 | 5.1 | 灰白色 | 94AE12 | |
| 387 | 94C区 | # | # | 13.0 | 5.4 | 5.7 | 灰色 | 94CE11 | |
| 388 | 93E区 | # | # | 15.6 | 6.7 | 5.3 | 灰白色 | 93E83 | |
| 389 | # | # | # | 12.9 | 4.6 | 4.9 | 淡黄色 | 93E54 | |
| 390 | 94A区 | # | # | 12.8 | 5.0 | 5.6 | 黃灰色 | 94AE31 | |
| 391 | 93E区 | # | # | 13.1 | 4.3 | 3.8 | 灰白色 | 93E87 | |
| 392 | # | # | # | 13.0 | 4.0 | 4.3 | 淡黄色 | 93E81 | |
| 393 | # | # | # | 11.2 | 3.4 | 3.5 | 淡黄色 | 93E109 | |
| 394 | # | # | # | 11.4 | 3.4 | 3.4 | 灰白色 | 93E77 | |
| 395 | 94B区 | # | # | 12.2 | 3.3 | 2.9 | 灰白色 | 94BE31 | |
| 396 | 93E区 | # | 小碗 | 8.6 | 5.0 | 2.7 | 灰白色 | 93E86 | |
| 397 | 94A区 | # | 小皿 | 7.6 | 3.6 | 2.3 | 灰白色 | 94AE20 | |
| 398 | # | # | # | 7.8 | 4.6 | 2.0 | 灰白色 | 94AE4 | |
| 399 | # | # | # | 8.6 | 4.2 | 2.1 | 灰白色 | 94AE8 | |
| 400 | # | # | # | 7.8 | 3.8 | 2.2 | 灰白色 | 94AE21 | |
| 401 | 93E区 | # | # | 8.6 | 4.6 | 2.6 | 灰白色 | 93E85 | |
| 402 | # | # | # | 7.4 | 3.5 | 2.2 | 灰黄色 | 93E74 | |
| 403 | # | # | # | 7.3 | 3.7 | 2.0 | 灰オリーブ 灰色 | 93E96 | |
| 404 | 94A区 | # | # | 8.9 | 4.8 | 1.9 | 灰白色 | 94AE3 | |
| 405 | # | # | # | 8.1 | 4.7 | 1.8 | 灰白色 | 94AE36 | |
| 406 | 93E区 | # | # | 8.2 | 4.4 | 2.0 | 灰白色 | 93E118 | |
| 407 | # | # | # | 8.6 | 4.6 | 1.8 | 灰白色 | 93E119 | |
| 408 | 94A区 | # | # | 7.6 | 4.2 | 1.8 | 灰白色 | 94AE5 | |
| 409 | 93E区 | # | # | 8.0 | 5.3 | 1.7 | 灰白色 | 93E57 | |
| 410 | 94D区 | # | # | 7.6 | 4.8 | 1.7 | 灰白色 | 94DE58 | |
| 411 | 94A区 | # | # | 8.3 | 5.5 | 1.3 | 灰白色 | 94AE6 | |
| 412 | # | # | # | 7.8 | 5.0 | 1.5 | 灰白色 | 94AE2 | |
| 413 | # | # | # | 8.3 | 5.5 | 1.9 | 灰白色 | 94AE1 | |
| 414 | 93E区 | # | # | 8.0 | 5.6 | 1.0 | 淡黄色 | 93E82 | |
| 415 | # | # | # | 7.8 | 4.6 | 1.2 | 灰白色 | 93E59 | |
| 416 | # | # | # | — | — | — | オリーブ 灰色 | 93E121 | |
| 417 | 94B区 | 貿易 陶器 | 青磁瓶 | 17.6 | — | — | 灰オリーブ 灰色 | 94BE32 | |
| 418 | 94D区 | # | # | — | 4.0 | — | 明緑灰色 | 94DE56 | |
| 419 | 93E区 | # | # | — | — | — | 灰白色 | 93E117 | |

・単位cm

弥生土器

| 番号 | 出土位置 | 種類 | 器種 | 口径 | 底径 | 器高 | 色調 | 登録番号 | 備考 |
|-------|------|------|----|------|------|------|------|--------|----|
| SB5-1 | 94B区 | 弥生土器 | 高杯 | 26.6 | 16.0 | 26.2 | 淡黃褐色 | 94BE35 | |

近世土器

| 番号 | 出土位置 | 種類 | 器種 | 口径 | 底径 | 器高 | 色調 | 登録番号 | 備考 |
|-------|------|------|----------|------|------|-----|------|---------|----|
| SH8-1 | SD28 | 近世土器 | 桶 | 10.5 | — | — | 淡黃色 | 94AE173 | |
| 2 | # | # | # | — | — | — | 灰白色 | 94AE174 | |
| 3 | # | # | 不明 | — | 5.3 | — | 淡黃色 | 94AE176 | |
| 4 | # | # | 黑 | — | 6.2 | — | 灰白色 | 94AE175 | |
| 5 | # | # | 鉢 | — | — | — | 淡黃色 | 94AE177 | |
| 6 | SD29 | # | # | — | 16.7 | — | 灰白色 | 94AE136 | |
| 7 | SD31 | # | 鐵便 | — | 7.0 | — | # | 94BE61 | |
| 8 | SD32 | # | 桶 | — | 3.8 | — | # | 94BE63 | |
| 9 | # | # | 不明 | — | 4.8 | — | # | 94BE64 | |
| 10 | SD33 | # | 無高 白盤 | 11.2 | 7.2 | 2.6 | 灰白色 | 94BE67 | |
| 11 | # | # | 鐵鉢 | — | — | — | 淡黃色 | 94BE66 | |
| 12 | SD35 | # | 蓋 | 8.1 | 4.1 | 2.6 | # | 94CE111 | |
| 13 | SD36 | # | 丸桶 | 10.3 | 3.8 | 5.0 | 白色 | 94CE27 | |
| 14 | # | # | 小桶 | 7.7 | 3.2 | 5.3 | 灰白色 | 94CE78 | |
| 15 | # | # | 鐵反桶 | 8.6 | — | — | 白色 | 94CE112 | |
| 16 | # | # | # | 11.2 | 4.2 | 5.9 | 灰白色 | 94CE29 | |
| 17 | # | # | # | 9.7 | 4.0 | 5.2 | 淡黃色 | 94CE80 | |
| 18 | # | # | 広東 茶桶 | — | 5.2 | — | 灰白色 | 94CE81 | |
| 19 | # | # | 鉢 | — | — | — | # | 94CE113 | |
| 20 | # | # | 蓋 | 8.0 | 4.4 | 1.9 | 淡黃褐色 | 94CE82 | |
| 21 | # | # | 鉢 | — | 13.3 | — | 灰白色 | 94CE83 | |
| 22 | SD39 | # | 打明皿 | — | 5.6 | — | # | 94CE56 | |
| 23 | SD40 | # | 桶 | — | 3.4 | — | # | 94CE60 | |
| 24 | # | # | 打明皿 | — | 3.8 | — | # | 94CE61 | |
| 25 | # | # | 蓋 | 7.9 | — | — | 暗赤褐色 | 94CE73 | |
| 26 | # | # | 鐵鉢 | — | 12.8 | — | 灰白色 | 94CE63 | |
| 27 | SD41 | # | 圓合 | — | 3.4 | — | # | 94DE41 | |
| 28 | # | # | 桶 | — | — | — | # | 94DE66 | |
| 29 | 94D区 | # | 鐵反桶 | 10.0 | 3.1 | 5.6 | 淡黃褐色 | 94DE67 | |

| 番号 | 出土位置 | 種類 | 器種 | 口径 | 底径 | 器高 | 色調 | 登録番号 | 備考 |
|----|------|------|----------|------|------|-----|-----|---------|----|
| 30 | 94D区 | 近世土器 | 丸桶 | — | 3.2 | — | 淡黃色 | 94DE68 | |
| 31 | # | # | 広東 茶桶 | 10.0 | 5.0 | 5.7 | # | 94DE36 | |
| 32 | # | # | 弘前器 | 6.6 | — | — | 白色 | 94DE35 | |
| 33 | # | # | 把手 | — | — | — | 灰白色 | 94DE70 | |
| 34 | # | # | 蓋 | — | — | — | 白色 | 94DE69 | |
| 35 | 93E | # | 鉢 | — | — | — | 灰白色 | 93 E205 | |
| 36 | # | # | 實 | — | — | — | 橙色 | 93 E206 | |
| 37 | # | # | 蓋 | — | 10.2 | — | 灰白色 | 93 E207 | |
| 38 | # | # | # | — | 16.2 | — | 淡黃色 | 93 E206 | |

そのほかの土器・土製品

| 番号 | 出土位置 | 名 称 | 重量 | 色 調 | 登録番号 | 備 考 |
|-------|--------|------|-------|---------|---------|-----|
| SH9-1 | SK20 | 製塙土器 | — | 灰黃色 | 94BE39 | |
| 2 | 93E区 | # | — | 褐色 | 93E194 | |
| 3 | # | # | — | 明赤褐色 | 93E195 | |
| 4 | SK28 | 土縁 | 7.9K | にぶい黄褐色 | 94BE100 | |
| 5 | # | # | 8.4K | にぶい黄褐色 | 94BE101 | |
| 6 | SD08 | # | 2.1K | 褐灰色 | 94AE134 | |
| 7 | 94A区 | # | 9.1K | 明黃褐色 | 94AE18 | |
| 8 | 93E区 | # | 2.4K | オリーブ黒色 | 93E201 | |
| 9 | # | # | 1.0K | にぶい黄褐色 | 93E200 | |
| 10 | SE08井内 | 陶丸 | 13.4K | 灰白色 | 94DE63 | |
| 11 | # | # | 10.3K | 灰白色 | 94DE64 | |
| 12 | SD22 | # | 12.0K | 灰白色 | 94DE34 | |
| 13 | SD27 | # | 8.9K | 明オリーブ黒色 | 94DE33 | |
| 14 | # | # | 7.3K | 灰白色 | 94DE32 | |
| 15 | 94C区 | # | 8.2K | 灰白色 | 94CE95 | |
| 16 | 94D区 | # | 10.1K | 灰白色 | 94DE60 | |

遺物計測一覧

加工円盤

| 番号 | 出土位置 | 名称種類 | 重量 | 長径 | 短径 | 色調 | 登録番号 | 備考 |
|--------|------|------|-------|-----|-----|-------|---------|----|
| DE20-1 | SE01 | 加工円盤 | 8.9E | 3.3 | 2.6 | 灰白色 | 94AE113 | |
| 2 | # | # | 12.9E | 3.3 | 2.8 | 灰白色 | 94AE112 | |
| 3 | # | # | 11.3E | 2.9 | 2.7 | 灰白色 | 94AE111 | |
| 4 | SE08 | # | 9.7E | 2.9 | 2.3 | 灰白色 | 94DE23 | |
| 5 | # | # | 7.4E | 2.4 | 2.0 | 灰白色 | 94DE24 | |
| 6 | # | # | 6.3E | 2.7 | 2.1 | 灰白色 | 94DE22 | |
| 7 | # | # | 9.9E | 2.9 | 2.6 | 灰白色 | 94DE25 | |
| 8 | SD02 | # | 9.8E | 3.4 | 2.9 | 淡黄色 | 93E139 | |
| 9 | SD05 | # | 9.4E | 3.2 | 2.5 | 淡黄色 | 93E133 | |
| 10 | SD06 | # | 9.2E | 2.9 | 2.4 | 灰白色 | 93E131 | |
| 11 | # | # | 9.7E | 2.9 | 2.6 | 灰黄色 | 93E132 | |
| 12 | SD10 | # | 6.5E | 2.2 | 2.0 | 灰白色 | 93E134 | |
| 13 | SD28 | # | 10.9E | 2.7 | 2.6 | 灰白色 | 94AE180 | |
| 14 | # | # | 9.5E | 3.1 | 3.0 | 淡黄色 | 94AE179 | |
| 15 | # | # | 9.9E | 3.2 | 2.3 | 灰白色 | 94AE178 | |
| 16 | SD36 | # | 13.4E | 3.3 | 3.1 | 淡い黄褐色 | 94CE244 | |
| 17 | SD38 | # | 12.3E | 3.2 | 2.7 | 灰白色 | 94CE257 | |
| 18 | SD39 | # | 9.2E | 2.8 | 2.6 | 淡い黄褐色 | 94CE258 | |
| 19 | SD40 | # | 5.1E | 2.6 | 2.6 | 灰白色 | 94CE269 | |
| 20 | # | # | 21.4E | 3.9 | 3.8 | 黑褐色 | 94CE271 | |
| 21 | # | # | 3.5E | 2.2 | 2.0 | 灰黄色 | 94CE279 | |
| 22 | 93EK | # | 11.9E | 3.8 | 3.3 | 灰色 | 93E143 | |
| 23 | # | # | 10.0E | 3.5 | 3.2 | 灰色 | 93E142 | |
| 24 | # | # | 6.8E | 3.3 | 3.2 | 浅黄褐色 | 93E140 | |
| 25 | # | # | 7.0E | 3.5 | 3.1 | 灰白色 | 93E141 | |
| 26 | # | # | 8.5E | 2.7 | 2.4 | 灰黄色 | 93E137 | |
| 27 | # | # | 10.0E | 2.9 | 2.3 | 灰黄色 | 93E135 | |
| 28 | # | # | 4.1E | 2.7 | 2.2 | 灰黄色 | 93E136 | |
| 29 | # | # | 8.9E | 3.0 | 3.0 | 淡黄色 | 93E144 | |

瓦

| 番号 | 出土位置 | 種類 | 器種 | 色調 | 登録番号 | 備考 |
|--------|-------|----|----|-----|---------|----|
| DE21-1 | 94AK区 | 瓦 | 平瓦 | 灰白色 | 94AE191 | |
| DE22-2 | 93区 | # | # | 灰白色 | 93E202 | |
| 3 | SE03 | # | 丸瓦 | 灰白色 | 94BE110 | |

石製品

| 番号 | 出土位置 | 種類 | 器種 | 重量 | 石材 | 登録番号 | 備考 |
|--------|-------|-----|----|-------|---------|--------|----|
| DE23-1 | SD04 | 石製品 | 砾石 | 148.6 | 塊質礫岩 | 93S-1 | |
| 2 | 94DK区 | # | # | 68.4 | ホルンフェルス | 94DS-1 | |
| 3 | SD27 | # | # | 89.1 | 礫岩 | 94DS-2 | |
| 4 | 94BK区 | # | # | 63.7 | 礫岩 | 94BS-1 | |

木製品

| 番号 | 出土位置 | 種類 | 器種 | 直径 | 器高 | 登録番号 | 備考 |
|--------|------|-----|----|------|------|--------|----|
| DE24-1 | SE04 | 木製品 | 曲物 | 49.6 | 23.1 | 94BW-1 | |
| 2 | SE08 | # | # | 50.3 | 11.1 | 94DW-1 | |
| 3 | # | # | # | 45.3 | 15.9 | 94DW-2 | |
| 4 | # | # | # | 44.1 | 43.2 | 94DW-3 | |
| 5 | # | # | # | 46.3 | 31.1 | 94DW-4 | |
| 6 | SE10 | # | # | 36.2 | 24.2 | 94DW-5 | |

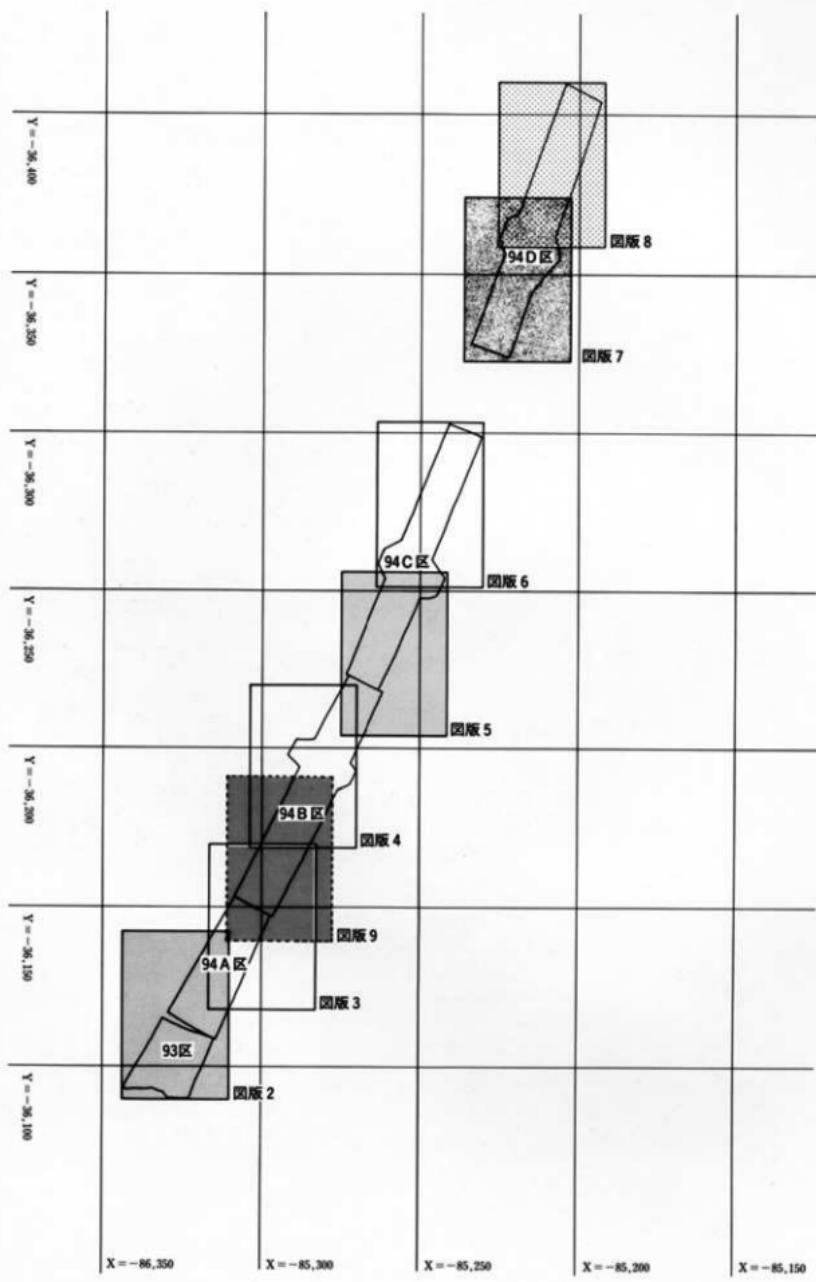
金属製品

| 番 号 | 出土位置 | 種 加 | 器 種 | 登録番号 | 備 考 |
|-------|-------|------|-----|--------|-----|
| 925-1 | SE01 | 金属製品 | 刀子 | 94AM12 | |
| 2 | SE04 | " | | 94BM 2 | |
| 3 | SK05 | " | | 94CM 3 | |
| 4 | SD41 | " | | 94DM 6 | |
| 5 | SD96 | " | 刀子 | 94CM11 | |
| 6 | 94AK区 | " | 鍼貨 | 94AM23 | |
| 7 | 94DK区 | " | 飾金具 | 94DM 8 | |
| 8 | 94DK区 | " | 針 | 94DM 7 | |
| 9 | 94AK区 | " | 刀子 | 94AM18 | |
| 10 | 94DK区 | " | キビル | 94DM 9 | |

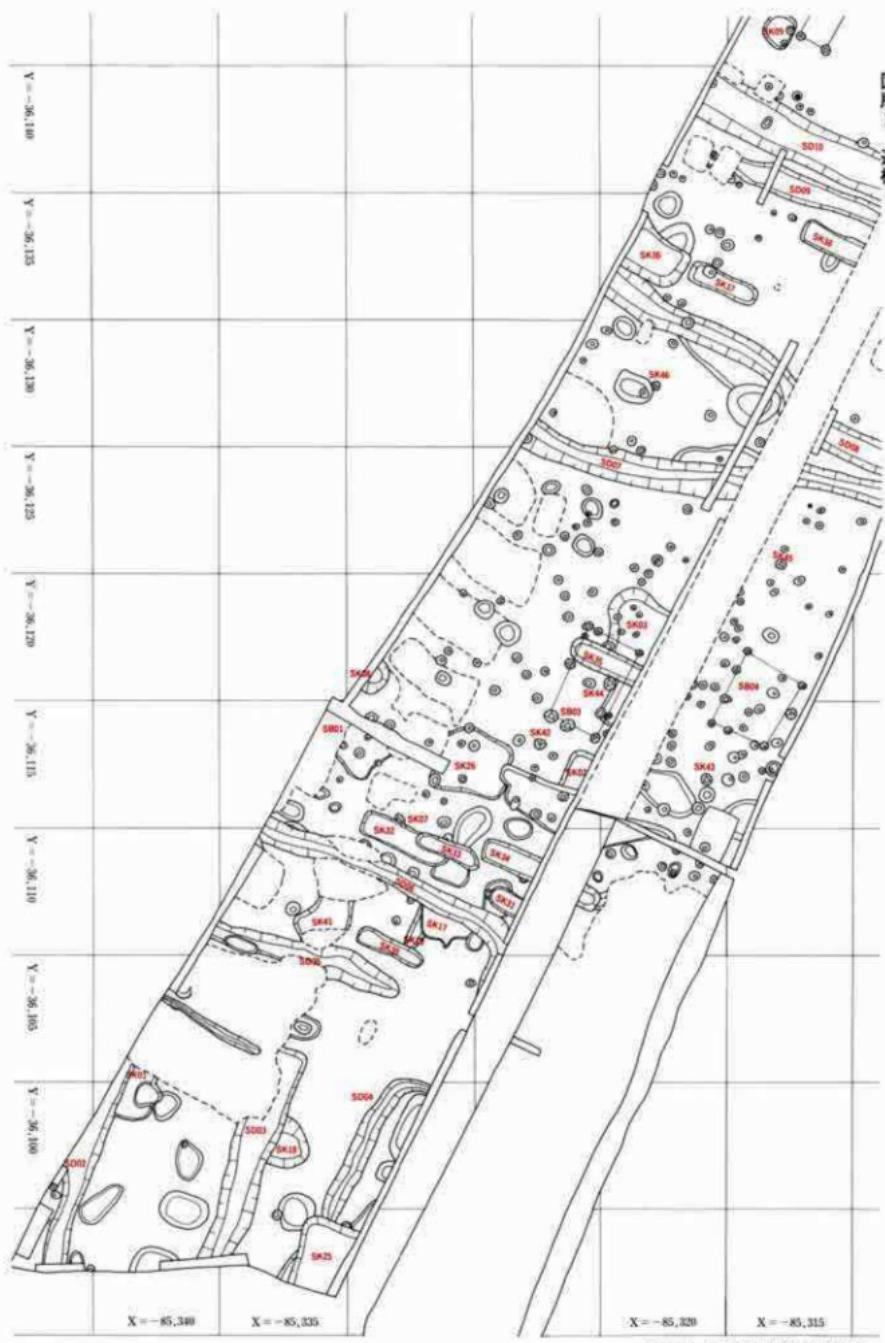
図版



図版1
図版割付図



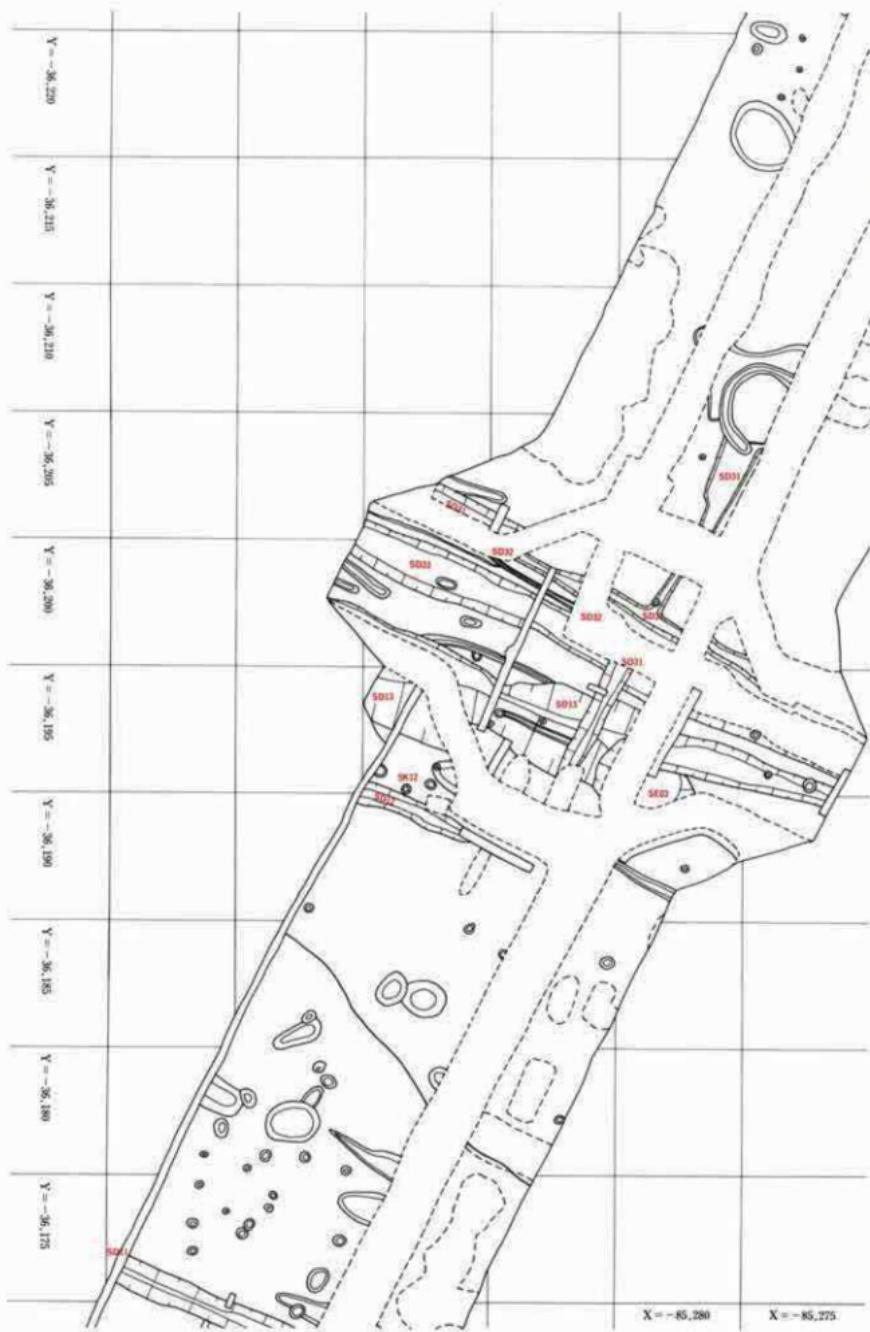
図版2 遺構1

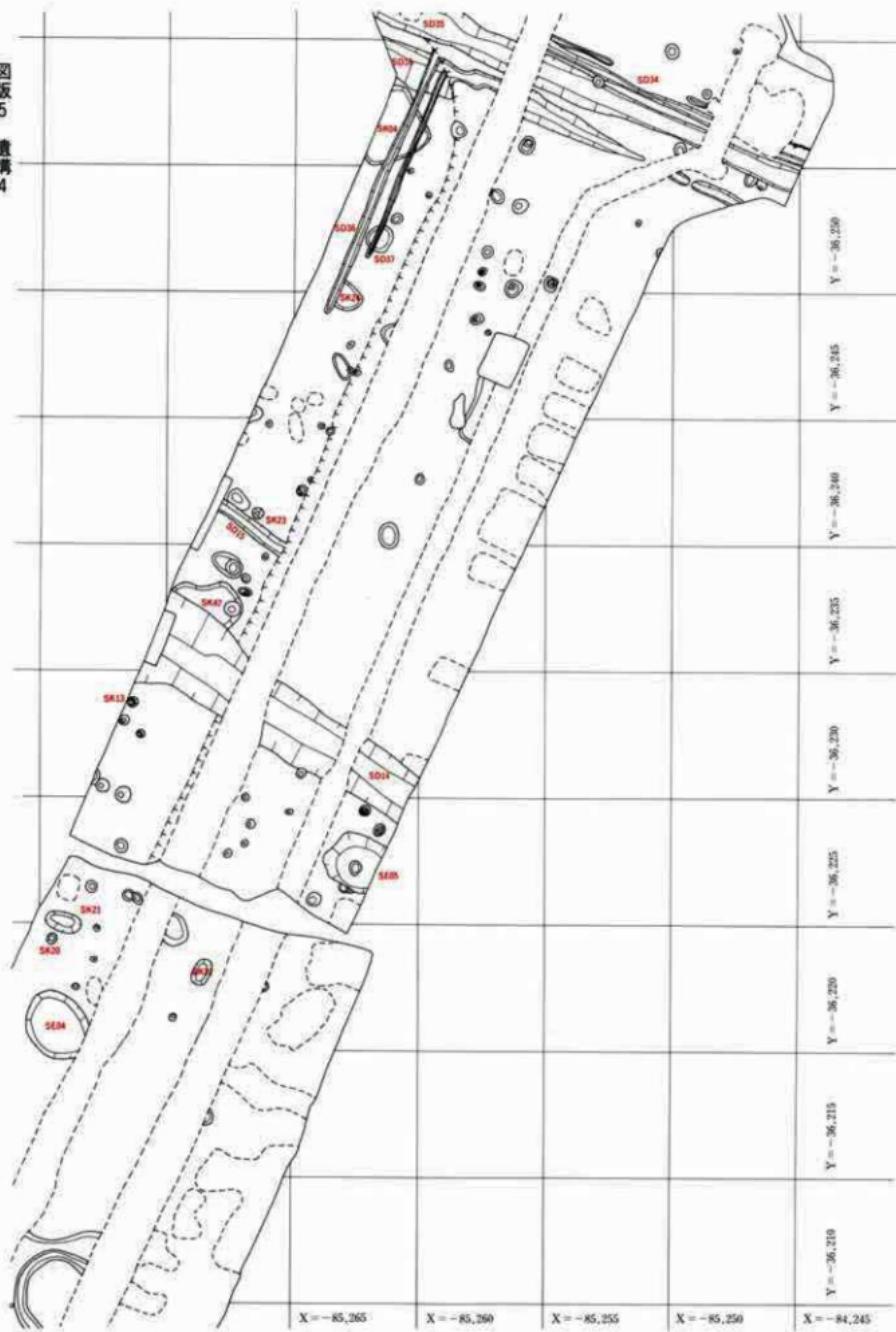


図版2～9の破線は擾乱を表現する。

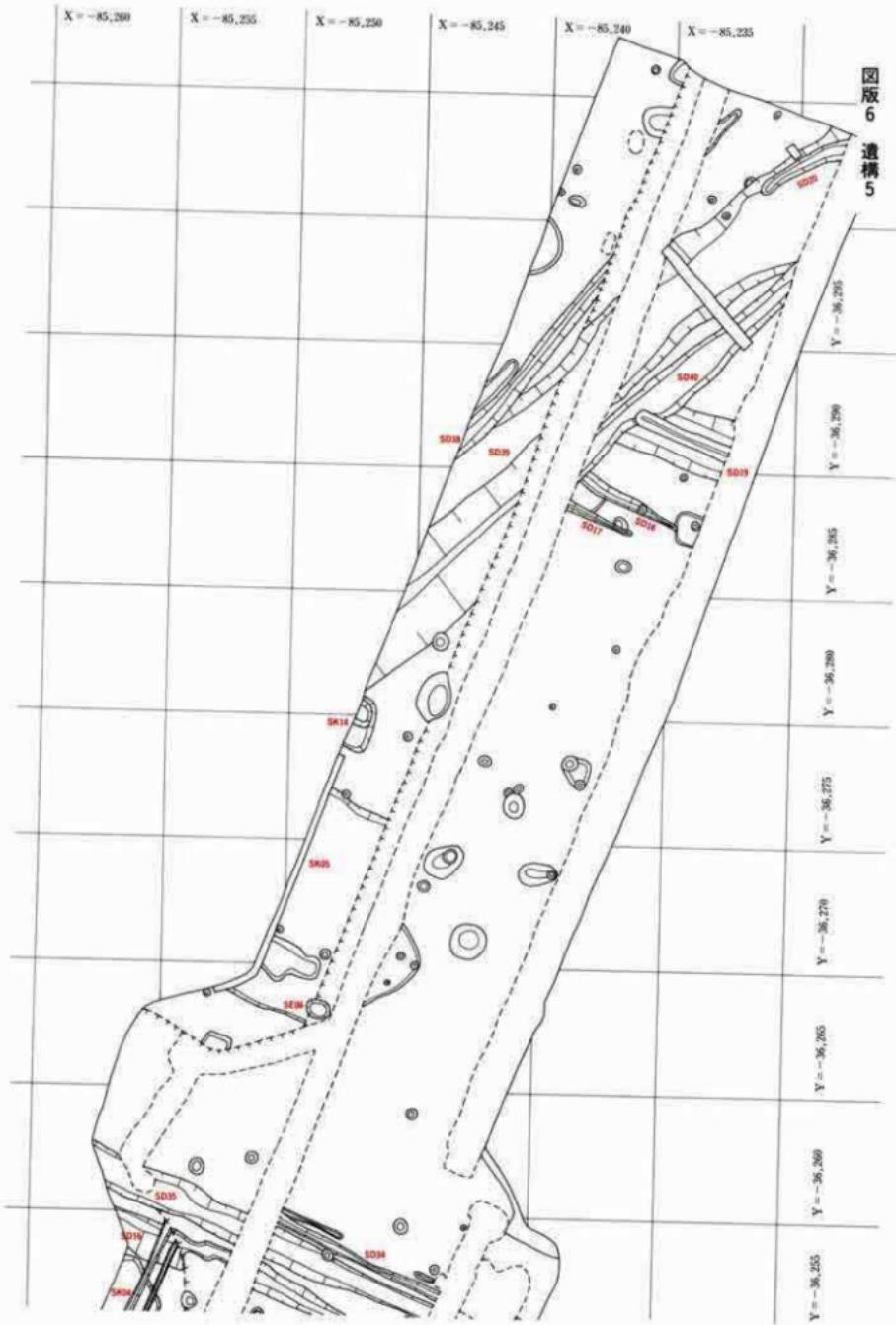


図版4 遺構3



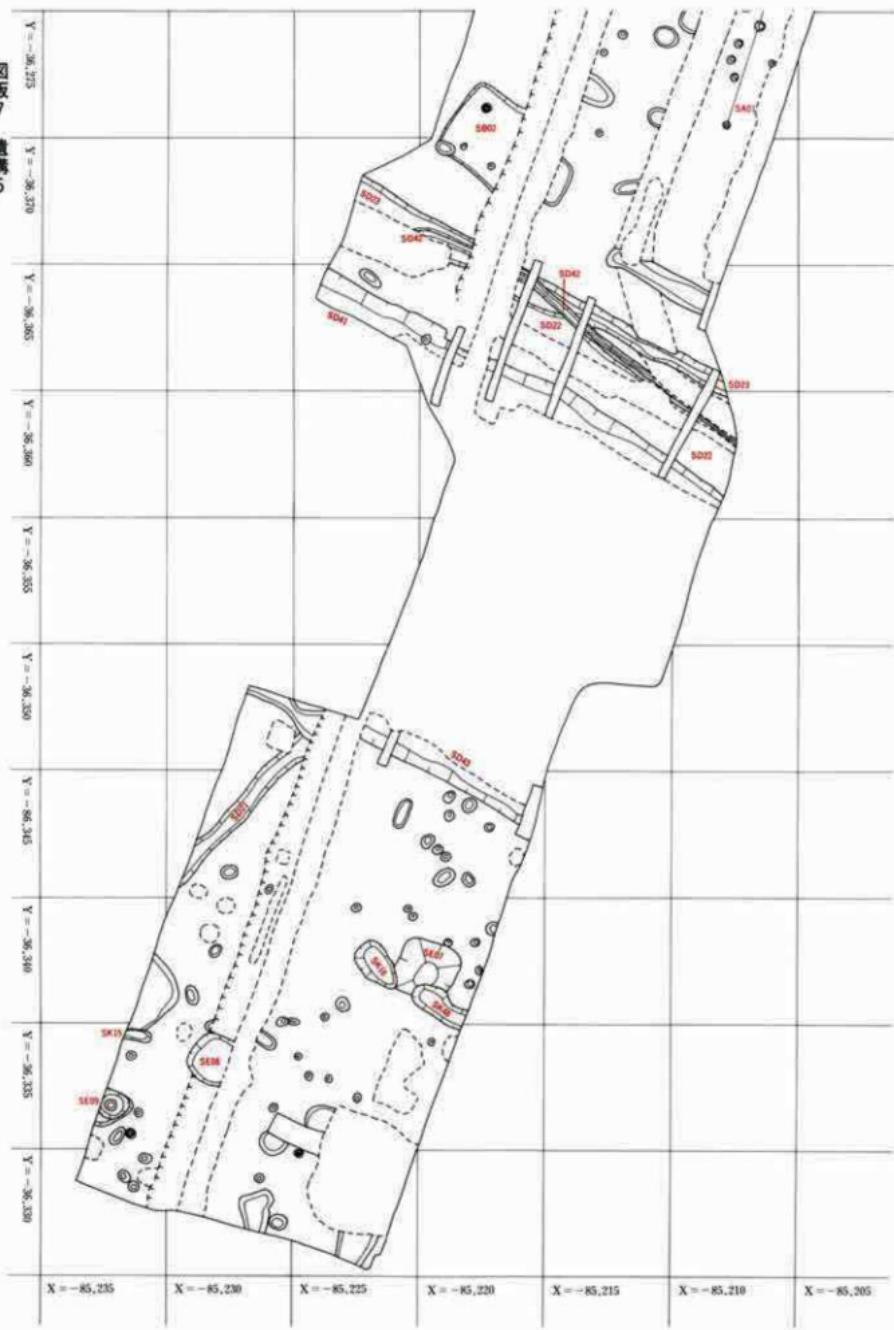


図版 6 遺構 5

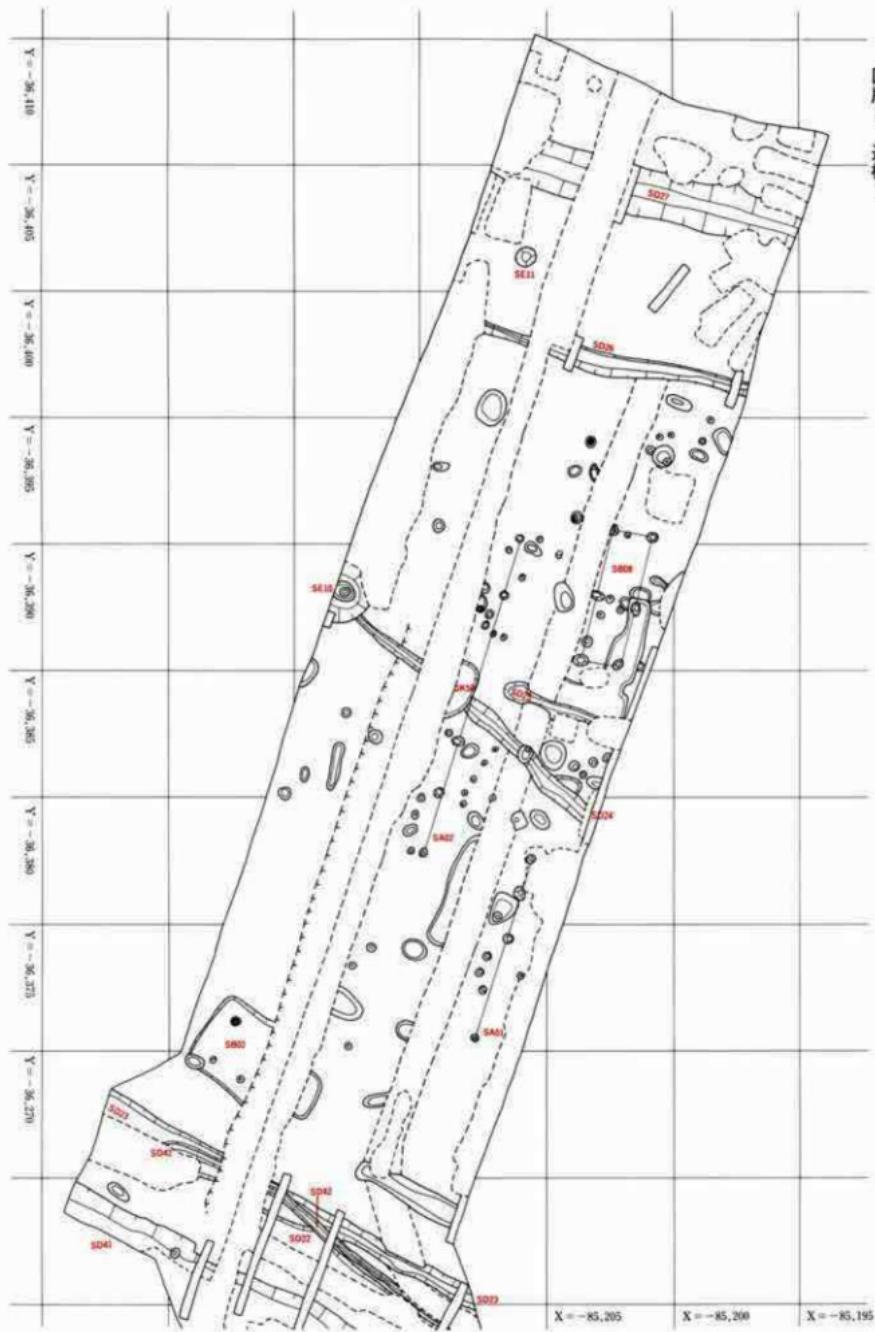


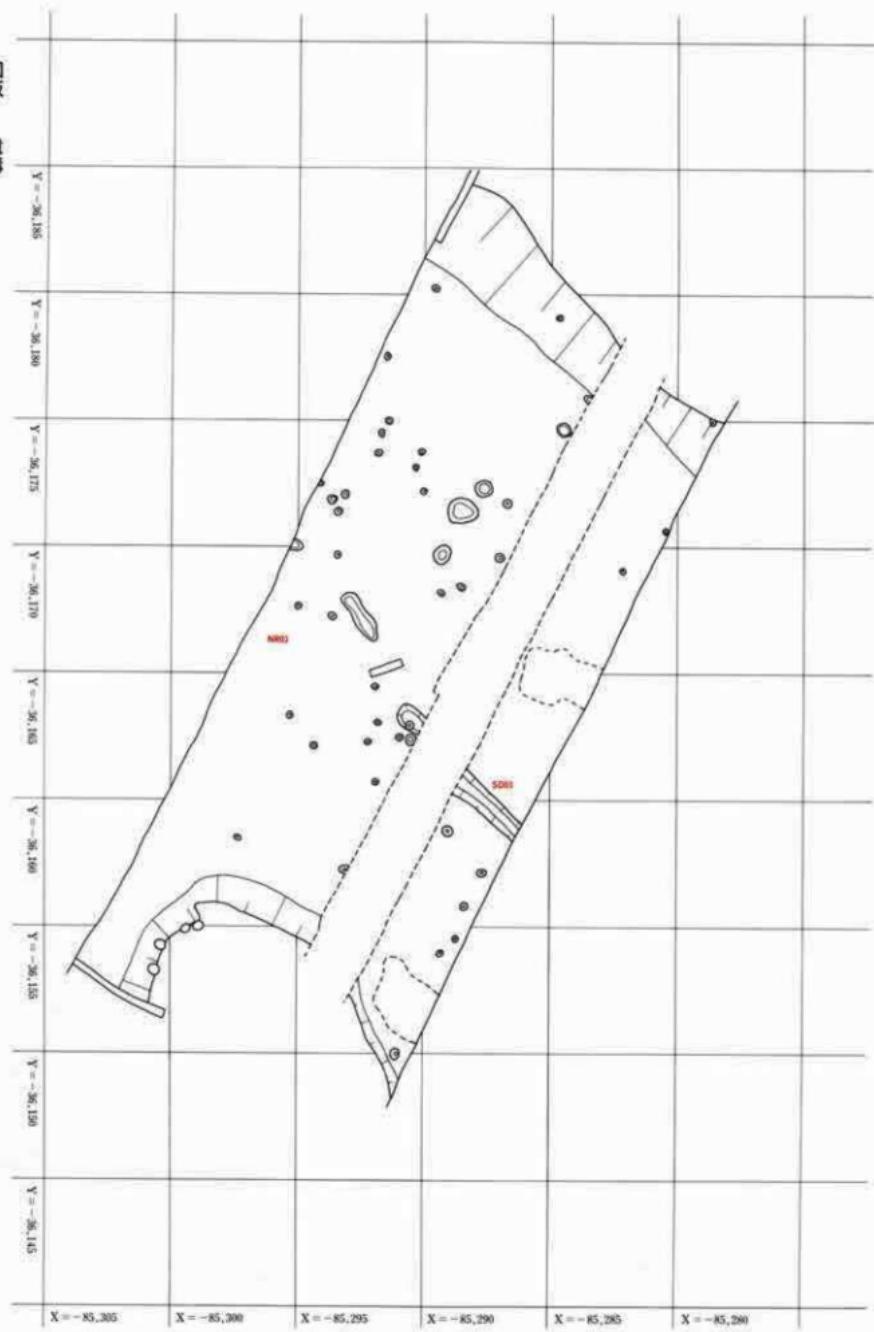
図版7

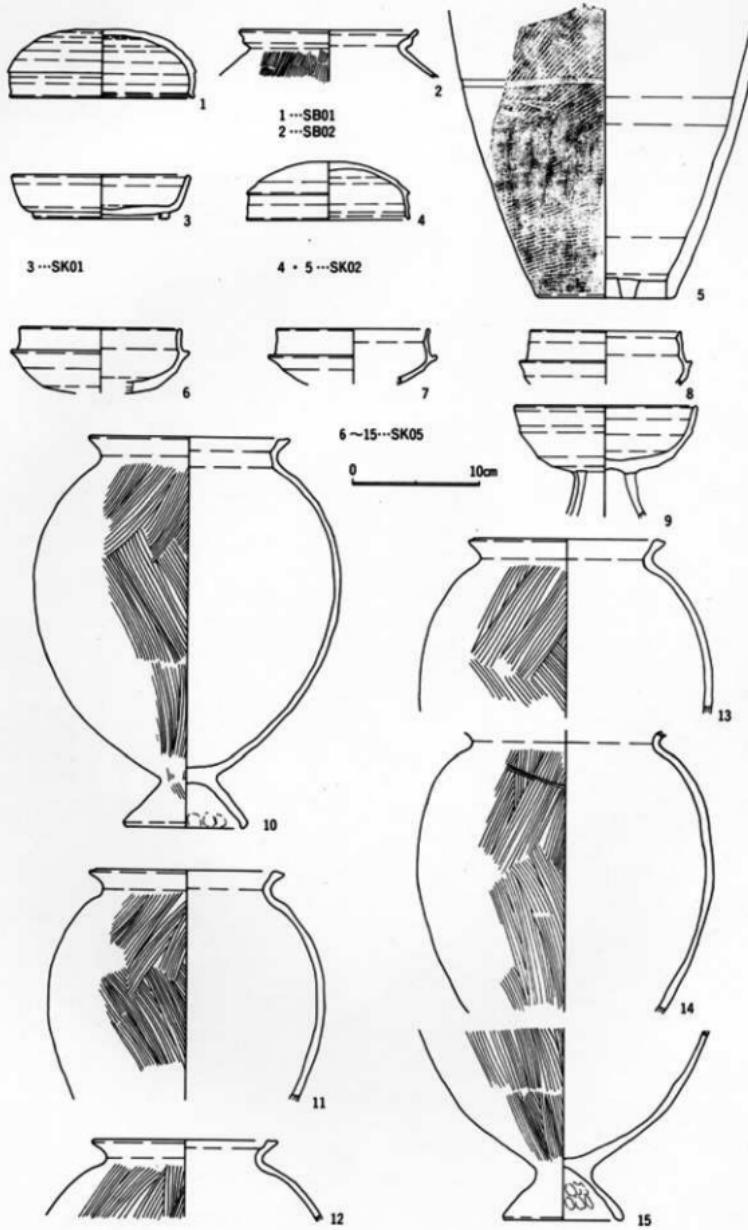
遺構6



図版 8 遺構 7

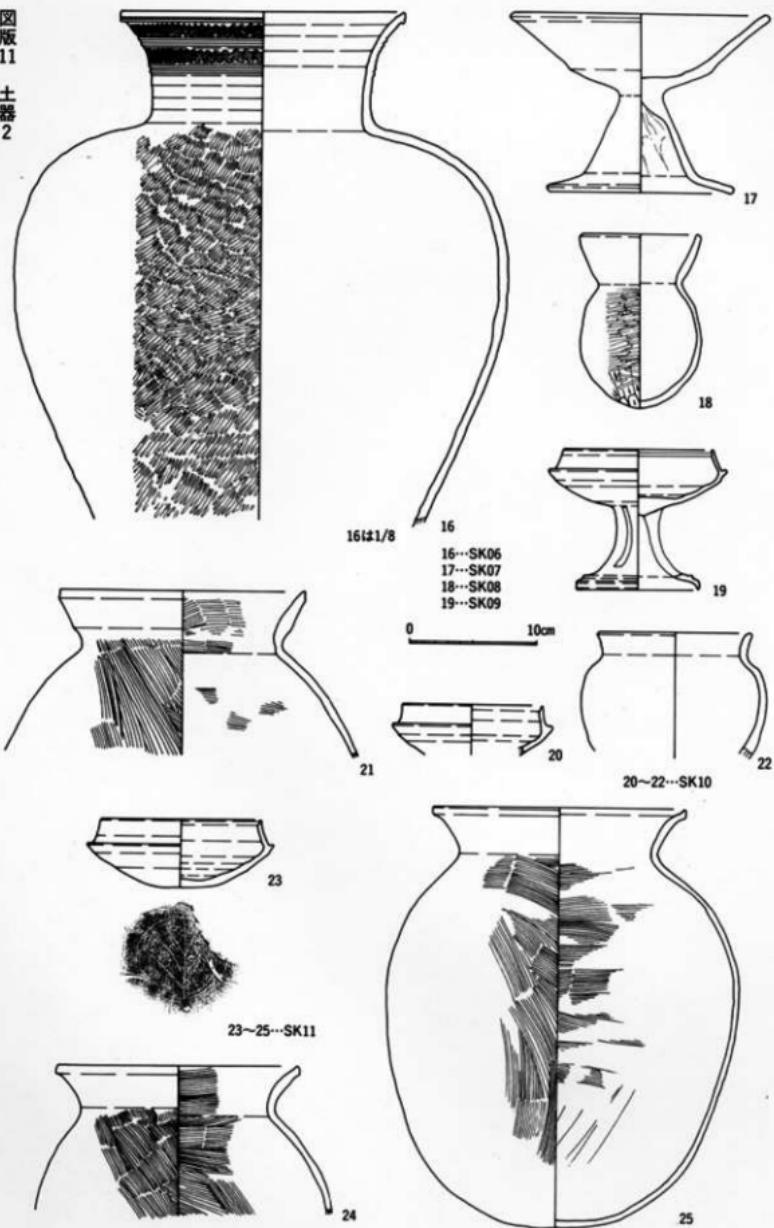






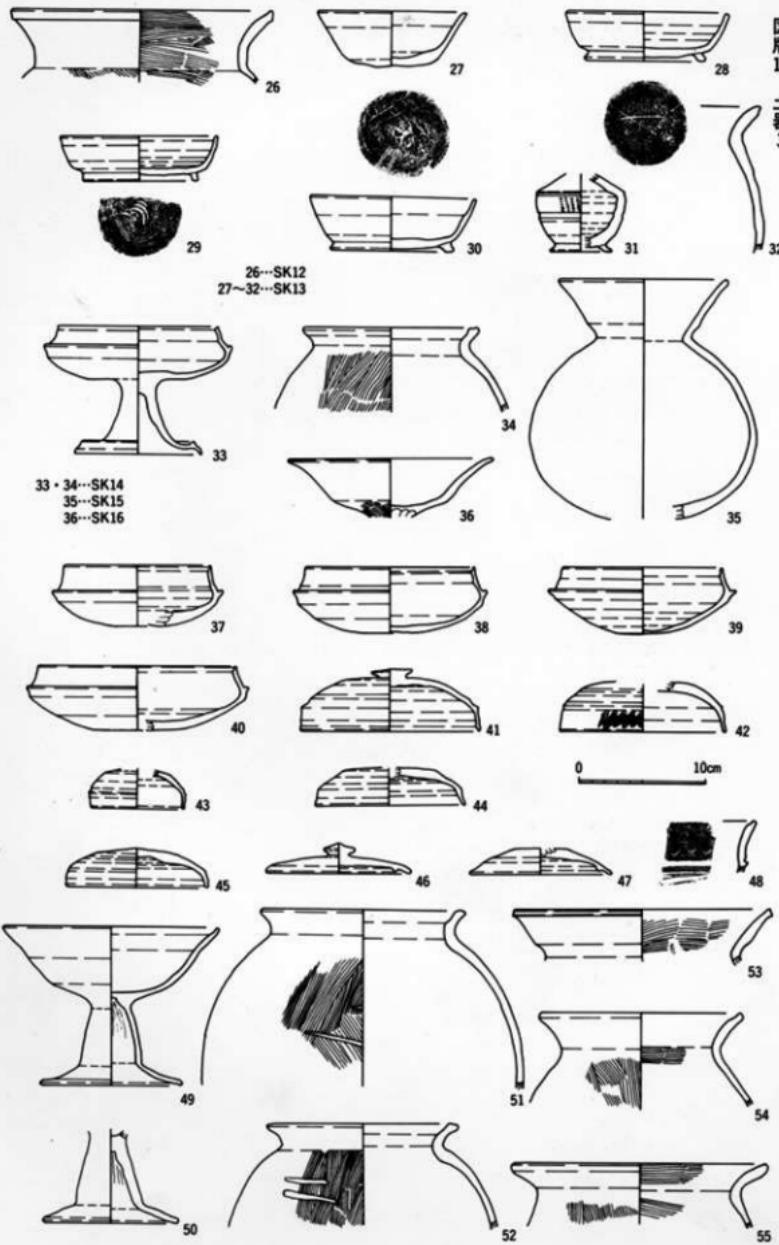
図版
11

土器
2



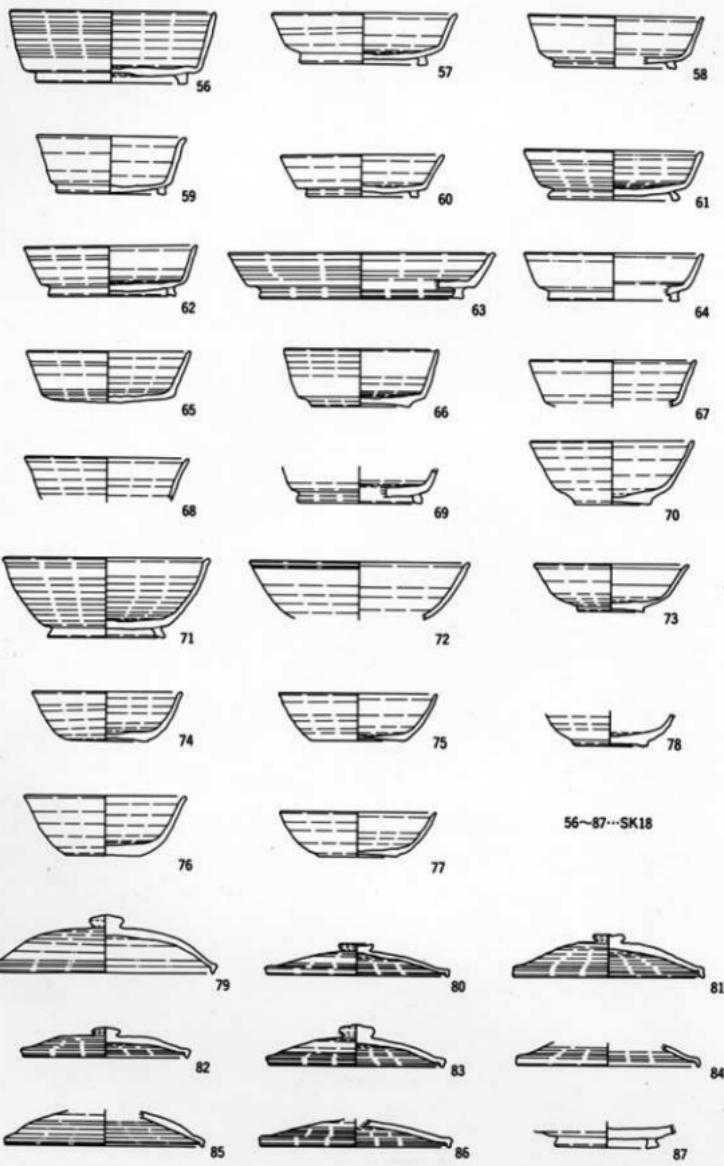
図版 12

土器 3

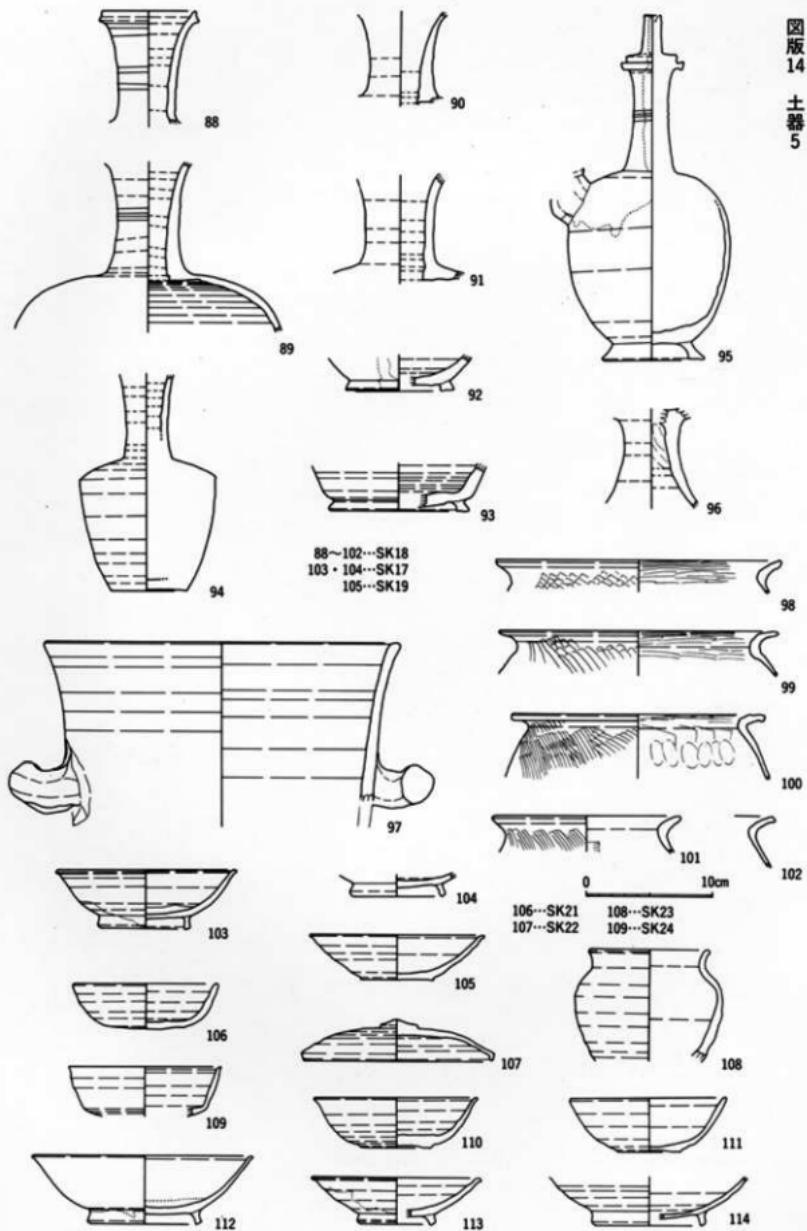


圖版
13

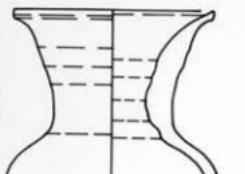
土器 4



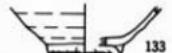
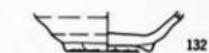
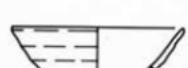
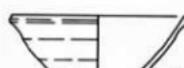
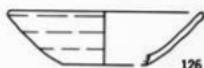
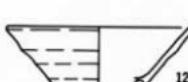
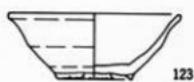
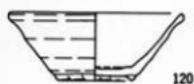
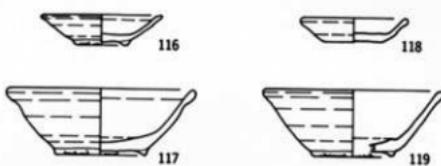
0 10cm



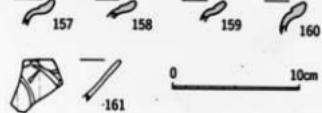
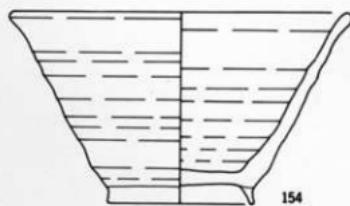
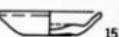
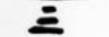
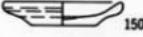
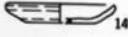
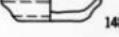
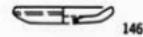
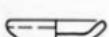
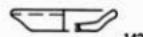
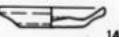
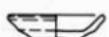
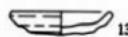
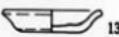
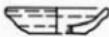
図版
15
土器
6



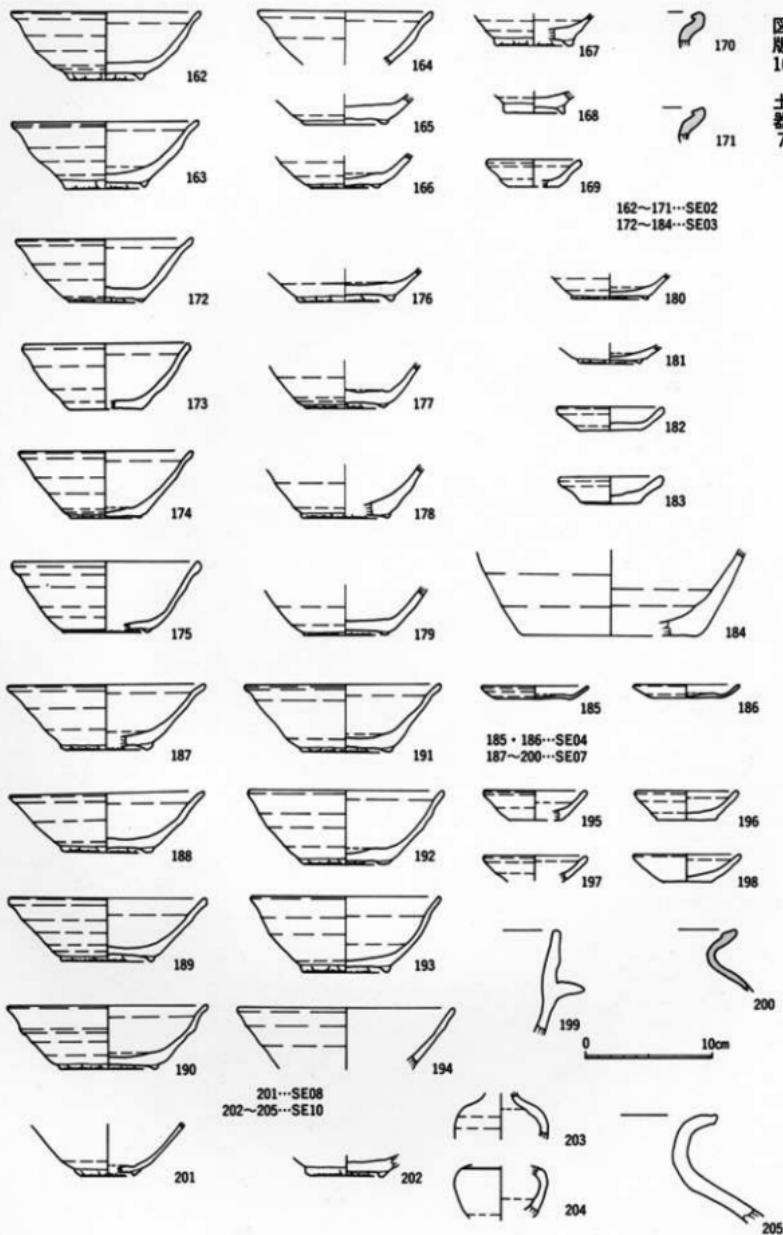
115・116--SB04
117・118--SB06
109--SB07

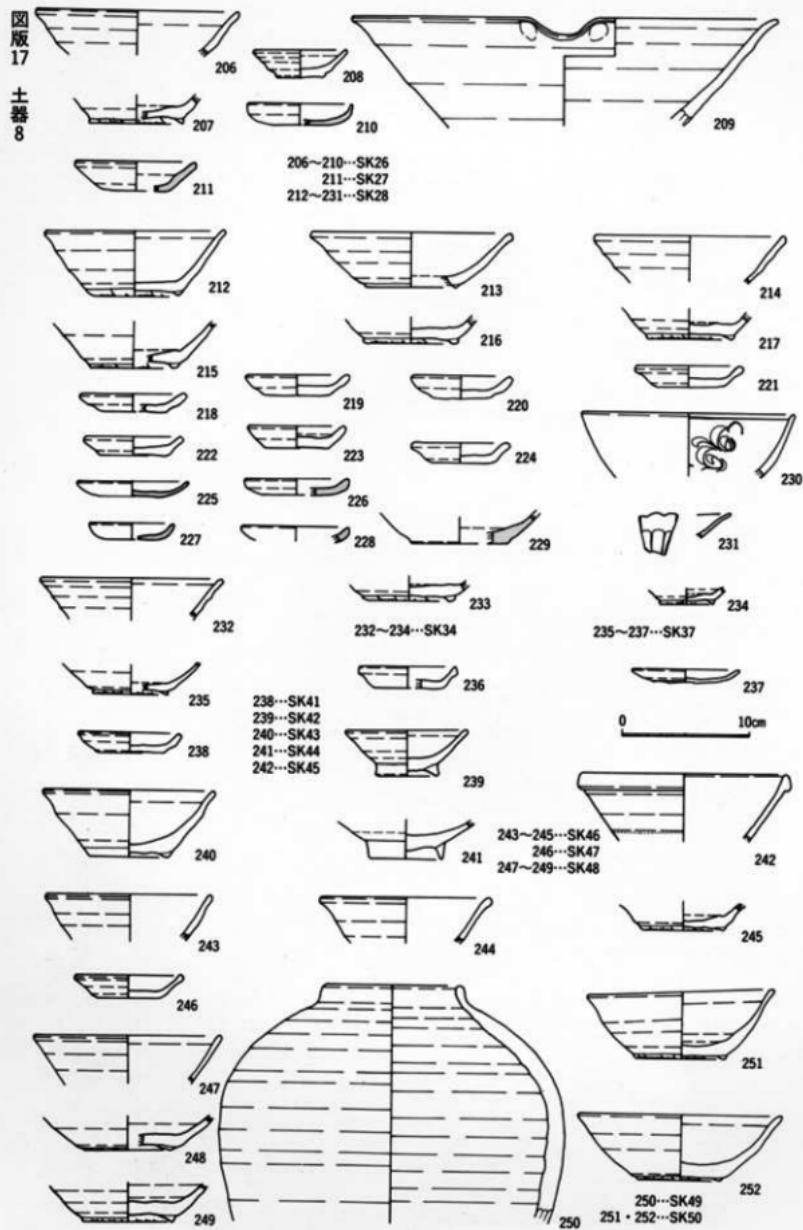


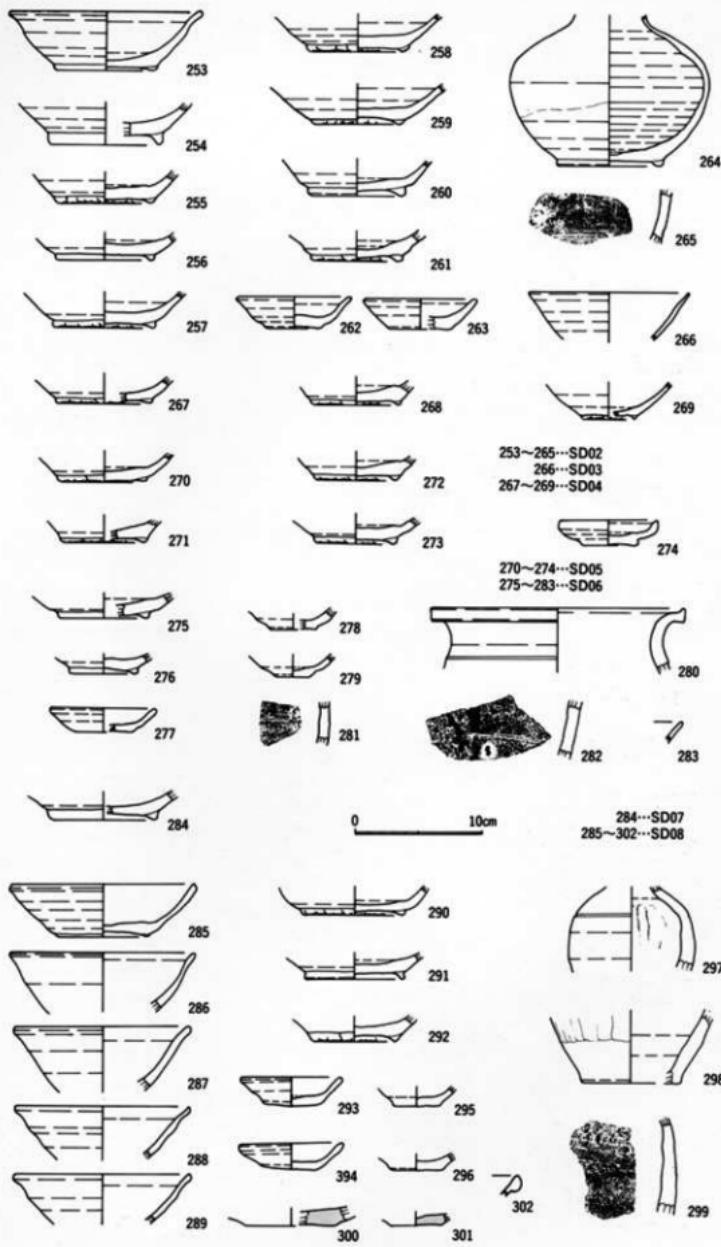
120~161--SE01

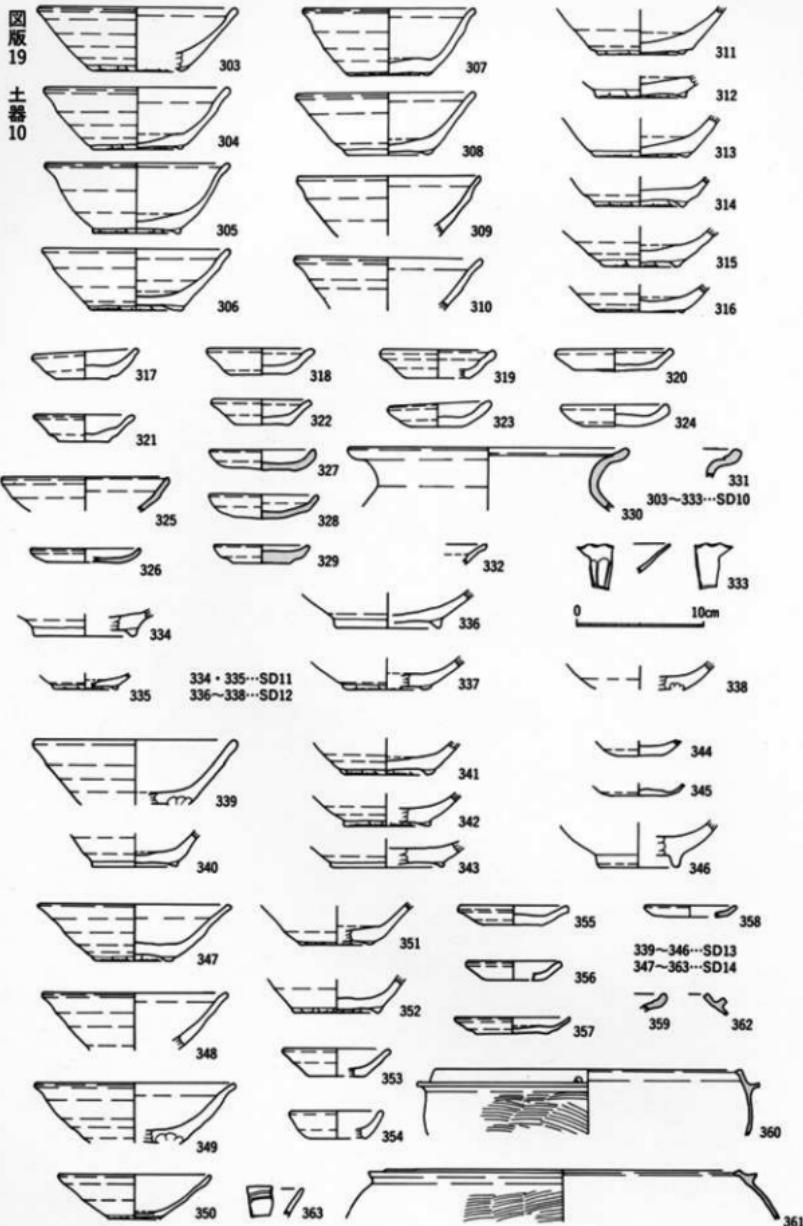


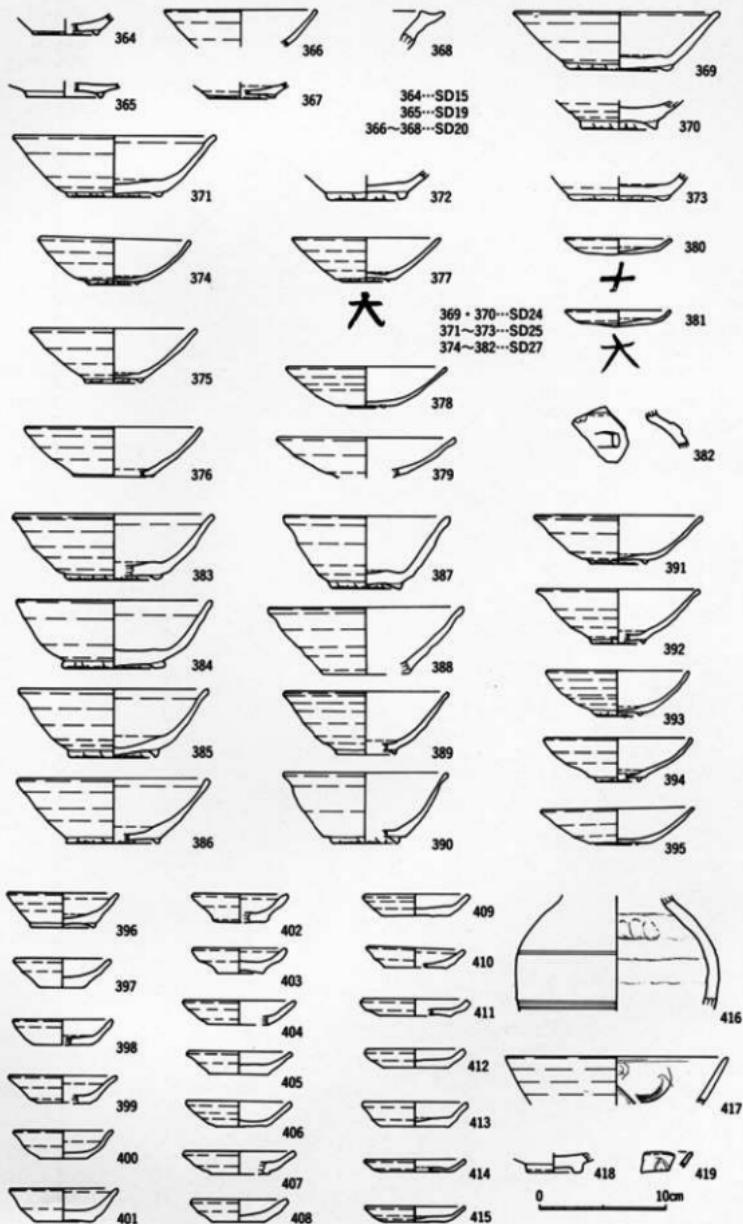
0 10cm











図版21

造構 1



93区全景 東から

93区の全景。中央に多量の出土物をみたSK19(C期)が確認できる。



SD02 東から

93区東部で検出したC期の溝。灰釉系陶器(図版18-253~265)が比較的まとまって出土している。



SK01 東から

93区東部で検出したA期の土坑A。

図版22

遺構 2



A区航空写真

下方に小土坑の集中部分が確認できる。



A区全景 西から

A区の全景。中央の大型土坑は SE01。

図版23

造構 3



SE01 北から

94A区で検出したC期の井戸。写真は井戸桿の近景。



SE01 南から

SE01の井戸桿を側面からみた状態。



SE01 東から

井戸桿の埋土を断ち割った状態。竹状の植物質が直立して検出できた。

SE02 北から

94A区西部で検出したC期の井戸。上面をSD29（D期）により被覆される。



SE02 北から

SE02の断ち割り状況。基底部の井戸枠のみが残存していた。



SD10 東から

94A区中央部で検出したD期の溝。灰釉系陶器（図版19-303～333）が比較的まとまって出土している。



図版25
遺構5



B区航空写真

B区の航空写真。現道との交差点に溝が集中して掘削されていることが確認できる。



NR01 東から

B区で検出された谷。古墳時代のうちに自然埋没している。

図版26
溝構 6



遺物出土状況 東から

B区西側から出土した高杯
(図15-1)。



SK10 西から

94B区西部で検出したA期の
土坑D。土師器甕(図版11-25)
が確認できる。



SK11 北から

94B区西部で検出したA期の
土坑D、SK10の遺物出土状
況。土師器甕(図版11-21)が
確認できる。

図版27

遺構 7



SK06 東から

94B区中央部で検出したII期の土坑C。西側の溝はSDII(C期)。



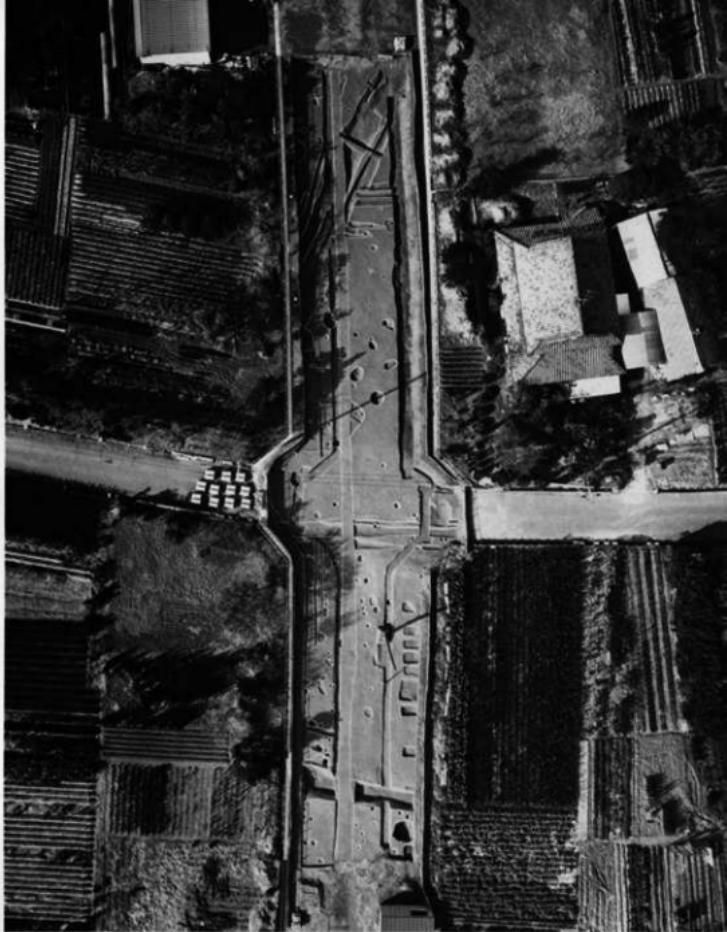
SK06遺物出土状況 北から

SK10の遺物出土状況。須恵器甕(図版11-16)が確認できる。



SK28 南から

94A区東部で検出した土坑A。



C区航空写真



C区全景 西から

C区の全景。手前の溝は
SD38~40 (D期)。

図版29

遺構 9



SK05 東から

94C区中央部で検出した土坑
A。A期の良好な資料（図版
10-6～15）を出土した土坑
A。



SK05遺物出土状況 北から



SK13遺物出土状況 北から

94C区東部で検出した土坑
D。A期の須恵器杯（図版
12-27～30）が集中して出土し
た。

図版30
遺構10



D区航空写真

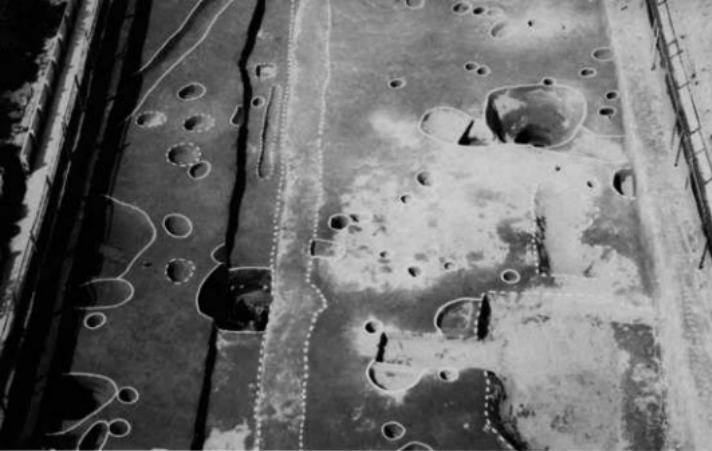


SB02 東から

94D区中央部で検出したA期の整穴住居。

図版31

遺構11



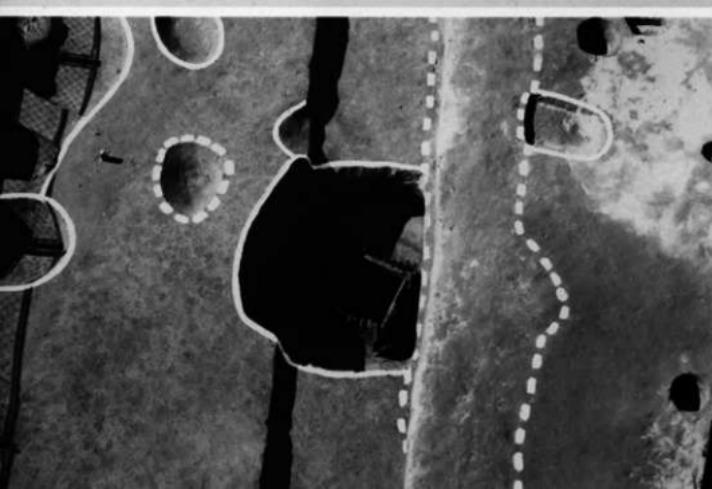
D区東側部分 東から

94D区東側部分の小土坑集中域。左下にSE08、右上にSE07が所在する。



SE07 西から

94D区東部で検出したC期の井戸。



SE08 東から

94D区東部で検出したC期の井戸。

図版32

遺構12

SE09 北から

94D区西部で検出したC期の
井戸。



SE10 東から

94D区西部で検出したC期の
井戸。中央に曲物が残存する。



SD27 北から

94D区西部で検出したC期の
溝。灰釉系陶器（図版
20-374～382）が比較的まと
まって出土している。



圖版33 遺物 1



圖15- 1



5



10



11



15



17



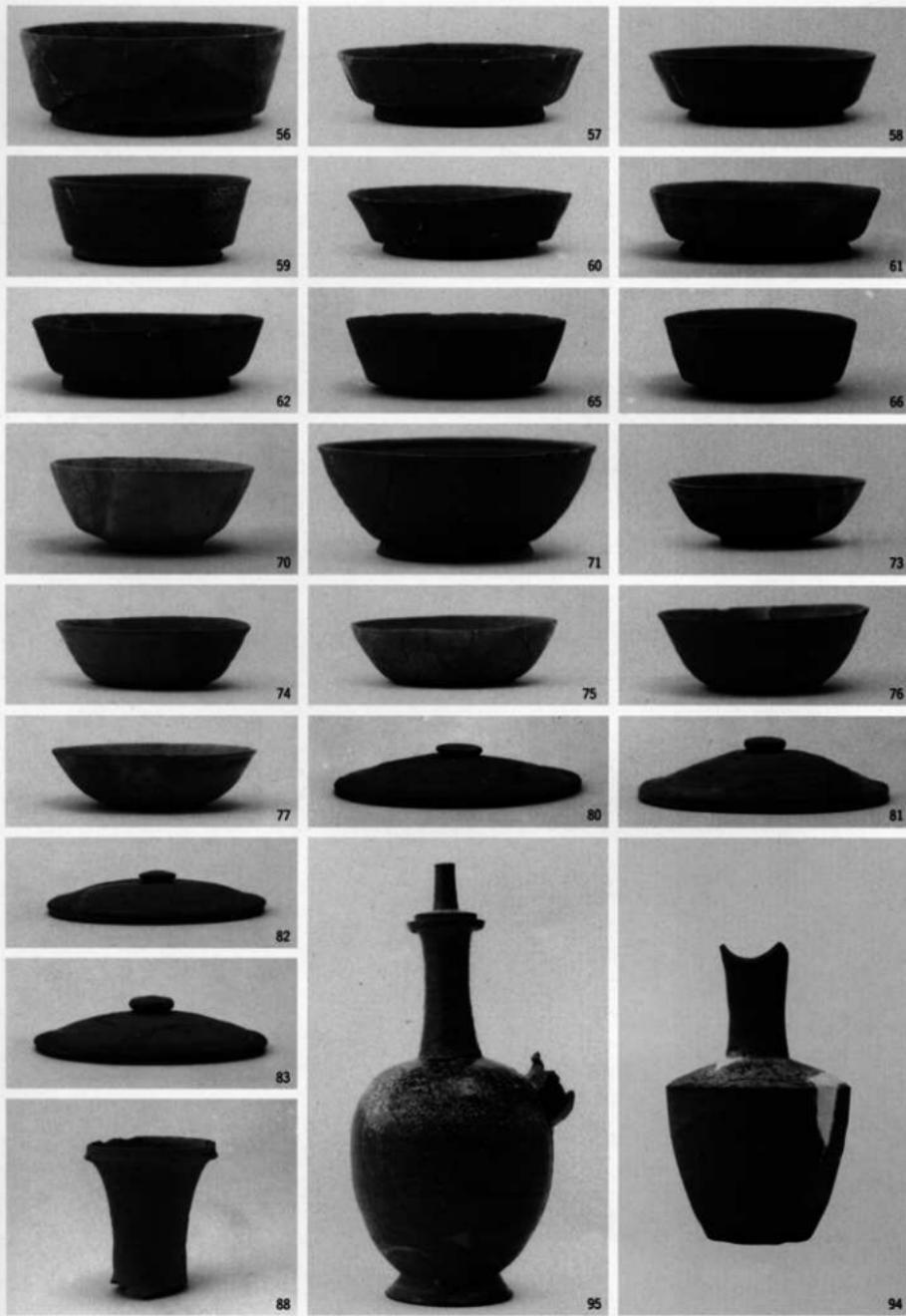
18



19



図版35 遺物 3



図版36 遺物 4



图版37 遗物 5

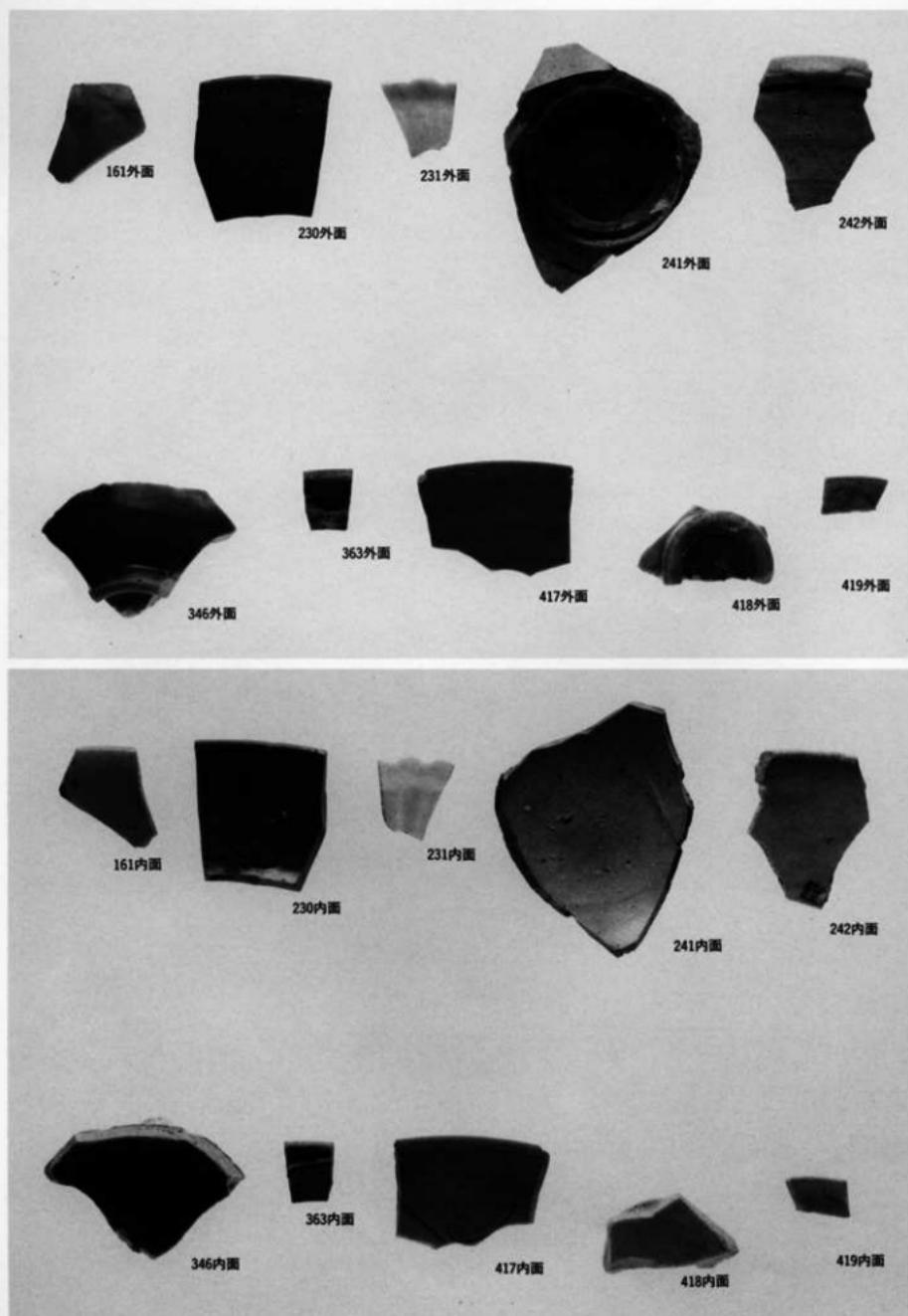




図19-2 外面



図19-2 内面

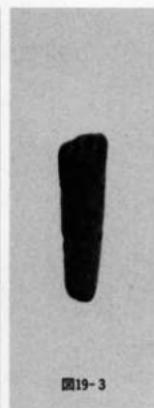


図19-3



図19-4



図19-5



図19-7

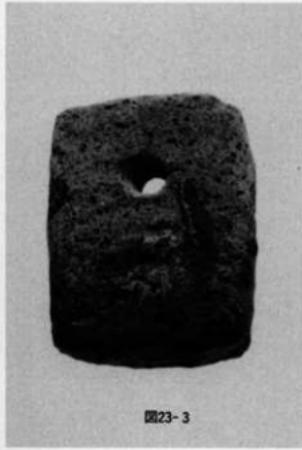


図23-3



図19-10

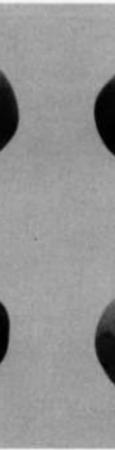


図19-11

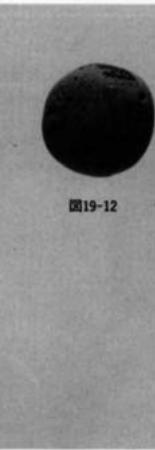


図19-12



図19-13



図19-14

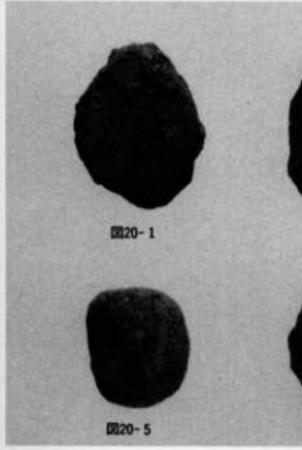


図20-1

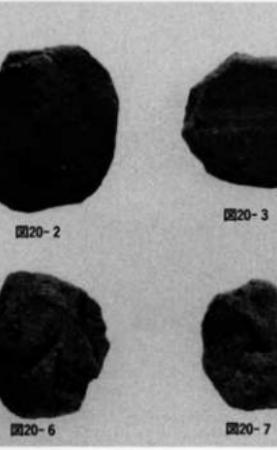


図20-2

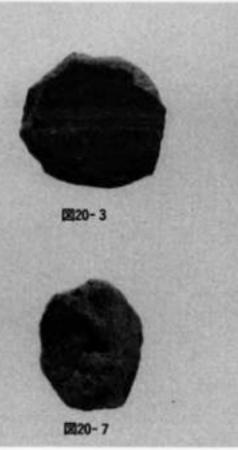


図20-3



図20-4



図20-5



図20-6



図20-7

報告書抄録

| ふりがな | ぎちょうしょうらくじいせき | | | | | | | | |
|---------------|---------------------------------------|---------|------------------|-------------|-----------------------------|--------------------|--|--------------------|------|
| 書名 | 儀長正楽寺遺跡 | | | | | | | | |
| 副書名 | | | | | | | | | |
| 卷次 | | | | | | | | | |
| シリーズ名 | 愛知県埋蔵文化財センター調査報告書 | | | | | | | | |
| シリーズ番号 | 第68集 | | | | | | | | |
| 編著者名 | 池本正明・前田雅彦・水谷寛時・鬼頭剛・水野多栄 | | | | | | | | |
| 編集機関 | 財団法人愛知県埋蔵文化財センター | | | | | | | | |
| 所在地 | 〒498 愛知県海部郡弥富町大字前ヶ須新田 TEL0567-67-4163 | | | | | | | | |
| 発行年月日 | 西暦 1996 年 8 月 30 日 | | | | | | | | |
| ふりがな 所収遺跡名 | ふりがな 所 在 地 | コ ー ド | | 北緯 ° ° ° | 東 綏 ° ° ° | 調査期間 | 調査面積 m ² | 調査原因 | |
| 儀長正楽寺 | 稲沢市儀長町 | 市町村 | 遺跡番号 | 23220 | 35度 9027 9028 9153 | 136度 46分 11秒 | 19940104 19940331 19940901 19950331 | 5630m ² | 道路建設 |
| 所収遺跡名 | 種別 | 主な時代 | 主な遺構 | 主な遺物 | 特記事項 | | | | |
| 儀長正楽寺 | 集落跡 | 古墳時代 | 竪穴住居 土坑 | 須恵器・土師器 | 弥生から江戸までの複合遺跡。 | | | | |
| | | 奈良・平安時代 | 土坑 | 須恵器・灰釉陶器 | 弥生の遺構は検出されていない。 | | | | |
| | | 鎌倉・室町時代 | 掘立柱建物 土坑 溝 | 灰釉系陶器 | | | | | |
| | | 江戸時代 | 溝 | 近世陶磁器 | | | | | |

愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第68集

儀長正樂寺遺跡

1996年8月30日

編集・発行 財團法人
愛知県埋蔵文化財センター

印 刷 西濃印刷株式会社